

岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告

～ 三重県度会郡玉城町岩出所在 ～

2006 (平成18) 年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

大台山系を源にして、伊勢湾に注ぐ宮川は一級河川で国土交通省が行う水質調査で全国一位に挙げられる清流です。その中流域から下流域に至る左岸に位置する玉城町岩出地区は、背後に丘陵地をひかえ、前面の南東側に宮川や神宮林を望む穏やかな風景の地域です。この地域に所在する遺跡は「岩出遺跡群」として認識され、近畿自動車道伊勢線やその関連道路などの建設に伴って平成元年に発掘調査を実施してから平成16年度まで8次にわたって発掘調査が行われてきました。

今回発掘調査報告書として刊行させていただくのは、平成15年及び16年度に実施した一般農道整備事業玉城南部地区に伴う発掘調査で、第5次調査と第7次並びに第8次発掘調査の結果です。

今回の調査では、鎌倉時代を中心に、約130mほど延々と続く溝や掘立柱建物跡をはじめ、中世の岩出集落の様子を伺わせる遺構や多量の遺物など貴重な成果をあげることができました。これらの成果は今後当地域の歴史を解明して行くうえで、重要な資料となるものと言えましょう。

県の埋蔵文化財センターでは、各種の開発事業に伴って発掘調査を実施するばかりでなく、その成果を広く県民の皆様や地域の皆様に公開して、地域の歴史を通じて郷土への愛着心や誇りを持っていただくための一助になればと願っております。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、ご理解とご協力を賜りました地元岩出地区の皆様をはじめ関係各位並びに南勢志摩県民局農水商工部の方々に厚く感謝申し上げます。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例 言

1 本書は、三重県度会郡玉城町岩出地内に属する岩出遺跡群の、第5次、第7次、第8次の発掘調査報告書である。

2 各調査は、平成15年度及び平成16年度の一般農道整備事業玉城南部地区に伴って緊急の発掘調査を実施したものである。

3 調査の体制は以下のとおりである。

〈岩出遺跡群第5次調査〔岩出遺跡群清水地区（第1次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主幹兼G.L. 新田 洋
技師 池本浩弥

調査期間 平成15年10月27日～10月31日

〈岩出遺跡群第7次調査〔岩出遺跡群ケカノ辻地区（第6次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主事 奥野 実
主事 大村伸一

調査期間 平成16年3月2日～3月9日

〈岩出遺跡群第8次調査〔岩出遺跡群清水地区（第2次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主幹 木本勝己
主査 中川 明

調査期間 平成16年5月20日～平成16年8月13日

4 発掘調査の経費は、三重県農水商工部が負担した。

5 本報告書の作成業務は、執筆及び全体編集は木本勝己が担当し、挿図等の作成は木本勝己、中川明が行った。

凡 例

(地図類)

- 1 本報告書で使用した地図類は、国土地理院発行1/25,000地形図、玉城町都市計画図である。
- 2 これらの地図については、国土調査法の日本測地系による座標第VI系（旧国土座標）で表現されているために、平成14年4月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。
- 3 図方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位は西偏約6°30'（平成10年）である。

(遺構類)

- 1 遺構平面図は、測地成果2000に対応している。
- 2 土層断面図は、層の区分を実線で、調査区壁面及び採録深度に相当する部分を一点鎖線で示している。
- 3 土層断面図等の土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帳』（日本色研事業株式会社 1997年）を用いた。
- 4 本報告書の遺構番号は、岩出遺跡群内の過去の発掘からの通算番号にしている。（但し発掘調査があった年度毎に百単位でくりあげた上で、一の位は1から始めている。同年度調査において調査地区が複数の場合は、遺構検出地区を明確にするために欠番もありうる。）
- 5 遺構番号の頭につく略符号は以下を表している。

S B ……掘立柱建物 S A ……柵 S K ……土坑 S D ……溝
S Z ……性格不明遺構 P i t ……ピット（小穴・柱穴）

- 6 遺構一覧表は、以下の要領で記載している。

岩出遺跡群遺構番号…岩出遺跡群内で行われた発掘で検出された遺構の通算番号である。

地区…第8次調査区でのA地区かB地区かを表す。

検出時遺構番号…現地調査で検出時に使っていた仮遺構番号である。

性格…遺構の性格を表す。

出土物時期…遺構から出土した遺物の時期をあらわす。なお、時期区分は、伊藤裕偉氏の南勢地区の中世の時期区分に基づいた³⁾。具体的には以下の時期である。

I期…11世紀第II四半期～12世紀第IV四半期頃

II期…12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃（遺物内容によって前期（IIa期）、後期（IIb期）に分けられる。）

III期…14世紀第II四半期～15世紀第II四半期頃（遺物内容によって前期（IIIa期）、後期（IIIb期）に分けられる。）

IV期…15世紀第III四半期～16世紀第IV四半期頃

小地区番号…遺構の存在した小地区（グリッド）番号である。

長さ・幅・深さ…長さ・幅は、遺構のそれぞれの最長部を、深さは遺構の最深部で計測した数値である。なお、さらに調査区外へ続くと考えられる遺構や途中から減失している等の遺構もあるが、総て調査区内で確認された遺構分の数値である。

備考…その他特にその遺構の特徴となる事柄があれば記した。

(遺物類)

1 本報告書の出土遺物実測図は1/4である。

2 出土遺物観察表は、以下の要領で記載している。

報告番号…出土遺物実測図挿入掲載番号である。

登録番号…実測段階の登録番号である。

器種…遺物の器種を示す。

地区…第8次調査区における遺物の出土地区（A地区かB地区か）を表す。

出土位置…出土時の位置の小区（グリッド）番号である。

出土遺構…出土した遺構（岩出遺跡群内通算遺構番号で表示）である。

取上時遺構名…出土遺構の現地調査時の仮遺構番号である。

法量（cm）…遺物の法量である。「口」は口縁径、「底」は底径、「高台」は高台部径、「鈎」は鈎部径、「穴」は穴部径、「高」は高さ、「長」は長さ、「幅」は幅、「厚」は厚さを示す。なお数値はそれぞれの部位の最大径で内法や実測段階時の置点ではない。

調整・技法の特徴…主な特徴を示した。「内」は内面、「外」は外面を示す。

胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを、「密」「やや密」「やや粗」「粗」で示した。

焼成…焼成の度合いを表す（並か良か）

色調…その遺物の色調を記載した。表記は前記『新版標準土色帳』による。

残存度…ある部位を12分割した際の残存度をもとに求めた残存割合である。全体が完全に残っているものは「完存」、ある部位が完全に残っているものは「高台完存」などと記した。

備考…その他特にその遺物の特徴となる事柄があれば記した。

(写真図版)

1 出土遺物の写真図版の番号は、出土遺物実測図挿入掲載番号（出土遺物観察表報告番号）と対応している。

2 出土遺物の写真図版は、縮尺不同である。

[註]

- ① 伊藤裕偉「楠ノ木遺跡」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第3分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992）及び、伊藤裕偉「岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会部玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査」（三重県埋蔵文化財センター 1996）

本文目次

| | | |
|-----|--------------|----|
| I | 前言 | 1 |
| 1 | 調査の契機 | 1 |
| 2 | 調査の経過（第8次調査） | 1 |
| 3 | 調査の方法（第8次調査） | 2 |
| II | 位置と環境 | 7 |
| 1 | 位置と地形 | 7 |
| 2 | 歴史的環境 | 7 |
| III | 層序と遺構（第8次調査） | 9 |
| 1 | 層序 | 9 |
| 2 | 遺構 | 9 |
| IV | 遺物（第8次調査） | 24 |
| V | 第5次調査 | 43 |
| 1 | 調査の経過と方法 | 43 |
| 2 | 調査の成果 | 43 |
| VI | 第7次調査 | 45 |
| 1 | 調査の経過と方法 | 45 |
| 2 | 調査の成果 | 45 |
| VII | 結語 | 48 |
| 1 | SD701について | 48 |
| 2 | 掘立柱建物、柵について | 48 |
| 3 | 遺物について | 49 |
| 4 | 岩田中世集落について | 50 |

挿図目次

| | | |
|------|---------------------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 4 |
| 第2図 | 岩田遺跡群遺跡範囲図 | 5 |
| 第3図 | 調査区位置図・範囲確認調査試掘坑配置図 | 6 |
| 第4図 | A地区遺構平面図 | 12 |
| 第5図 | B地区遺構平面図（1） | 13 |
| 第6図 | B地区遺構平面図（2） | 14 |
| 第7図 | 土層断面図（1） | 15 |
| 第8図 | 土層断面図（2） | 16 |
| 第9図 | SD701各部断面図 | 20 |
| 第10図 | 各土坑断面図 | 21 |
| 第11図 | 掘立柱建物、柵平面図・断面図 | 22 |
| 第12図 | 遺物出土状況図 | 23 |
| 第13図 | 出土遺物実測図（1） | 25 |
| 第14図 | 出土遺物実測図（2） | 26 |
| 第15図 | 出土遺物実測図（3） | 27 |
| 第16図 | 出土遺物実測図（4） | 28 |
| 第17図 | 出土遺物実測図（5） | 29 |

| | | |
|------|-------------------------|----|
| 第18图 | 出土遺物実測図 (6) | 30 |
| 第19图 | 出土遺物実測図 (7) | 31 |
| 第20图 | 出土遺物実測図 (8) | 32 |
| 第21图 | 出土遺物実測図 (9) | 33 |
| 第22图 | 出土遺物実測図 (10) | 34 |
| 第23图 | 出土遺物実測図 (11) | 35 |
| 第24图 | 出土遺物実測図 (12) | 43 |
| 第25图 | 第5次調査区遺構平面図・土層断面図 | 44 |
| 第26图 | 出土遺物実測図 (13) | 46 |
| 第27图 | 第7次調査区遺構平面図・土層断面図 | 47 |

表 目 次

| | | |
|------|-------------------|----|
| 第1表 | 遺構一覧表 (1) | 17 |
| 第2表 | 遺構一覧表 (2) | 18 |
| 第3表 | 遺構一覧表 (3) | 19 |
| 第4表 | 出土遺物観察表 (1) | 36 |
| 第5表 | 出土遺物観察表 (2) | 37 |
| 第6表 | 出土遺物観察表 (3) | 38 |
| 第7表 | 出土遺物観察表 (4) | 39 |
| 第8表 | 出土遺物観察表 (5) | 40 |
| 第9表 | 出土遺物観察表 (6) | 41 |
| 第10表 | 出土遺物観察表 (7) | 42 |
| 第11表 | 出土遺物観察表 (8) | 44 |
| 第12表 | 出土遺物観察表 (9) | 46 |
| 第13表 | 第8次調査区土器組成 | 49 |
| 第14表 | 大溝SD701土器組成 | 49 |

写真図版目次

| | | |
|------|-----------------------------|----|
| 図版1 | 第8次調査区 (1) | 53 |
| 図版2 | 第8次調査区 (2) | 54 |
| 図版3 | 第8次調査区各遺構 (1) | 55 |
| 図版4 | 第8次調査区各遺構 (2) | 56 |
| 図版5 | 第8次調査区各遺構 (3) | 57 |
| 図版6 | 第8次調査区各遺構 (4) | 58 |
| 図版7 | 第8次調査区各遺構 (5) ・第7次調査区 | 59 |
| 図版8 | 第8次調査区出土遺物 (1) | 60 |
| 図版9 | 第8次調査区出土遺物 (2) | 61 |
| 図版10 | 第8次調査区出土遺物 (3) | 62 |
| 図版11 | 第8次調査区出土遺物 (4) | 63 |
| 図版12 | 第8次調査区出土遺物 (5) | 64 |
| 図版13 | 第5次・第7次調査区出土遺物 | 65 |

I 前 言

1 調査の契機

岩出遺跡群は、行政上は度会郡玉城町岩出に所在する。玉城町遺跡番号は302である。

岩出遺跡群の過去の発掘調査については、近畿自動車道（勢和～伊勢）建設に関わり、平成元年度には、岩出遺跡群第1次調査が所り垣地区で行われた。また同じくこの年度には、岩出遺跡群第2次調査が左郡地区で行われた⁵⁾。

さらに、県道岩出新田線建設に関わり、平成2年度には岩出遺跡群第3次調査がケカノ辻・角垣内地区で、また平成4年度には岩出遺跡群第4次調査が蚊山地区で行われた⁶⁾。

以後の当遺跡群にも関わる道路建設事業については、農産物収穫輸送等を円滑にすることによる農業振興の必要性から一般農道整備事業玉城南部地区による新農道の建設が行われてきていたが、平成15年度以降はその最終地点として岩出地内の北西部にまで及ぶこととなった。そこで、平成15年度と平成16年度の同事業に関わって緊急発掘調査の必要性が生じた。

平成15年7月10日・11日には、同字清水地区において範囲確認調査を行った。道路建設予定地に8ヶ所の試掘坑を開けて調査した結果は、事業地内1,830mに平安時代末～鎌倉時代前半にかけての遺構が検出された。そこで、当事業の主体者である三重県農水商工部南勢志摩県民局農林水産商工部と当センターで協議を行った。その結果、道路建設による現状変更に伴う部分の遺跡記録保存のための緊急発掘調査が、2回に分けて行われることになった。

まず、第1回目の調査（岩出遺跡群第5次調査）

が平成15年の10月27日～31日に行われた。最終調査面積は100m²である。

平成15年11月7日には、前述の前回範囲確認調査の延長上にあたるケカノ辻地区の一般農道整備事業予定地内で新たな範囲確認調査（岩出遺跡群第6次調査）を行った。試掘坑を4ヶ所設定して調査した結果は、現表土以下の土層は、砂利採集及び南勢水道水道管理設のために攪乱されていて遺構・遺物ともなかった。この結果、試掘対象範囲の980m²は本発掘調査の必要性はなく工事に差し支えないと判断したが、但し工事中新たな埋蔵文化財が発見されたときは工事を中断し当センターに連絡するように、同事業主体者に通知した。

さらに、平成16年2月2日にも、ケカノ辻地区の一般農道整備事業予定地内に試掘坑を1ヶ所を設定して範囲確認調査を行った。この結果、平安時代末から鎌倉時代前半を中心とした遺構が存在することが明らかになり、300m²が保存対象になった。そこで同事業主体者と協議した結果、道路建設での現状変更部分の、遺跡の記録保存のための発掘調査が早急に必要になり、平成16年3月2日～3月9日まで岩出遺跡群第7次調査として行われた。最終調査面積は、65m²である。

平成16年度には、平成15年7月の範囲確認調査の結果から残されていた第2回目の調査が、大規模な発掘調査として平成16年5月20日～8月13日まで清水地区で行われた。最終調査面積は、1,645m²である。これが、岩出遺跡群第8次調査である。

2 調査の経過（第8次調査）

(1) 調査の経過

調査区は東西2地区に分かれており、調査は6月から西側のA地区の調査から開始した。A地区は遺構密度も比較的薄かったので、6月下旬にはB地区

の調査に入った。この発掘調査地区と極めて近い位置にある過去の岩出遺跡群第3次調査の結果や、この調査の契機となった平成15年7月の範囲確認調査での試掘の結果から遺構密度は高いと予想された

が、特に調査面積の広いB地区では当初の予想通り高い密度で遺構を検出した。

さらに、B地区では、この地区の南北に端から端まで通る大溝（SD701）が検出され、その掘削に予想以上の期間がかかり、当初予定よりも半月ほど調査期間が延び、8月13日にすべて終了した。

以下、発掘調査の経過を調査日誌等により辿る。

- 6月2日 A地区で重機による抜根作業、表土掘削開始。
- 6月7日 作業員10名で作業スタート。
- 6月9日 包含層掘削開始。
- 6月10日 A地区東半分で人力による遺構検出掘削開始。B地区で、重機による表土掘削開始。
- 6月18日 ローリングタワーによるA地区東側半分全景写真撮影（完掘状態）
- 6月23日 B地区中間部分で遺構検出・掘削開始
- 6月26日 A地区西側部分で遺構検出掘削開始・個別遺構実測図作成（29日・7月7日・8日・9日も）
- 7月2日 ローリングタワーによるA地区全景写真撮影（完掘状態）
- 7月5日 A地区壁面土層写真撮影（～7日）
- 7月7日 B地区西側部分で遺構検出・掘削開始
- 7月8日 B地区個別遺構実測図作成（20日・21日・22日も）
- 7月9日 A地区遺構平面実測図作成（12日、14日も）
B地区東側部分で遺構検出・掘削開始
- 7月12日 B地区個別遺構写真撮影（23日・27日も）
- 7月13日 A地区土層断面実測図作成（22日、29日も）
- 7月26日 ラジコンヘリによるA・B両地区全景の空中写真撮影（完掘状態） ローリングタワーによるB地区全景写真撮影（完掘状態） 現場撤収作業

7月27日 B地区の遺構平面実測図作成（28日・29日も）

7月29日 B地区土層断面実測図作成 壁面土層写真撮影

8月13日 現地引渡し、調査期間終了

なお現地調査については、下記の作業員の方々のご参加により、恙なく進行し終了することができた。ここにご芳名を記し感謝の意を表したい。

（現地調査作業員）

小林 仁、中川源吉、高木洋惣治郎、松本六太郎
森本虎喜、松田敏己、岩崎武雄、深堀俊明
沖塚克司、酒井光広、西堀友子、岩崎ひろ子
池山昌子、池山多恵子、中川はな子、吉中貞利
西田忠司、米山博茂、中村 功、竹内重雄
川又一雄、中村辰雄、坂本利文、矢本勝敏
佐田淳子、中村 桂、橋本敏孝（順不同、敬称略）

(2) 当発掘調査にかかる普及・公開

当発掘にかかる普及・公開事業のために、次の広報を発行した。

・「岩出遺跡群発掘調査ニュース1」（2004年5月発行 岩出・中角両地区全戸回覧）

・「岩出遺跡群発掘調査ニュース2」（2004年7月発行 岩出・中角両地区全戸回覧）

(3) 文化財保護法による諸通知

文化財保護法（以下法）等による諸通知は、以下により行っている。

・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長あて）

平成15年10月8日付け券農第9-39号

・法第58条の2第1項（県教育長あて）

平成16年5月25日付け教理第74号

・遺物紛失にかかる文化財発見・認定通知（伊勢警察署長あて）

平成16年9月7日付け教理第4号の5

3 調査の方法（第8次調査）

(1) 調査区の設定

調査区は道路建設予定地という関係上等より、南北に細長い2つの調査区が設定された。西側をA地

区、東側をB地区とした。

調査では、両地区内それぞれを杭により4m正方形の柵目で区切ることにより小地区（グリッド）単位

であらわした。B地区は、東西方向がアラビア数字で東から西へ1・2・3・・・38、南北方向がアルファベット（大文字）で、南から北へB・C・Dとして、1Bグリッド、1Cグリッド・・・というようにしていった。

また、A地区については、東西方向がアラビア数字で東から西へ51・52・53・・・65、南北方向がアルファベット（大文字）で、南から北へA・B・C・Dとして、51Bグリッド、51Cグリッド・・・というようにしていった。

アラビア数字の39～50番を欠番にしたのと、B地区から附番したのは、両調査区の位置形状や調査計画上の理由による。なお、A地区とB地区のグリッド割りは座標軸とは無関係のそれぞれ任意のものである。

(2) 掘削の方法

A地区の掘削は、表土の運搬上より、東側から着手して西側へと進めていった。表土は重機で掘削し、包含層から遺構検出までと、各遺構掘削は人力で行った。

B地区は調査区の形状より作業能率上、中間部分、西側部分、東側部分という順に進めていった。

表土掘削は重機で行い、包含層も出土遺物の密度が大変少なかったため、重機で行っていった。遺構として大溝（SD701）が検出されたので、この溝にトレンチを入れた結果、上層部は重機できると判断し重機掘削を行っていったが、下層部と溝壁面は人力掘削を行った。B地区の他の各遺構検出については、人力掘削を行った。

(3) 出土遺物の回収

出土遺物は取り上げに際し、専用ラベルに出土地区、出土グリッド、出土遺構名、出土年月日を記入したものを添えた。

(4) 図面作成について

遺構検出段階で1/40の略測図（遺構カード）を作成し、これをもとに1/100の遺構平面略図を作成した。

掘削完了後には、遺構平面実測図、および土層断面実測図は1/20で作成し、個別遺構実測図は1/

20で、遺物出土状況は1/10で作成した。

(5) 遺構写真について

各地区の全景写真は4×5版ウィスタカメラと補助として35mmカメラも使い撮影した。撮影方法としてはローリングタワーによる撮影の他、4×5版ウィスタカメラを搭載したラジコンヘリによる撮影も行った。個別遺構写真は4×5版ウィスタカメラと35mmカメラを併用して撮影した。フィルムはモノクロとカラーリバーサルを用いた。

(6) 整理作業とその方法

① 遺物類の整理、記録

現地で出土した遺物は当センターへ搬送後、洗浄・注記・接合作業を行った。

平成16年度中に発掘調査の報告書掲載遺物と参考遺物、未掲載遺物の区別をし、報告書掲載遺物・参考遺物については実測作業を行った。

実測図が完成した遺物は、報告書作成のための観察や図版作成を平成16年度中に行い、写真撮影は平成17年度になってから行った。

遺物写真は、報告書掲載資料の中から主だったものを選び、4×5版（ウィスタカメラ）で撮影した。

報告書掲載遺物と参考遺物については、一点一点専用ラベルを添付し、報告書掲載遺物については報告番号順にも整理した。両遺物とも今後の活用にも備えるために当センター内の収蔵スペースで保管している。未掲載遺物については袋詰めにして整理箱に収納し専用収蔵庫へと搬入した。

② 発掘記録類の保管

発掘作業の記録類には、調査関連図面（遺構平面実測図、土層断面実測図、個別遺構実測図など）、遺構カード（1/40縮尺）、調査日誌、写真類、出土遺物実測図がある。これらは所定の番号を与え当センターで保管している。

(7) 遺跡名称について

岩出地区内の遺跡に関しては、過去には蚊山遺跡として報告書が刊行されたが、岩出地区にある遺跡が地区全域に広がっていることと、遺跡が時代的にも複合的にわたることから、1996年当センター発行の報告書『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会部

玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査一」以降は、遺跡名称を次のようにして整理して把握することとなった。

(岩出地区内遺跡群)

岩出遺跡群角垣内地区 (旧石器)

左部古墳群 (古墳)

岩出遺跡群 (中世～近世)

岩出城跡・岩出城下町跡 (近世初頭)

したがって、中世の遺構・遺物が中心の今回の発掘に関わる遺跡は、上記の「岩出遺跡群 (中世～近世)」に属する。

今回の報告書で扱った発掘調査名は、岩出遺跡群内の発掘調査通算回数によるが、「例言」には、小字名とその小字内での発掘調査通算回数に基づいた発掘調査名称もそえた。

なお、岩出遺跡群内の発掘は、同一遺跡内という

ことで研究上の観点から、遺構番号は発掘のあった年度ごとに通算して表す (但し新たな調査では、次の百番台にくりあげて1から附番する) ことにしている。

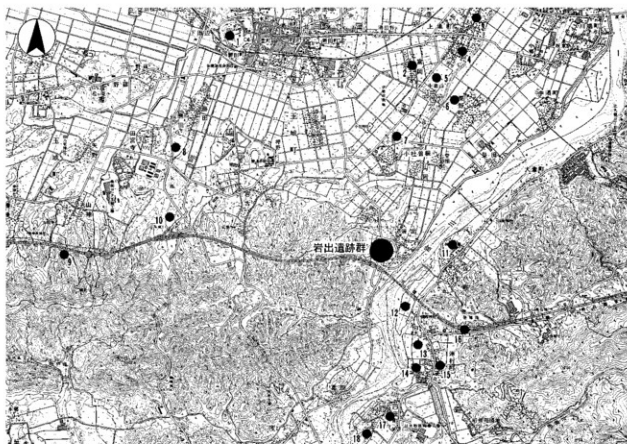
(註)

① 当遺跡が蚊山遺跡と呼ばれていた頃の調査で、報告書は以下である。

・ 稲本賢治ほか「蚊山遺跡所り垣地区」(『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告』第4分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992)

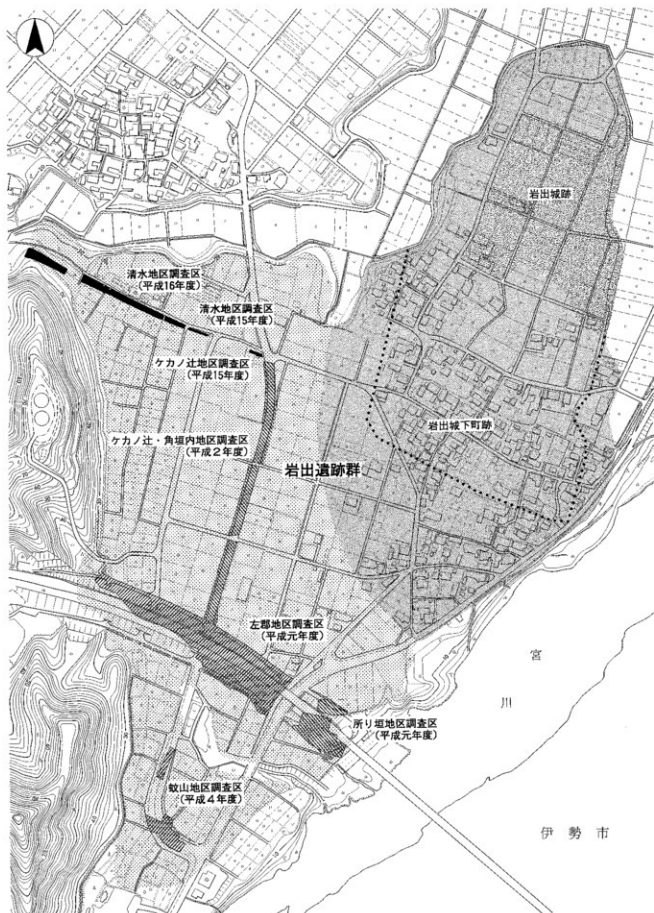
・ 前川嘉宏ほか「蚊山遺跡左部地区」(『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993)

② 伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査-三重県埋蔵文化財センター 1996

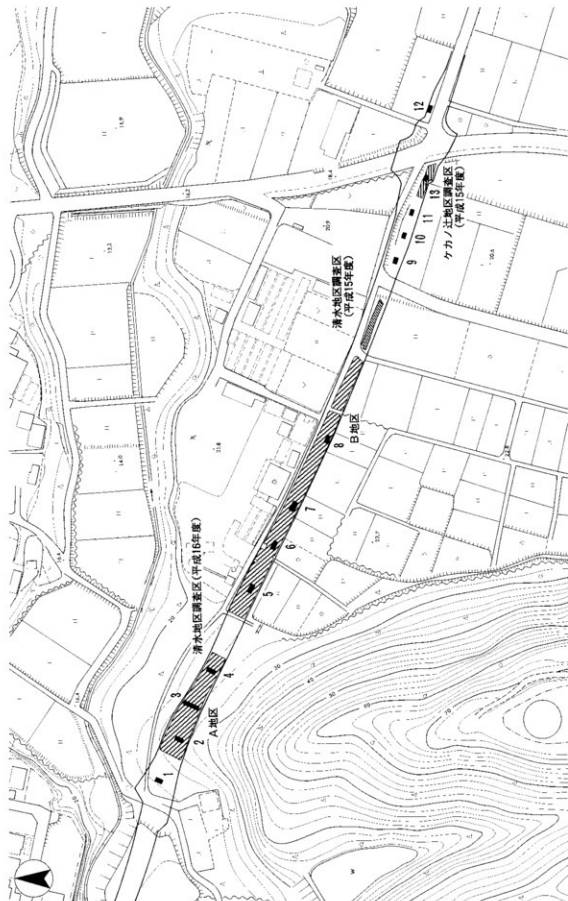


- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|
| 1 田丸城跡 | 2 富阿里浦遺跡 | 3 下通遺跡 | 4 上通遺跡 | 5 中栗山遺跡 | 6 汁谷川東遺跡 |
| 7 小社遺跡 | 8 上の山遺跡 | 9 山神遺跡 | 10 楠ノ木遺跡 | 11 佐八藤波遺跡 | 12 中ノ垣外遺跡 |
| 13 中新田遺跡 | 14 西垣内遺跡 | 15 北垣内遺跡 | 16 落合古墳群 | 17 中道遺跡 | 18 塚の上遺跡 |

第1図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院「伊勢」・「国東山」1:25,000より) 岩出遺跡群以外の●は周辺の主な遺跡



第2図 岩出遺跡群遺跡範囲図(1 : 5,000) ……は地籍図から想定される岩出城外郭(土塁・堀) 調査区は各年度本調査区



第3図 調査区位置図・範囲確認調査試掘坑配置図 (1:2,000)

中央調査区に引いて通る路線(一)は、一般道路整備事業玉城南部地区での道路建設のための事業地境界線を表す。

- 1~8 平成15年7月10日・11日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置
- 9~12 平成15年11月7日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置
- 13 平成16年2月2日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置

II 位置と環境

1 位置と地形

一級河川である宮川は、三重県と奈良県の県境にある大台ヶ原（1,695m）を源流とし、多気郡、度会郡の山間部を南西から北東方向へとゆるやかな蛇行で流れて、度会郡玉城町岩出付近で伊勢平野南端部に出る。岩出地区は宮川河口からは約11km上流の宮川左岸にあり、愛宕山山裾から続く、標高20m前後の河岸段丘上にある。

このあたりは、東西に走る大断層である中央構造線が北側に近接して通る。地下基盤は片理がよく発

達した緑色片岩でその上に黄褐色～黄橙色の地山土があり、さらに黒色シルト（黒ボク）が堆積している。

近辺には昔から集中豪雨での宮川の氾濫による被害を被ってきた地域も多いが、この岩出地区は標高的にその被害を免れる位置にあり、また農耕にも適した地形と土壌を持つことから人々の定住には適していたといえる。

2 歴史的環境

(1) 各時代の遺構・遺物

岩出地区からは、過去の発掘などから旧石器時代～近世にわたる遺物、古墳時代、中世の遺構と、豊富な遺物、遺構が出ている。各時代ごとにそれらの概要を述べる。

旧石器時代の遺物としては、角垣内地区からナイフ形石器などが、左部地区からは細石刃が見つかっている。また所り垣地区からも、旧石器時代と推定される石核、チャート製の縦長剥片が見つかっている。

縄文時代の遺物としては、角垣内地区より、縄文草創期と推定される木葉形尖頭器、剥片などが見つかっている。また縄文後期と推定される土器片少量が見つかっている。左部地区からは、縄文土器の深鉢片が見つかっている。

弥生時代の遺物としては、左部地区より緑泥片岩製の磨製石斧と、弥生土器である壺片が見つかっている。

古墳時代では、平成元年度に左部地区で行われた岩出遺跡群第2次調査と平成2年度にケカノ辻・角垣内地区で行われた第3次調査を通して、左部地区を中心に23基の古墳が確認されて、左部古墳群と呼ばれている。円墳14基、方墳7基、墳形不明2基である。5世紀末頃から7世紀前半に築かれたと見な

される。形成の流れとしては、「円墳→円墳・方墳」の流れが存在していたものと考えられている。

古墳が築かれた当時の地形は蚊山地区と左部地区の間に小規模な谷があり、左部地区から角垣内・ケカノ辻にかけて、低く平らな台地が広がっていて、この南斜面に築かれることで、群集墳になっていったと考えられている。これら古墳からは、須恵器の杯身、杯蓋、高杯、甕、埴瓶、埴や土師器の甕、高杯、碗、壺、杯などが出土している。

中世の遺構・遺物については、過去の発掘調査より、各小字内の各調査区でたくさんの遺構が検出され、膨大な量の遺物が採集された。

所り垣地区では、平成元年度に行われた第1次調査で、中世墓1基と、掘立柱建物4棟、土坑29基、溝23条が検出されたが、ほとんどが中世のものであった。この地区の遺物は、平安時代末様から鎌倉・室町時代の鍋・皿などの土師器を中心に、山茶碗・山皿などの陶器、その他、輸入青磁、石製品、瓦、鉄製品などである。土師器は南伊勢系であり、陶器は瀬戸産、常滑産である。

また、左部地区では第2次調査で、中世の遺構では、掘立柱建物45棟、櫓1条、井戸12基、中世墓40基、土坑70基、溝33条、道路2条、集石遺構1基を検出した。

遺物では、ほとんどが、南伊勢系の皿・鍋などの土師器類と、渥美、知多、猿投、瀬戸産の山茶碗を中心とした陶器類で、13世紀のものが多くみられた。その他、輸入青磁・白磁や、銭貨などもみられた。

ケカノ辻・角垣内地区では第3次調査時に、最小でも19棟の掘立柱建物と5列の柱列があることが確認された。また、井戸8基と中世墓は不明確なものも含め17基、その他多数の土坑、溝が検出された。

遺物では、ほとんどが南伊勢系の皿・鍋などの土師器類と、渥美、知多、猿投、瀬戸産の山茶碗を中心とした陶器類、その他、輸入青磁・白磁や、鍋、小刀、釘などの金属製品類、銅、温石、紡錘車などの石製品類である。

蚊山地区では平成4年度に行われた第4次調査で、中世の遺構として掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条、ピットが検出された。遺物としては、土師器類を中心に、陶器・磁器類も若干検出された。

近世の遺構としては、第4次調査では蚊山地区で瓦窯、土坑を確認したが、土坑には粘土採掘坑と考えられるものが多数ある。瓦窯は、平窯と考えられている。窯は同じ窯を第1次窯と第2次窯として使用している。ここで近世の遺物として、陶器・瓦が輸出されている。

その他近世の遺物としては、岩出北東に位置する岩出城跡を中心に瓦片、陶器片なども表面採集されている。

(2) 岩出地域の歴史的背景

古墳時代の古墳群の存在は、岩出地区が早くから歴史上の文化を受けてきた土地であったことを意味する。

また、中世の多数の遺構と膨大な遺物が出た背景は、岩出遺跡群の中心的性格が、平安時代末頃から室町時代に及ぶ中世を中心とした時期にあることを意味する。つまり、この地区内にあった中世集落の繁栄である。

左部地区で確認できた掘立柱建物跡より、左部地区の中世集落の形成・盛衰については、集落が形成され始めたⅠ期（12世紀中葉～13世紀初頭）、集落の原型がほぼ完成したⅡ期（13世紀前葉～13世紀中

葉）、集落の最盛期ともいべきⅢ期（13世紀後葉～14世紀前葉）、集落の衰退から消滅期にあたるⅣ期（14世紀中葉～15世紀中葉）に分けて考えられている^①。

また、岩出地域には平安時代後期の11世紀初頭から室町時代末期の16世紀前葉の約500年間、伊勢神宮祭主大中原氏の居館が存在していたと想定されている。

岩出祭主と呼ばれるのは長保3（1001）年、大中原輔親からといわれ、明応年間（1492～1501）頃までは、「岩出殿」と呼ばれる祭主が確認できる。また祭主の実質的権限の強かった平安末期から鎌倉前期には、複数の仏殿（寺院）も建てられていた。このような岩出地区の中世の繁栄が中世遺跡・遺物の多さに関係している。

さらに岩出地域は、中世末期から岩出城が存在した。その城は関が原合戦の年（1600）には廃城となっているようである。城のあった位置の南側に続く現集落は地形図から想定される岩出城外郭内や岩出城下町跡に存在する。その位置からは、膨大なこの時期の遺跡・遺物も現在の集落下には存在すると考えられる。

〔註〕

① 前川嘉宏ほか「蚊山遺跡左部地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993）

（参考文献）

・ 稲本賢治ほか「蚊山遺跡所り垣地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第4分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992）

・ 伊藤裕徳『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査―』三重県埋蔵文化財センター 1996

・ 『玉城町史 上巻』玉城町史編纂委員会 1995

Ⅲ 層序と遺構（第8次調査）

1 層序

A地区、B地区の土層の基本的層序を順に記述する。

愛宕山の山裾にあたり現況地は林であったA地区は、第1層である表土層は腐葉土に小礫がまばらに混じっていた。第2層は明黄褐色土（包含層1）、第3層が黒色土（包含層2）、第4層が黄褐色土（地山）であった。第4層の上に中世の遺溝が比較的明確に認められた。

ほぼ平坦な農道と田畑が現況地であったB地区の層序は、第1層は黒褐色土（耕作土）、第2層は明褐色土（包含層1）、第3層は暗褐色土（包含層2）、第4層は黒色粘質土（包含層3）、第5層はにぶい黄褐色土（地山）である。第5層上に中世の遺溝が明確に認められた。ただし、包含層である第2層～第4層は場所によってはそのうちの一層、あるいは二層というところもあった。

2 遺構

A地区とB地区で検出した遺構は溝が24条、土坑101基、掘立柱建物7棟、塀・柵7列、集石範囲1ヶ所、性格不明遺構1基である。出土遺物より時期が分かるものは、平安時代末から、鎌倉時代を中心に室町時代にかけての中世の遺構が大半を占めた。以下主な遺構ごとに記述する。

なお、遺構からの出土遺物で南伊勢系土師器鍋は伊藤裕偉氏の編年⁵を、山茶椀については藤澤良祐氏の編年⁶を、貿易陶磁器（青磁・白磁）については山本信夫氏⁷の分類⁸を使う。

（平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構）

S D 701 7～9グリッドあたりで県南勢水道埋設管のために分断されているものの、細長いB地区の東西を、端から端まで通り、長さ131.5m以上、幅1.82m、深さ0.8mと大規模な遺構である。

S D 702、S D 727、S D 737など、水の流れがこの溝に落ち込む付随する溝もいくつかある。平時の水の流れでは、もともと愛宕山の裾から流れてきた水は、ほぼ直交するS D 735、S D 736、S D 741を通してこのS D 701に流れこみ、勾配の関係から考えて東だけではなく、西側にも分けて出たものと思われる。

溝の壁面部分には、所々に段状部分もみられる。また、特に18グリッドから33グリッドにかけては、数ヶ所、底土の盛り上がった瓶のような働きをする

ところもあることより、日照り続きの時は、これらの一部箇所が溜り水となったと考えられる。

各所各所の微妙に色の違う黒褐色の土層の堆積状態から、深さが変わりながらも長い時期にわたって機能していた溝と考えられる。

用途としては、岩出小字清水と中角小字向井との字界にそった位置で続いていることから、区画用の溝としての働きを第一に考えることができる。また、農業用水ともなったと考えられる。

溝底部を中心として、南伊勢系の土師器小皿・皿・鍋、渥美・湖西型、尾張型第6型式の山茶椀が大量に出土した。その他、瀬戸、猿投、常滑産陶器や輸入陶器（青磁椀等）も出土した。不用品の廃棄土場に使われたとも思われる。遺物より、Ⅱ期を中心にⅠ～Ⅲ期にわたる中世の広い時期にかけて機能していた遺構と考えられる。

S D 736 35B、35Cグリッドで確認された遺構で、S D 701と直行するように交わる。白磁椀が出土したが、華南一帯産で④群（C期）に相当する。遺物よりⅠ期の遺構と考えられる。

S D 727 28Bグリッド～36Bグリッドの間で確認されたが、29Bグリッド辺りでは、大溝S D 701に切られている。（仮）A段階～第1段階にかけての土師器鍋が出土した。遺物よりⅠ～Ⅱa期の遺構と考えられる。

S D 703 24C～30Cグリッドで確認された。長さ21.8m以上、幅0.8m、深さ0.6mである。龍泉窯系の青磁小皿・碗やいずれも渥美・湖西型第6型式に相当する山茶碗などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S D 848 56C～59Cグリッドで確認されたが、56Cでは途切れている。深さ0.05mと非常に浅い。渥美・湖西型第6形式に相当する山茶碗、第1段階に相当する土師器鍋が出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S D 747 大溝S D 701とほぼ平行して走り、S D 727へと続く。(仮)A段階～第1段階にかけてのものと考えられる土師器鍋などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 847 58Cグリッドで確認された遺溝で、長さ0.96m、幅0.8m、深さ0.17mである。第1段階に相当する土師器鍋などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 722 20B・20Cグリッドで確認された。長さ1.47m以上、幅0.32m以上、深さ0.62mで、大溝S D 701に切られている。陶器山皿・山茶碗、第2段階に相当する南伊勢系土師器鍋、同安窯系青磁などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 707 20Cで確認された。長さ2.22m以上、幅0.86m、深さ0.42mである。砥石などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 846 長さ0.84m、幅0.76m、深さ0.26mで、円形に近い浅い遺構である。二段に分かれる棚状の部分を持つ遺構で、土師器皿が比較的完形でまとも出土したので遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡb期の遺構と考えられる。

S K 784 13～14Cグリッドで出土した遺構で長さ0.79m、幅0.59m、深さ0.29mである。南伊勢系の土師器皿がまとも出土した。遺物よりⅡb期の遺構と考えられる。

S K 761 16～17Cグリッドで確認された。長さ3.04m、幅0.55m、深さ0.45mである。陶器山茶碗などが出土した。遺物よりⅡ期の遺構と考えられる。

S K 779 10Cグリッドで確認された。長さ1.02m

以上、幅0.3m以上、深さ0.24mである。調査区北側壁によって切られているが、楕円形の遺構と考えられる。土師器皿・鍋などが、比較的元の形を留めたまま出土したので、遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡ期の遺構と考えられる。

S K 794 12Cグリッドで確認された。長さ1.78m以上、幅0.61m以上、深さ0.64mである。南伊勢系の土師器羽釜・鍋などがまとも出土した。遺物よりⅡ～Ⅲa期の遺構と考えられる。

S K 753 13～14Bグリッドで確認された。長さ1.94m以上、幅0.55m以上、深さ0.33mである。S D 701の南側壁面下部脇に存在した。土師器杯・皿の他、第3段階に相当する原型に近い土師器鍋がまとも出土した。廃棄土坑と考えられる。遺物よりⅢb期の遺構と考えられる。

S K 800 10～11Cグリッドで確認された。長さ2.21m以上、幅0.64m以上、深さ0.45mである。南伊勢系の土師皿、第2段階や第3段階に相当する土師器鍋、鉄製品(釘など)、陶器天目茶碗などが比較的原形を留めたまま出土したので、遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡb～Ⅲ期の遺構と考えられる。

S D 702 19～33Cグリッドまで続き、長さ113.3m以上、幅0.5m、深さ0.14mであり、長さはS D 701に続いて長い。所々滅失箇所がある。第4段階に相当する土師器鍋、⑨群(E期)に相当する龍泉窯系青磁碗などが出土した。遺物よりⅡb～Ⅳ期の遺構と考えられる。

S K 754 16～19B・16～19Cグリッドで確認された。長さ11.29m以上、幅2.18m以上、深さ0.94mと細長い遺構である。S K 701と並ぶように存在するが、S D 701に切られている。土師器小皿、第1段階、第2段階、第4段階に相当する土師器鍋、渥美・湖西型第6型式に相当する山茶碗、陶器鉢・甕、土製鉢、石鍋、鉄製釘などが出土した。遺物よりⅡ～Ⅳ期の遺構と考えられる。

(時期不明・詳細時期不明遺構)

S K 712 22Cグリッドで確認された。長さ1.35m以上、幅0.65m、深さ0.53mである。S K 713によって切られているが、ほぼ平行四辺形をした遺構で

ある。形状より土取り跡と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K 713 22～23 C グリッドで確認された。長さ1.84m、幅1.02m、深さ0.75mである。形状より土取り跡と考えられる。出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S K 714 22～23 C グリッドで確認された。長さ4.7m以上、幅1.0m、深さ0.59mである。形状より土取り跡と考えられる。出土した土師器小片より中世の時期の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。ただし、S K 713に切られる形であるので、時期はS K 713よりも古い遺構である。

S D 841 52 B、52 C グリッドで確認された。長さ8.3m以上、幅0.3m、深さ0.2mの遺構で、調査区をほぼ南北に横切る。形状、勾配より山裾の湧き水の通り道であったと考えられる。土師器小片が出土したことにより中世の溝と考えられるが、その詳しい時期については不明である。

S K 797 10 C グリッドで確認された。長さ1.6m以上、幅0.34m以上、深さ0.4mである。周辺の土坑同様土取り跡と考えられる。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S K 801 8～9 C グリッドで確認された。長さ2.19m以上、幅1.36m以上、深さ0.55mである。棚状の箇所がある遺構である。土師器小片が出土したので、中世の遺構といえるが、詳しい時期については不明である。

S K 843 52～53 B グリッドで確認された。長さ2.58m、幅2.62m、深さ0.21mの浅い遺構である。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S K 844 53 B グリッドで確認された。長さ1.4m、幅0.94m、深さ0.16mである。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S Z 725 25 B グリッドで確認された。調査区南壁によって切られているが残存部分から判断すると長方形の遺構である。北端にピット2基を持つ。形状より特別な意図で作られた遺構と判断できるが、その遺構の性格と時期については不明である。

S A 729 20～23 B グリッドで確認された。東西12mである。8基のピット列よりなるが、東側の3基

のピットは、S D 718中に存在する。ピットから出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S A 730 22～23 B グリッドで確認された。東西2.8mである。4基のピット列よりなる。ピットから出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S B 732 19～20 B グリッドで確認した。東西2間(3.8m)、南北1間以上である。ピットから出土した土師器小片より中世の建物と考えられるが詳しい時期は不明である。

S B 734 26～27 B グリッドで確認した。東西2間(3.9m)南北1間以上である。3基の柱穴のうち西側と中央の2基はほぼ円形で、今回の発掘で立て掘立柱建物跡の柱穴としては幅約0.6m、深さ約0.3mと大きい。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S B 829 31～33 B グリッドで確認した。東西3間(5.9m)南北1間以上である。遺物は認められなかったので時期は不明である。

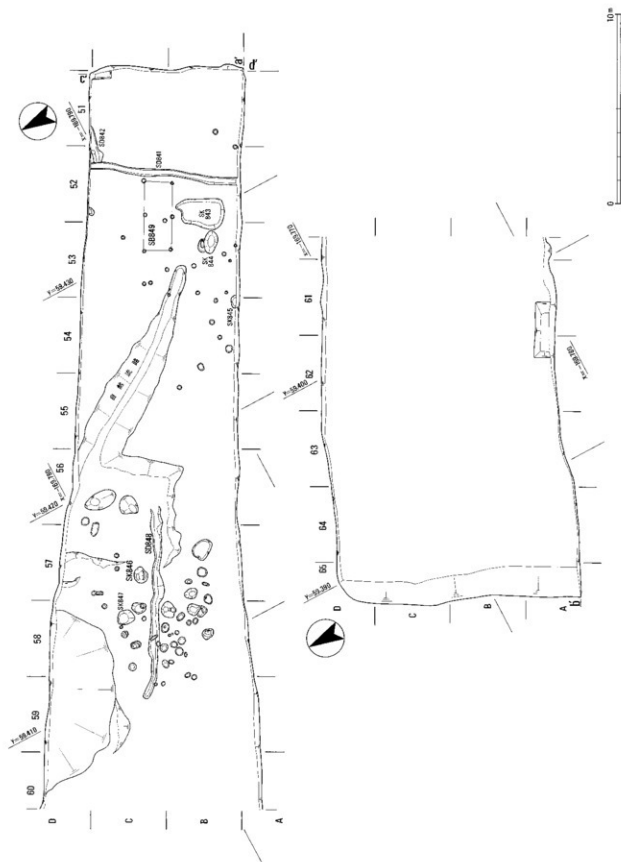
S B 832 36～37 B グリッドで確認した。東西2間(2.9m)、南北1間以上である。遺物は認められなかったので、時期は不明である。

S B 833 36～37 B グリッドで確認した。東西2間(3.9m)以上、南北1間以上である。構成するピットに2ヶ所礎石があったことから掘立柱建物と分かった。遺物は認められなかったので、時期は不明である。

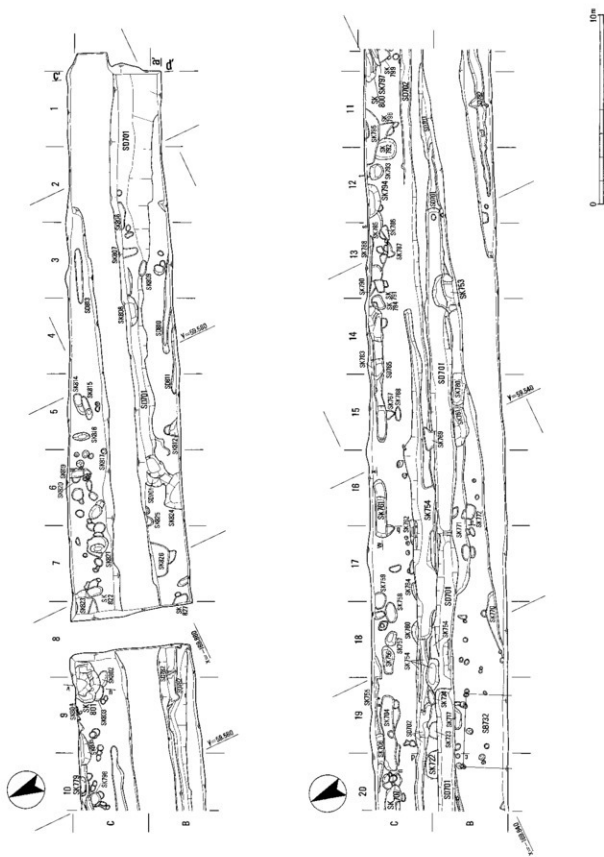
S B 849 南北1間(1.5m)東西2間(3.6m)である。6基の柱穴は、幅0.2m前後、深さ0.2m前後でほぼ円形である。規模的には小さいが、当調査で検出された唯一の全体の柱穴が確認された掘立柱建物である。出土した土師器小片により中世の建物と考えられるが、詳しい時期は不明である。

[註]

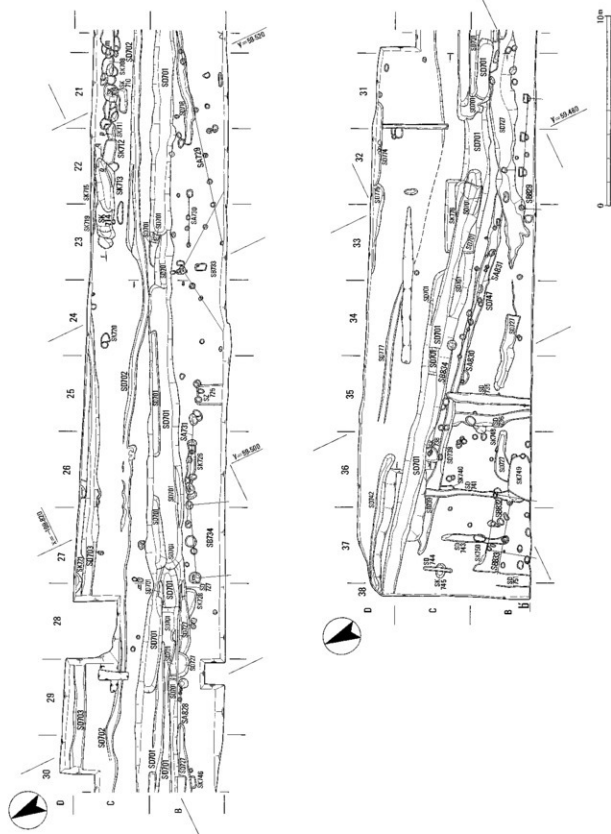
- ① 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『*mie history*』vol. 1 三重歴史文化研究会 1990)
- ② 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994)
- ③ 山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」(『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 1995)



第4図 A地区遺構平面図(1:200)

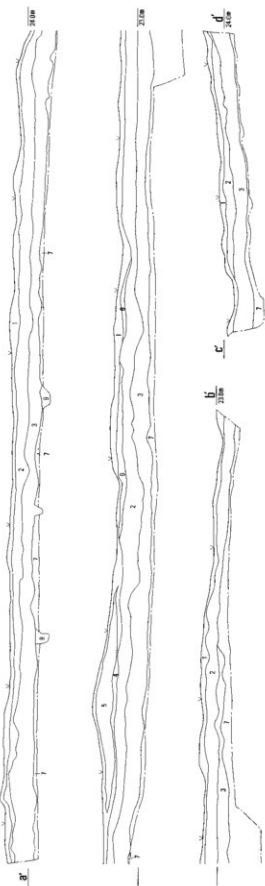


第5図 B地区遺構平面図(1) (1:200)



第6图 B地区遺構平面図(2) (1:200)

A地区土層



1. 表土層 (腐葉土の下に1mm程度の小礫がまばらに混じる)
2. 明黄褐色土 2.5 Y 7 / 6 (包含層 1 粘性あり 1mm程度の小礫が所々混じる 3.8mm付近から 色調が黄褐色土 2.5 Y 5 / 4 に徐々に変化する)
3. 黒色土 10YR 2 / 1 (包含層 2 粘性あり しまりあり)
4. 旧表土層 (1とはほぼ同じ 5を包んでいるが1との境に分離できない)
5. 崩落土層
6. 黒褐色土 10YR 2 / 2 (腐葉物包含層 粘性あり)
7. 黄褐色土 2.5 Y 5 / 4 (地山 5~8mmの礫が多く混じる)
8. SD841理土
9. SK845理土

B地区土層



第7図 土層断面図(1) (1:100)

B地区土層(概)



10. 黒色土 10YR 1.7/1 (概乱)
11. 砂石層 (概乱)
12. 明黄褐色土 10YR 6/6 (概乱)
13. にごい黄褐色土 10YR 6/3 (地山)
14. 概乱
15. 黄褐色土 7.5YR 3/1
16. 岩川用木管理土 (概乱)
17. SD701埋土

1. 黒褐色土 10YR 2/2 (耕作土層)
2. 明黄褐色土 7.5YR 7/1 (包含層1)
3. 明黄褐色土 10YR 6/6 (客土層)
4. 黒色砂質土 10YR 2/1 (包含層3)
5. 暗褐色土 10YR 3/3 (包含層2)
6. 黒褐色土 10YR 3/2 (明黄褐色土 10YR 6/6 のブロック混じる)
7. 黒色砂質土 10YR 2/1 (概乱)
8. 黒褐色土 2.5Y 3/2
9. 黒色土 10YR 1.7/1 (概乱)



第8図 土層断面図(2) (1:100)

| 岩出遺跡群 遺構番号 | 地区 | 検出時遺 構番号 | 性格 | 出土遺物 時期 | 小地区番号 | 長さ (m) | 幅 (m) | 深さ (m) | 備考 |
|---------------|----|-------------|--------|------------|--|-----------|----------|-----------|---------------------|
| SD701 | B | SD1 | 大溝 | I~III | 5~6・11~34B 1~6・10~15・24 ~38C 37~38D | 131.5以上 | 1.82 | 0.8 | 土師器、陶器等の遺物大量に出土 |
| SD702 | B | SD2 | 溝 | IIb~IV | 19~33C | 113.3以上 | 0.5 | 0.14 | |
| SD703 | B | SD3 | 溝 | IIa | 24~30C | 21.8以上 | 0.8 | 0.6 | 土師器、陶器等遺物多数出土 |
| SK704 | B | SK4 | 土坑 | IIa | 19~20C | 3.94 | 0.68 | 0.24 | |
| SK705 | B | SK5 | 土坑 | 中世 | 19~20C | 1.4 | 0.09 | 0.09 | |
| SK706 | B | SK6 | 土坑 | 中世 | 19~20C | 7.17以上 | 0.27以上 | 0.29 | |
| SK707 | B | SK7 | 土坑 | IIa | 20C | 2.22以上 | 0.86 | 0.42 | |
| SK708 | B | SK8 | 土坑 | 不明 | 21C | 0.88以上 | 0.59 | 0.3 | |
| SK709 | B | SK9 | 土坑 | 中世 | 21C | 1.86 | 0.77 | 0.3 | |
| SK710 | B | SK10 | 土坑 | 不明 | 21C | 1.29 | 0.4 | 0.06 | |
| SK711 | B | SK11 | 土坑 | IIa | 21~22C | 0.88以上 | 0.48 | 0.29 | |
| SK712 | B | SK12 | 土坑 | 不明 | 22C | 1.35以上 | 0.65 | 0.53 | |
| SK713 | B | SK13 | 土坑 | 中世 | 22~23C | 1.84 | 1.02 | 0.75 | |
| SK714 | B | SK14 | 土坑 | 中世 | 22~23C | 4.7以上 | 1 | 0.59 | |
| SK715 | B | SK15 | 土坑 | 中世 | 22~23C | 1.28以上 | 0.05以上 | 0.04 | |
| SI716 | B | SI16 | 集石範囲 | 不明 | 26~27C | | | | |
| SK717 | B | SK17 | 土坑 | 不明 | 19B | 1.14以上 | 0.29以上 | 0.09 | |
| SD718 | B | SD18 | 溝 | 中世 | 20~22B | 7.3以上 | 0.45 | 0.12 | |
| SK719 | B | SK19 | 土坑 | 不明 | 23C | 1以上 | 0.06以上 | 0.05 | |
| SK720 | B | SK20 | 土坑 | 不明 | 24C | 0.82以上 | 0.46 | 0.2 | |
| SK721 | B | SK21 | 土坑 | 不明 | 27~28C | 1.12以上 | 0.45以上 | 0.22 | |
| SK722 | B | SK22 | 土坑 | IIa | 20B・20C | 1.47以上 | 0.32以上 | 0.62 | |
| SK723 | B | SK23 | 土坑 | IIb | 19B・19C | 0.72以上 | 0.42以上 | 0.21 | |
| SK724 | B | SK24 | 土坑 | 不明 | 19B・19C | 0.73以上 | 0.21以上 | 0.31 | |
| SZ725 | B | SZ25 | 性格不明遺構 | 不明 | 25B | 1.32以上 | 1.08 | 0.27 | |
| SK726 | B | SK26 | 土坑 | 不明 | 26B | 1.94以上 | 0.48 | 0.2 | |
| SD727 | B | SD27 | 溝 | I~IIa | 28~36B | 27.1以上 | 1.42 | 0.34 | |
| SK728 | B | SK28 | 土坑 | 中世 | 28B | 1.5以上 | 0.48以上 | 0.25 | |
| SA729 | B | SA29 | 槽 | 中世 | 20~23B | | | | 東西12m |
| SA730 | B | SA30 | 槽 | 不明 | 22~23B | | | | 東西2.6m |
| SA731 | B | SA31 | 槽 | 不明 | 25~27B | | | | 東西5.6m |
| SB732 | B | SB32 | 掘立柱建物 | 中世 | 19~20B | | | | 東西2間(3.8m)、南北1間以上 |
| SB733 | B | SB33 | 掘立柱建物 | 不明 | 23~24B | | | | 東西2間(3.8m)以上、南北2間以上 |
| SB734 | B | SB34 | 掘立柱建物 | 不明 | 26~27B | | | | 東西2間(3.9m)、南北1間以上 |
| SD735 | B | SD35 | 溝 | 不明 | 35B・35C | 4.5以上 | 0.5 | 0.07 | |
| SD736 | B | SD36 | 溝 | I | 35B・35C | 3.41以上 | 0.4 | 0.11 | |
| SK737 | B | SK37 | 土坑 | 不明 | 35~36C | | | | 滅失 |
| SK738 | B | SK38 | 土坑 | 不明 | 36C | 0.75以上 | 0.68 | 0.15 | |
| SD739 | B | SD39 | 溝 | 不明 | 35~37C | 19.5以上 | 0.52以上 | 0.1 | |
| SK740 | B | SK40 | 土坑 | 中世 | 36C | 0.67以上 | 0.19以上 | 0.04 | |
| SK741 | B | SK41 | 土坑 | III | 36B・36C | 5.11以上 | 0.39 | 0.1 | |
| SD742 | B | SD42 | 溝 | 不明 | 36D・37D | 7.38以上 | 0.45 | 0.14 | |
| SD743 | B | SD43 | 溝 | 中世 | 37B・37C | 3.42以上 | 0.4 | 0.08 | |
| SD744 | B | SD44 | 溝 | 不明 | 37C | 1.53 | 0.19 | 0.06 | |
| SK745 | B | SK45 | 土坑 | 中世 | 37C | 0.77 | 0.47 | 0.15 | |
| SK746 | B | SK46 | 土坑 | 中世 | 30B | 0.63 | 0.24以上 | 0.19 | |
| SD747 | B | SD47 | 溝 | IIa | 32~34B 34~35C | 19.87以上 | 0.65 | 0.2 | |
| SK748 | B | SK48 | 土坑 | 不明 | 35B | | | | 33BPh7に変更 |

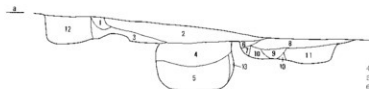
第1表 遺構一覧表(1)

| 岩出遺跡群 遺構番号 | 地区 | 検出時遺 構番号 | 性格 | 出土遺物 時期 | 小地区番号 | 長さ (m) | 幅 (m) | 深さ (m) | 備考 |
|---------------|----|-------------|----|------------|---------------|-----------|----------|-----------|------------------|
| SK749 | B | SK49 | 土坑 | Ⅱa | 36B | 2.32以上 | 1.15以上 | 0.11 | |
| SK750 | B | SK50 | 土坑 | 不明 | 37B | 1.87以上 | | 0.15 | |
| SD751 | B | SD51 | 溝 | 不明 | 37~38B | 1.77以上 | 0.72 | 0.11 | |
| SD752 | B | SD52 | 溝 | | 29C | | | | 現代の掘削に変更 |
| SK753 | B | SK53 | 土坑 | Ⅲb | 13~14B | 1.94以上 | 0.55以上 | 0.33 | 土師器、陶器等遺物多数出土 |
| SK754 | B | SK54 | 土坑 | Ⅱ~Ⅳ | 16~19B 16~19C | 11.29以上 | 2.18以上 | 0.94 | 土師器、陶器等多数出土 石鎮出土 |
| SK755 | B | SK55 | 土坑 | Ⅲb | 18~19C | 7.2以上 | 0.28以上 | 0.14 | |
| SK756 | B | SK56 | 土坑 | 不明 | 18C | 1.49 | 0.6 | 0.19 | |
| SK757 | B | SK57 | 土坑 | 中世 | 18C | 0.79 | 0.55 | 0.15 | |
| SK758 | B | SK58 | 土坑 | 中世 | 17~18C | 1.09 | 0.62 | 0.27 | |
| SK759 | B | SK59 | 土坑 | 中世 | 17~18C | 0.87 | 0.55以上 | 0.29 | |
| SK760 | B | SK60 | 土坑 | 中世 | 18C | 1.22以上 | 0.35以上 | 0.34 | |
| SK761 | B | SK61 | 土坑 | Ⅱ | 16~17C | 3.04 | 0.55 | 0.45 | |
| SK762 | B | SK62 | 土坑 | 不明 | 16~17C | 1.3 | 0.17以上 | 0.14 | |
| SK763 | B | SK63 | 土坑 | 中世 | 17C | 0.94 | 0.15 | 0.07 | |
| SK764 | B | SK64 | 土坑 | 不明 | 17C | 0.92以上 | 0.2以上 | 0.21 | |
| SD765 | B | SD65 | 溝 | Ⅱb | 14~15C | 7.02以上 | 0.48 | 0.22 | |
| SK766 | B | SK66 | 土坑 | 不明 | 15C | 1.82 | 0.2 | 0.19 | |
| SK767 | B | SK67 | 土坑 | 不明 | 15C | 0.45以上 | 0.43 | 0.05 | |
| SK768 | B | SK68 | 土坑 | 不明 | 15C | 0.76 | 0.3 | 0.08 | |
| SK769 | B | SK69 | 土坑 | 中世 | 15C | 1.29以上 | 0.54以上 | 0.6 | |
| SK770 | B | SK70 | 土坑 | 中世 | 17~18B | 3.47以上 | 0.53以上 | 0.07 | |
| SK771 | B | SK71 | 土坑 | 不明 | 15~17B | 7.73以上 | 0.72以上 | 0.3 | |
| SK772 | B | SK72 | 土坑 | 不明 | 16B | 0.79 | 0.4以上 | 0.31 | |
| SK773 | B | SK73 | 土坑 | 不明 | 28C | | | | 28CPit2fに変更 |
| SD774 | B | SD74 | 溝 | 中世 | 31~32D | 4.37以上 | 0.23以上 | 0.27 | |
| SD775 | B | SD75 | 溝 | 不明 | 32~33D | 0.62以上 | 0.4以上 | 0.24 | |
| SK776 | B | SK76 | 土坑 | 不明 | 32~33C | 3.91 | 0.55以上 | 0.2 | |
| SD777 | B | SD77 | 溝 | 不明 | 34C 34~35D | 7.26以上 | 0.39 | 0.03 | |
| SK778 | B | SK78 | 土坑 | 不明 | 35C | | | | 35CPit7fに変更 |
| SK779 | B | SK79 | 土坑 | Ⅱ | 10C | 1.02以上 | 0.3以上 | 0.24 | |
| SK780 | B | SK80 | 土坑 | 不明 | 15B | 1.7以上 | 0.69以上 | 0.69 | |
| SK781 | B | SK81 | 土坑 | Ⅱa | 15B | 2.05以上 | 0.73以上 | 0.35 | |
| SD782 | B | SD82 | 溝 | Ⅲ | 8~12B | 16.48以上 | 0.65以上 | 0.14 | |
| SK783 | B | SK83 | 土坑 | 不明 | 14C | 0.83以上 | 0.08以上 | 0.19 | |
| SK784 | B | SK84 | 土坑 | Ⅱb | 13~14C | 0.79 | 0.59 | 0.29 | |
| SK785 | B | SK85 | 土坑 | Ⅱa | 12~13C | 2.97以上 | 0.77以上 | 0.08 | |
| SK786 | B | SK86 | 土坑 | 不明 | 13C | 0.75以上 | 0.63以上 | 0.22 | |
| SK787 | B | SK87 | 土坑 | 不明 | 13C | 1.17以上 | 0.94以上 | 0.29 | |
| SK788 | B | SK88 | 土坑 | 不明 | 13C | 1.73以上 | 0.61以上 | 0.12 | |
| SK789 | B | SK89 | 土坑 | 不明 | 13C | 0.86 | 0.79 | 0.05 | |
| SK790 | B | SK90 | 土坑 | 不明 | 13C | 0.85以上 | 0.25以上 | 0.06 | |
| SK791 | B | SK91 | 土坑 | 中世 | 13C | 0.66 | 0.43 | 0.22 | |
| SK792 | B | SK92 | 土坑 | 中世 | 11~12C | 1.15以上 | 1.02 | 0.33 | |
| SK793 | B | SK93 | 土坑 | 不明 | 12C | 0.88 | 0.77 | 0.24 | |
| SK794 | B | SK94 | 土坑 | Ⅱ~Ⅲa | 12C | 1.78以上 | 0.61以上 | 0.64 | 土師器・陶器等多数出土 |
| SK795 | B | SK95 | 土坑 | 不明 | 11~12C | 2.98以上 | 0.69以上 | 0.17 | |
| SK796 | B | SK96 | 土坑 | 中世 | 11C | 0.72以上 | 0.69以上 | 0.22 | |

第2表 遺構一覧表(2)

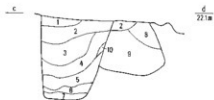
| 岩出遺跡群 遺構番号 | 地区 | 検出時遺 構番号 | 性格 | 出土遺物 時期 | 小地区番号 | 長さ (m) | 幅 (m) | 深さ (m) | 備考 |
|---------------|----|-------------|-------|------------|---------------|-----------|----------|-----------|-----------------------|
| SK797 | B | SK97 | 土坑 | 不明 | 10C | 1.6以上 | 0.34以上 | 0.4 | |
| SK798 | B | SK98 | 土坑 | Ⅲ | 10C | 0.66以上 | 0.45 | 0.38 | |
| SK799 | B | SK99 | 土坑 | 不明 | 10C | 0.66以上 | 0.52以上 | 0.13 | |
| SK800 | B | SK100 | 土坑 | Ⅱb~Ⅲ | 10~11C | 2.21以上 | 0.64以上 | 0.45 | 土師器類・皿まとまって出土 |
| SK801 | B | SK101 | 土坑 | 中世 | 8~9C | 2.19以上 | 1.36以上 | 0.55 | |
| SK802 | B | SK102 | 土坑 | 不明 | 8~9C | 0.8以上 | 0.38以上 | 0.06 | |
| SK803 | B | SK103 | 土坑 | 中世 | 9C | 0.85以上 | 0.3以上 | 0.07 | |
| SK804 | B | SK104 | 土坑 | 不明 | 9C | 0.7以上 | 0.16以上 | 0.05 | |
| SK805 | B | SK105 | 土坑 | 不明 | 9~10C | 1.67以上 | 0.53以上 | 0.18 | |
| SK806 | B | SK106 | 土坑 | 不明 | 2~3C | 1.48以上 | 0.23以上 | 0.07 | |
| SK807 | B | SK107 | 土坑 | 中世 | 3C | 0.75以上 | 0.49以上 | 0.09 | |
| SK808 | B | SK108 | 土坑 | Ⅱa | 3~4C | 1.6以上 | 0.39以上 | 0.36 | |
| SK809 | B | SK109 | 土坑 | 不明 | 3C | 0.84以上 | 0.37以上 | 0.2 | |
| SD810 | B | SD110 | 溝 | Ⅲ | 3~4B | 5.22以上 | 0.34以上 | 0.1 | |
| SD811 | B | SD111 | 溝 | 不明 | 4~ | 3.4以上 | 0.22以上 | 0.08 | |
| SK812 | B | SK112 | 土坑 | 不明 | 5B | 0.98以上 | 0.46以上 | 0.26 | |
| SD813 | B | SD113 | 溝 | 不明 | 3~4C | 2.91 | 0.33 | 0.06 | |
| SK814 | B | SK114 | 土坑 | 不明 | 5C | 1.12 | 0.34 | 0.25 | |
| SK815 | B | SK115 | 土坑 | 不明 | 5C | 1.25 | 0.34 | 0.47 | |
| SK816 | B | SK116 | 土坑 | 中世 | 5C | 0.91 | 0.4 | 0.43 | |
| SK817 | B | SK117 | 土坑 | 不明 | 5~6C | 0.35 | 0.3 | 0.29 | |
| SK818 | B | SK118 | 土坑 | 不明 | 5~6C | | | | 滅失 |
| SK819 | B | SK119 | 土坑 | 中世 | 6C | 1.19以上 | 0.48以上 | 0.5 | |
| SK820 | B | SK120 | 土坑 | 不明 | 6C | 0.45以上 | 0.19以上 | 0.1 | |
| SK821 | B | SK121 | 土坑 | 中世 | 7C | 1.11 | 1.08 | 0.37 | |
| SK822 | B | SK122 | 土坑 | 不明 | 7C | 0.68以上 | 0.51 | 0.2 | |
| SK823 | B | SK123 | 土坑 | 不明 | 7~8C | 1.25以上 | 0.84以上 | 0.12 | |
| SK824 | B | SK124 | 土坑 | 中世 | 6B | 1.93以上 | 0.72以上 | 0.33 | |
| SK825 | B | SK125 | 土坑 | 中世 | 6~7B | 0.5以上 | 0.45以上 | 0.11 | |
| SK826 | B | SK126 | 土坑 | 不明 | 7B | 1.89以上 | 0.89以上 | 0.1 | |
| SK827 | B | SK127 | 土坑 | 不明 | 7~8B | 0.75以上 | 0.64以上 | 0.1 | |
| SA828 | B | SA128 | 槽 | 不明 | 29~30B | | | | |
| SB829 | B | SB129 | 掘立柱建物 | 不明 | 31~33B | | | | 東西3間(5.9m),南北1間以上 |
| SA830 | B | SA130 | 槽 | 不明 | 33B・34~35C | | | | 東西6.0m |
| SA831 | B | SA131 | 槽 | 不明 | 34~35C | | | | 東西5.8m |
| SB832 | B | SB132 | 掘立柱建物 | 不明 | 36~37B | | | | 東西2間(2.9m),南北1間以上 |
| SB833 | B | SB133 | 掘立柱建物 | 不明 | 36~37B | | | | 東西2間(3.9m),南北1間以上 |
| SA834 | B | SA134 | 槽 | 不明 | 35~36C | | | | |
| SD841 | A | SD1 | 溝 | 中世 | 52B・52C | 8.3以上 | 0.3 | 0.2 | |
| SD842 | A | SD2 | 溝 | 中世 | 51~52C | 2.4以上 | 0.4 | 0.19 | |
| SK843 | A | SK3 | 土坑 | 不明 | 52~53B | 2.58 | 2.62 | 0.21 | |
| SK844 | A | SK4 | 土坑 | 不明 | 53B | 1.4 | 0.94 | 0.16 | |
| SK845 | A | SK5 | 土坑 | Ⅱa | 54B | 0.7以上 | 0.2以上 | 0.18 | |
| SK846 | A | SK6 | 土坑 | Ⅱb | 57C | 0.84 | 0.76 | 0.26 | 土師器皿まとまって出土 |
| SK847 | A | SK7 | 土坑 | Ⅱa | 58C | 0.96 | 0.8 | 0.17 | |
| SD848 | A | SD8 | 溝 | Ⅱa | 56~59C | 10.18以上 | 0.3 | 0.05 | |
| SB849 | A | SB9 | 掘立柱建物 | 中世 | 52~53B 52~53C | | | | 南北1間(1.5m),東西2間(3.6m) |

第3表 遺構一覧表(3)

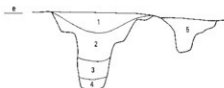


1. 黒褐色土 10YR 2/2 (2mmの小礫を含む SK771層土)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロックと5mmの小礫を含む SK771層土)
3. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を少々と2mmの小礫を含む SK771層土)

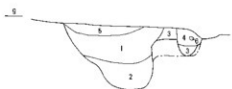
4. 黒褐色土 10YR 3/1 (しまりあり SD701層土)
5. 黒褐色土 10YR 3/1 (しまり弱 しまりあり SD701層土)
6. 黒褐色土 10YR 3/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を多く含む SK754層土)
7. 黒褐色土 10YR 3/1 (褐色土 10YR 4/4 のブロックを含む SK754層土)
8. 黒褐色土 10YR 2/2 (SK754層土)
9. 黒褐色土 10YR 3/1 (褐色土 10YR 4/4 を多く含む SK754層土)
10. 黒褐色土 10YR 3/1 (SK754層土)
11. 黒褐色土 10YR 2/2 (2mmの小礫を含む SD702層土)
12. 黒褐色土 10YR 2/1 (SK772層土)
13. 黒褐色土 10YR 3/2 (褐色あり SD701層土)



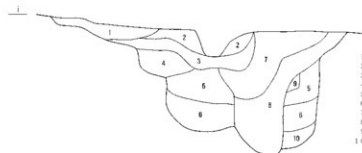
1. 黒褐色土 10YR 4/2 (弱い黄褐色土 10YR 6/3 を少量と1mmの小礫を含む SD722層土)
2. 黒褐色土 10YR 4/2 (弱い黄褐色土 10YR 6/3 を少量と2mm~5mmの小礫を含む)
3. 黒褐色土 10YR 3/2 (褐色土 7.5YR 4/6 まばらに散じる 1mmの小礫を含む)
4. 黒褐色土 10YR 2/2 (褐色土 7.5YR 4/6 まばらに散じる 2mmの小礫を含む)
5. 黒褐色土 10YR 3/2 (褐色土 7.5YR 4/6 まばらに散じる 2mmの小礫を含む)
6. 黒褐色土 10YR 2/2 (褐色土 7.5YR 4/6 まばらに散じる 2mmの小礫を含む、粘質あり)
7. 黒褐色土 10YR 3/2 (褐色土 7.5YR 4/6 まばらに散じる 2mmの小礫を含む、粘質あり)
8. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を少量含む SK722層土)
9. 黒褐色土 10YR 2/3 (SK722層土)
10. 黄褐色土 10YR 6/3 (ブロック状)



1. 黒褐色土 10YR 2/2
2. 黒褐色土 10YR 2/2 と3の土が半々に散じる
3. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘質あり)
4. にぶい黄褐色土 10YR 6/3 (粘質あり)
5. 黒褐色土 10YR 2/2 (SD702層土)



1. 黒褐色土 10YR 2/2
2. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘質あり)
3. 黒褐色土 7.5YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を多量に含む)
4. 黒褐色土 10YR 3/2
5. 黒褐色土 10YR 2/2 (SD722層土)
6. にぶい黄褐色土 10YR 6/3 (ブロック状)



1. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を少量含む 2mmの礫あり)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (しまりあり)
3. 黒褐色土 10YR 2/1 (しまりあり)
4. 黒褐色土 10YR 3/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロックを含む)
5. 黒褐色土 10YR 3/2 (しまりあり にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロックを含む)
6. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘質あり)
7. 黒褐色土 10YR 2/2
8. 黒褐色土 10YR 3/2 (しまりなし)
9. 黒褐色土 10YR 3/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を少量含む)
10. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘質あり)



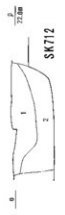
1. 黒褐色土 10YR 2/1 (炭化物散じる 遺物散じり)
2. 黒褐色土 10YR 2/2
3. 黒褐色土 10YR 2/3 (30mm~60mmの礫散じり)
4. 黒褐色土 10YR 2/3
5. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘質あり)



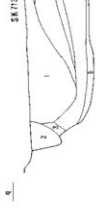
第9図 SD701各部断面図 (1:40)



- SK707
1. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)
 2. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)



- SK712
1. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)
 2. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)



SK713 SK714

1. 黒色土 10YR 2/1 (10mmの断面に於)
2. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)
3. 10YR 6/3 (10mmの断面に於)
4. 10YR 6/3 (10mmの断面に於)
5. 10YR 3/1 (10mmの断面に於)
6. 黒色土 10YR 3/1 (10mmの断面に於)
7. 黒色土 10YR 2/2 (10mmの断面に於)
8. 黒色土 2.5YR 3/1 (10mmの断面に於)



- SK794
1. 黒色土 10YR 2/1 (10mmの断面に於)
 2. 黒色土 10YR 3/1 (10mmの断面に於)
 3. 黒色土 10YR 3/1 (10mmの断面に於)
 4. 黒色土 10YR 3/1 (10mmの断面に於)
 5. 黒色土 10YR 2/1 (10mmの断面に於)

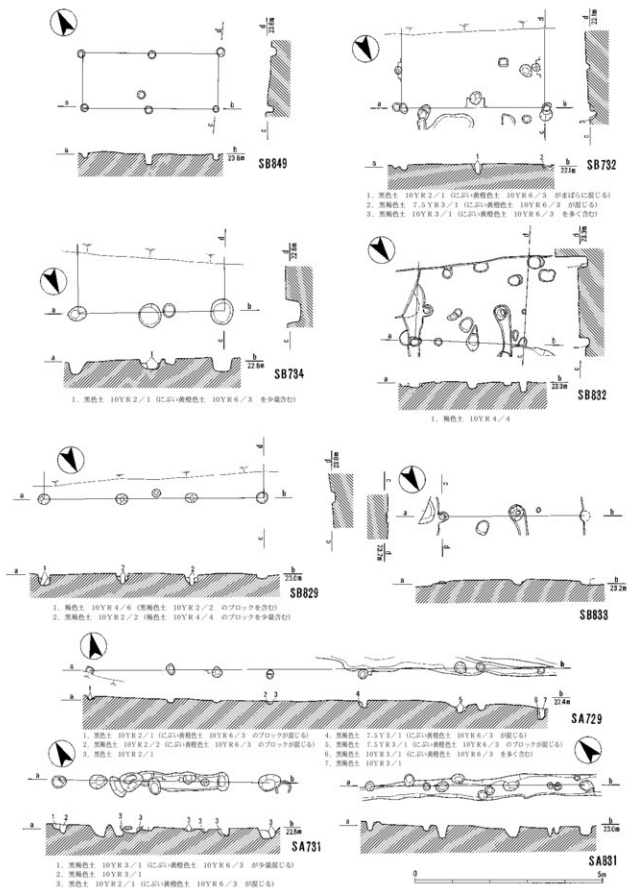


- SK801
1. 黒色土 10YR 2/1 (断面に於)
 2. 黒色土 10YR 4/4 (断面に於)
 3. 黒色土 10YR 2/2 (断面に於)

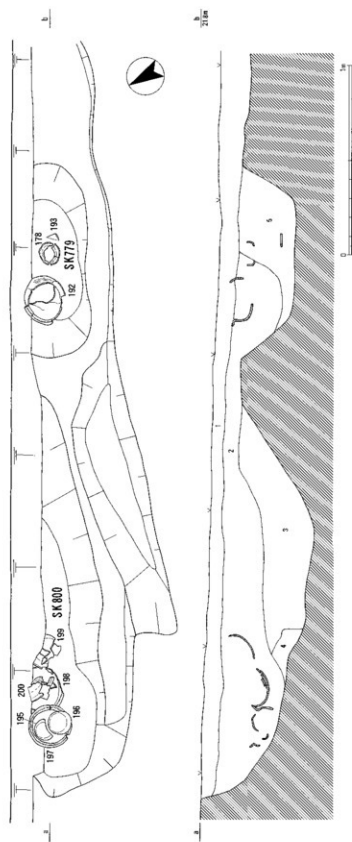


- SK761
1. 黒色土 10YR 2/3 (断面に於)
 2. 黒色土 10YR 2/3 (断面に於)
 3. 黒色土 10YR 2/2 (断面に於)
 4. 黒色土 10YR 2/2 (断面に於)

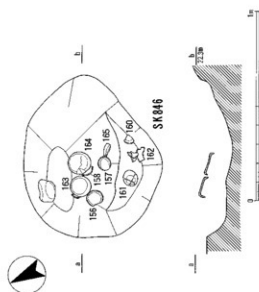
第10図 各土坑断面図 (1:40)



第11図 掘建柱建物、柵平面図・断面図 (1:100)



1. 褐色土 10YR 2/2 (区味かかって他よりも明るい)
2. 暗褐色土 10YR 3/3 (粘性あり 遺物と10mmほどの隙間がある)
3. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘性あり)
4. 暗褐色土 10YR 3/3 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロック状になる)
5. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 の塊状あり)



第12図 遺物出土状況図 (1 : 20)

IV 遺物 (第8次調査)

はじめに

出土した遺物はコンテナパッドに53箱である。平安時代末～鎌倉・室町時代の中世の時期の溝や土坑から出土した遺物が大半である。出土遺物は、南伊勢系の土師器小皿・皿・鍋、尾張型、渥美・湖西型の陶器椀(山茶椀)が多い。その他、渥美・常滑産の鉢・甕等の陶器や貿易陶器である青磁・白磁、また鉄製品も出土した。珍しいものとしては、石鍋・温石等の石製品も出土した。

出土遺物別では、B地区の大溝SD701からの出土遺物数は器種点数カウントの結果(本報告書49頁参照)から、全出土遺物個体換算数の約38%を占める。

なお、本章以後もⅢと同様、南伊勢系土師器鍋は伊藤裕偉氏の編年を、山茶椀については藤澤良祐氏の編年を、貿易陶磁器(青磁・白磁)については山本信夫氏のカテゴリを使う。

SD701出土遺物

1～4は土師器小皿で、南伊勢系である。底部から体部にかけて厚くなるが3は特にそれが顕著である。2は口縁のゆがみが大きい。4は完形品である。5～11は土師器皿で、南伊勢系である。体部が緩やかな角度でやや丸みを持って立ち上がる。7・8・11は底部中央辺りで上への曲面を持つ。9は特に口径に対して器高が低い。

12～27は陶器山茶椀である。いずれも焼成は良く緻密である。いずれも尾張型第6型式に相当し、その特徴である高台部が三角形気味であって底部中心が薄くなっているものが多く、また初段痕のあるものも多い。18は完形品で口縁部内側に自然釉が付き、口縁の歪みが大きい。20・26の色調は黄灰で一般的なものと異なる。27の底部外面には「上」の字の墨書がある。14・15も完形品である。

28・29は土師器台付小皿で南伊勢系である。30～32は南伊勢系の土師器鍋である。30・32は飯A段階、31は第1段階に相当する。33は陶器壺で、常滑産かと思われる。34・35は陶器鉢である。34は瀬戸産、35は常滑産である。36は陶器片口鉢である。

37～44は土師器皿である。これらの体部はやや大きめの角度で丸みを持って立ち上がる。41は口縁に対して器高が特に高く外側にゆるい角度で立ち上がるが、これに関しては南伊勢系ではなくて大和産かと思われる。41を除いては南伊勢系である。

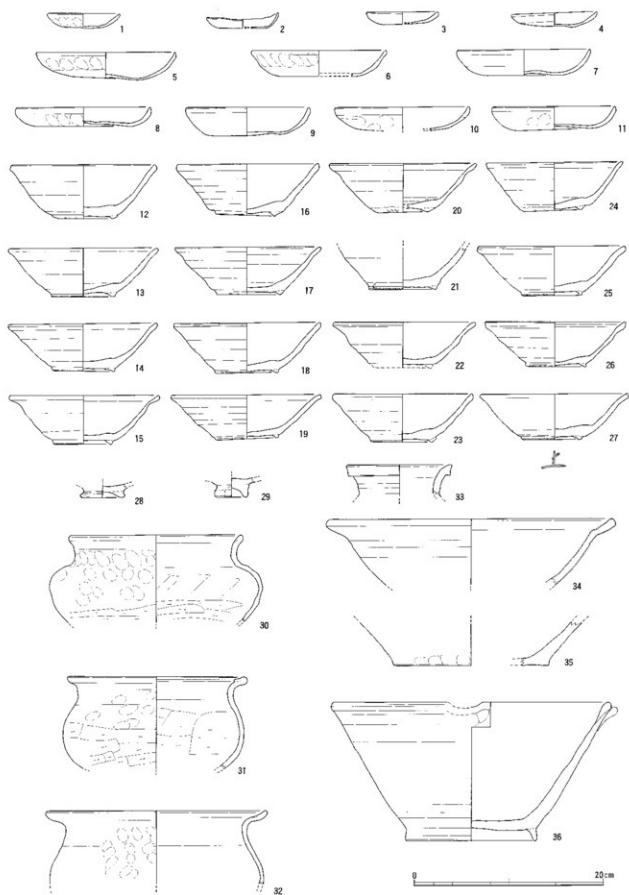
45～52は陶器山茶椀である。45～50・52が渥美・湖西型第6型式に相当し、その特徴である高台が扁平・あるいは丸みを持ち、また底部が肉厚気味であるものが多い。50の色調は一般的なものと異なり、ぶい黄橙である。51は尾張型第6形式に相当する。墨書のあるものとしては、48には底部外面に「大」、49には体部外面に「上」、50には体部外面と底部外面に扇の絵、51には底部外面に「十」が描かれている。墨書の絵の出土遺物は今回の調査では、50の1点のみである。

53は陶器小型鉢で、瀬戸・狼投方面の産である。54は陶器甕で、常滑産である。55・56は土製で56は完形品である。57は陶器甕で、常滑産である。今回の調査では、この文様の常滑産甕小片が割りと多く出た。58は丸瓦である。

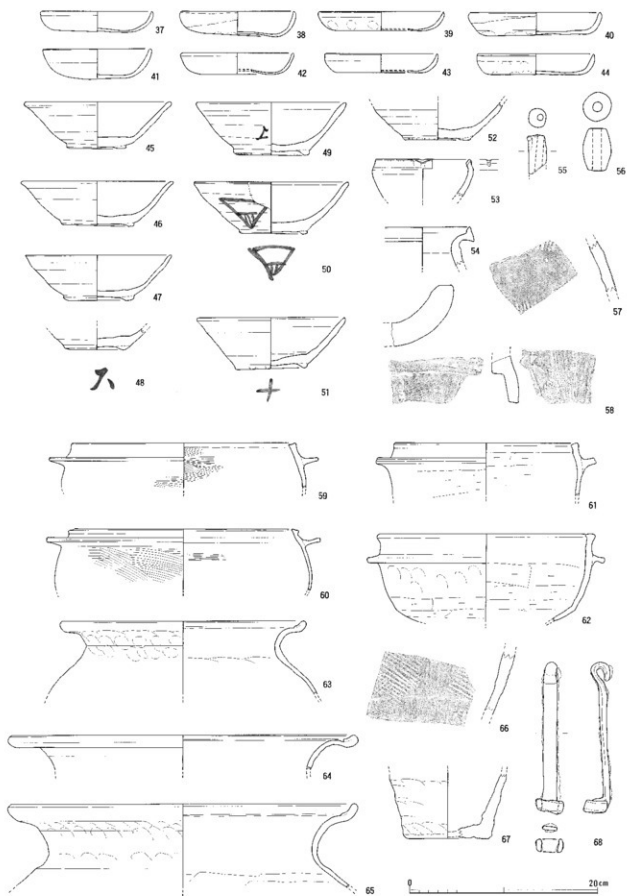
59～62は土師器羽釜で南伊勢系である。61・62がⅡa期、59がⅢb～Ⅳ期、60がⅣ期のものである。63～65は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第1段階に相当する。66は、陶器甕で渥美産である。67は土師器で壺かと思われる。68は鉄製鉋前で、錆による劣化はあるものの残存は良好で原型をよく留めている。鉄製品としてはこの器種の出土は珍しい。

69～80は土師器鍋である。いずれも第1段階に相当する。肉厚気味の丸みを帯びた口縁部や短かめの内部の折り返しにその特徴がよく現れている。78は内面の磨耗が激しい。

81・82は土師器皿で南伊勢系である。体部は大きめの角度で丸みを持って立ち上がる。特に82は、前述の南伊勢系の土師器に比べると器高に対する口径の比は小さい。83～87は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第2段階に相当する。88・89は陶器山皿である。89は完形品である。いずれも尾張型第6型式



第13図 出土遺物実測図(1) (1:4)



第14图 出土遺物実測図(2) (1:4)

に相当する山皿である。90は陶器鉢鉢で知多・猿投方面産である。91は陶器鉢鉢で常滑産である。

92~94、96~98、100・101は青磁碗である。このうち92~93、96・98、100・101は龍泉窯系と判別でき、そのうちの92・93・96は、㊟群（E期）に相当する。95は青白磁合子である。今回の調査でた青白磁はこれ1点だけである。99は青磁小皿である。

102~107は土師器小皿で南伊勢系である。102は底部から体部にかけて厚くなるが、それ以外は、それら厚みに大きな変化はない。104は口縁・低部の歪みが大きい。

108~111は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階（Ⅲb期）に相当する。112は陶器甕で渥美産である。113~114は陶器山茶椀である。113が渥美・湖西型第6形式に相当し、114が尾張型第6形式に相当する。114には内面に墨の付着痕がある。また

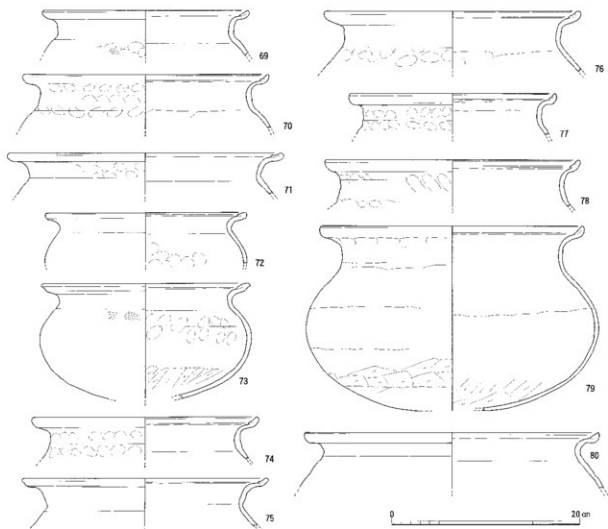
外面底部には円形の墨書がある。115は土師器土製支脚である。116は石製温石である。滑石製である。温石は平成2年度に行われた第3次調査でも出土したが、南勢地方での出土例は極めて珍しい。117は鉄製火打鎌である。錆による劣化はあるものの残存は良好である。118~120は陶器鉢鉢である。121は陶器蓋で瀬戸産である。合子の蓋と考えられ菊花紋がある。

122は陶器有耳垂で常滑産である。123は、丸瓦である。124は石鍋で滑石製である。石鍋は平成2年度の第3次調査でも出土したが、出土例は珍しい。

S D 727出土遺物

125は土師器皿で、南伊勢系である。2対計4箇所の焼成後の穿孔は紐通し用のものと考えられる。126は南伊勢系土師器鍋である。（仮）A段階~第1段階にかけてのものと考えられる。

S D 703出土遺物



第15図 出土遺物実測図 (3) (1:4)

127は青磁小皿で、龍泉窯系である。内面には重ね焼きをした痕が見られる。128は青磁椀で、龍泉窯系である。129～131は陶器山茶椀である。いずれも渥美・湖西型第6型式に相当する。132は陶器壺で、瀬戸産である。133は須恵器である。他に須恵器の出土が見られないことから、他の場所からの流入品かと考えられる。134・135は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第2段階に相当する。

S D 848出土遺物

136は土師器小皿で、南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がり方が極めて緩やかである。底部と口縁部は連続的で厚さにほとんど変化はなく扁平である。137は土師器皿で南伊勢系である。底部から体部は急な角度で立ち上がり、両部の厚さにほとんど変化はない。138は陶器山茶椀である。いずれも渥

美・湖西型第6型式に相当する。139・140は南伊勢系の土師器鍋である。139は第1段階に相当する。

S D 747出土遺物

141は土師器鍋である。南伊勢系で(仮)A段階～第1段階にかけてのものと考えられる。142・143は陶器山茶椀である。143の色調は黄灰で外面と内面上部につけかけ釉がみられる。渥美・湖西型第7型式に相当する。

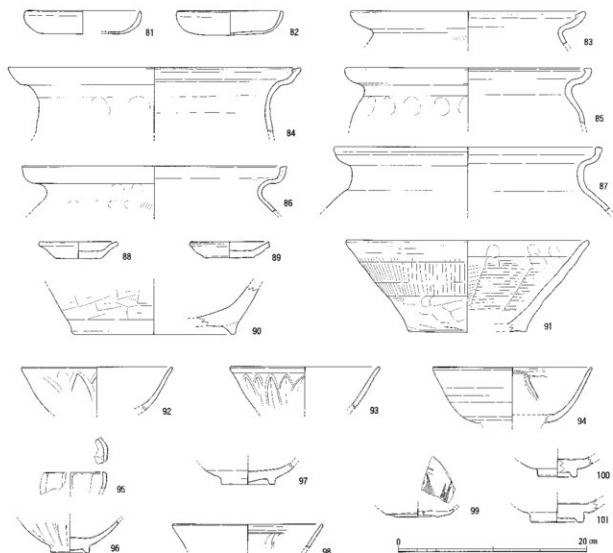
S K 781出土遺物

144は土師器小皿で南伊勢系である。底部中央が上に曲がる。

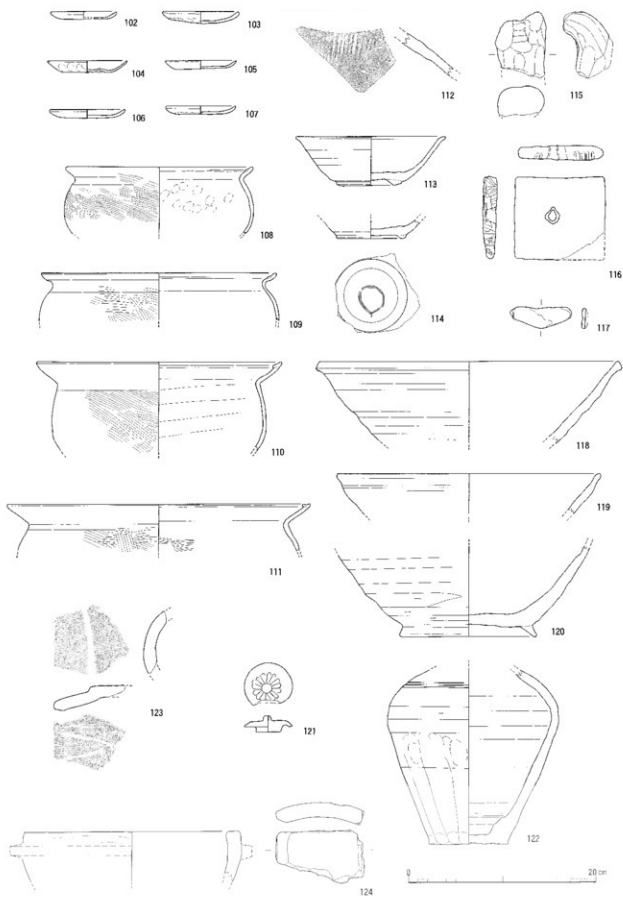
S K 847出土遺物

145は土師器小皿で南伊勢系である。146は土師器鍋である。南伊勢系で第1段階に相当する。

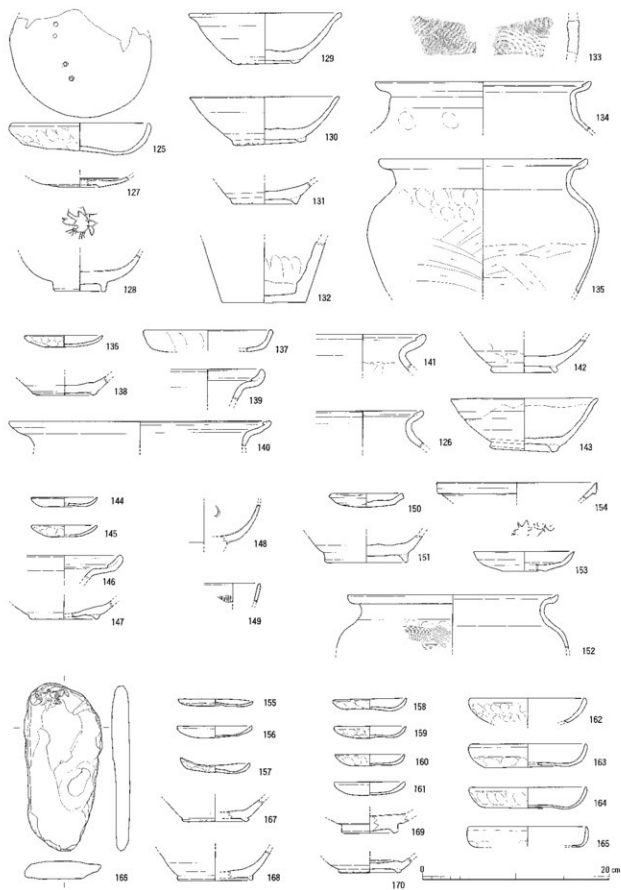
S K 845出土遺物



第16図 出土遺物実測図(4) (1:4)



第17図 出土遺物実測図(5) (1:4)



第18図 出土遺物実測図(6) (1:4)

147は陶器山茶椀で尾張型第6型式に相当する。

S K 785出土遺物

148は同安窯系の青磁椀で④群(D期)に相当する。

S K 749出土遺物

149は龍泉窯系の青磁椀で⑧群(D期)に相当する。

S K 722出土遺物

150は陶器山皿である。151は陶器山茶椀である。渥美・湖西型第5型式に相当する。152は土師器鍋である。伊藤氏編年の第2段階に相当する。153は青磁小皿である。同安窯系で、山本氏の分類では④群(D期)に相当する。

S D 736出土遺物

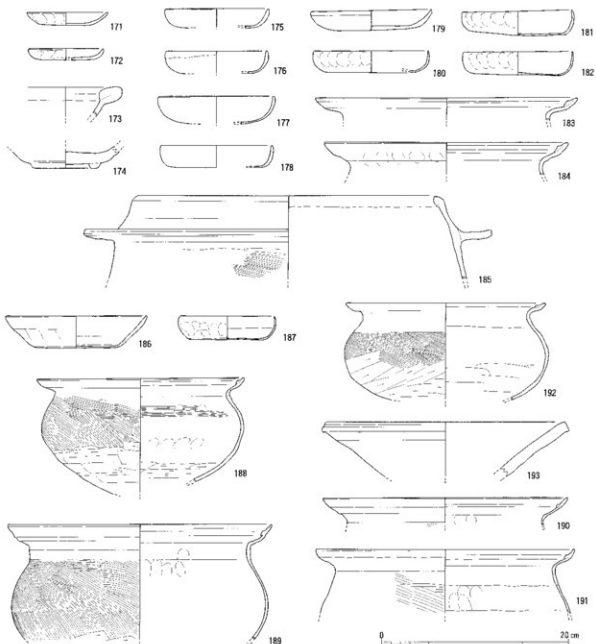
154は白磁椀である。華南一帯産で④群(C期)に相当する。

S K 846出土遺物

155~161は土師器小皿である。155は扁平であるが、157~161は底部から体部へは丸みをもって立ち上がる。157は全体的な歪みが大きい。162~165は土師器皿である。165は底部から体部へは直角に近い角度で立ち上がる。

S K 707出土遺物

166は砥石である。しかし上部は打ちつけたとも



第19図 出土遺物実測図(7)(1:4)

みられる痕があり、もとは打製石器の可能性も考えられる。168は陶器山茶碗である。内面には炭化物の付着痕が顕著に分かる。

S K 761出土遺物

167は陶器山茶碗である。尾張型第6型式～第7型式にかけてのものと考えられる。

S K 723出土遺物

169は龍泉窯系の青磁椀で⑨群(E期)に相当する。

7 C P i t 9出土遺物

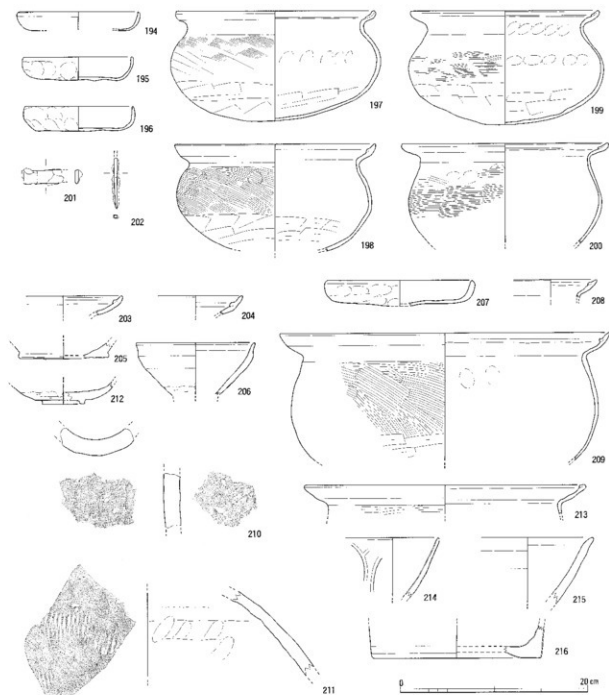
170は、陶器山茶碗である。尾張型第6型式～第7型式にかけてのものと考えられる

52 C P i t 4出土遺物

171は土師器小皿で南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がりの角度は緩やかで直線的である。

58 C P i t 11出土遺物

172は、土師器小皿で南伊勢系である。口縁部の



第20図 出土遺物実測図(8)(1:4)

厚さが他のものと比べて厚い。

S D 765 出土遺物

173は土師器大型鉢で出土はこれ一点のみである。

27 C P i t 2 出土遺物

174は陶器山茶碗である。底部は厚くやや盛り上がりを見せている。渥美・湖西型第7型式に相当する。当調査では第7型式の出土は極めて少ない。

S K 784 出土遺物

175～178は土師器皿で南伊勢系である。175の口縁部は厚い。177は底部から口縁部の立ち上がりが円形であって、口縁部径に対して器高の割合が大きい。

178は底部から口縁部の立ち上がりが急な角度で立ち上がっている。

S K 794 出土遺物

179～182は土師器皿で南伊勢系である。181・182は底部から口縁部への立ち上がりが急で、他のものと比べると厚さは非常に薄い。183・184は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階に相当し、口縁部の内面への折り返しにその特徴がよく表

れている。185は土師器羽釜で南伊勢系である。

S K 753 出土遺物

186は土師器杯である。土師器杯の出土はこれ一点だけである。187は土師器皿で南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がりの角度は急である。南伊勢系のこれまでの同器種の中では器高に対する口径の比は小さい。当調査ででた土師器皿としては最も新しく時代的にはⅢb期のものと考えられる。188～191は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階に相当する。209は土師器鍋、210は丸瓦、211は陶器壺である。

S K 779 出土遺物

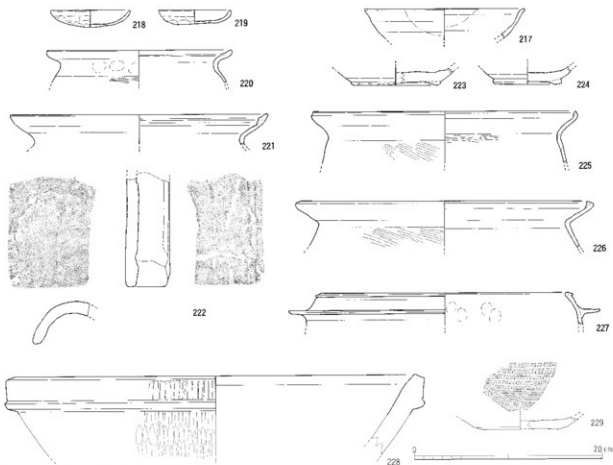
192は南伊勢系の土師器鍋である。第2段階に相当する。193は陶器鉢である。

S D 782 出土遺物

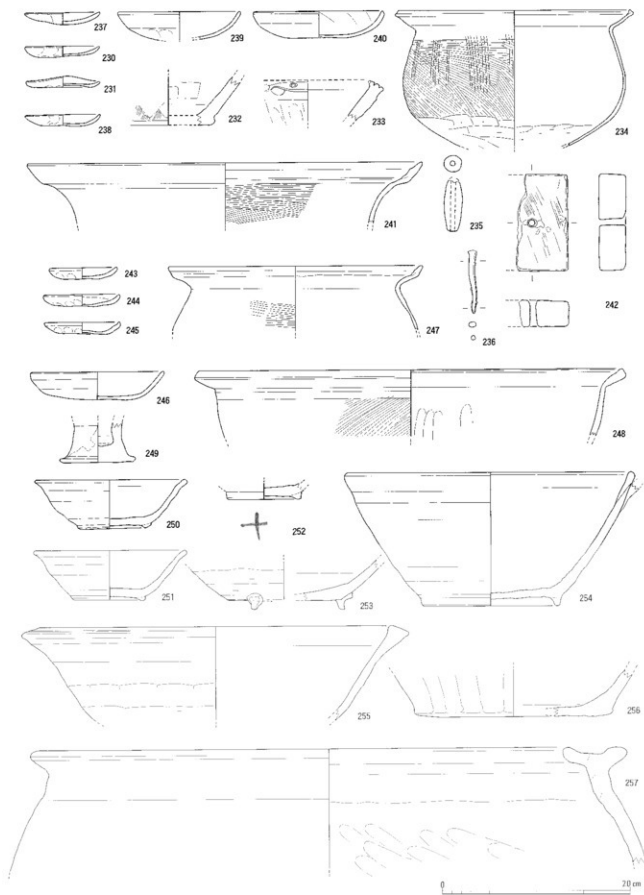
194は南伊勢系の土師器皿で、器高に対する口径の比は特に大きい。203は土師器鍋で南伊勢系である。

S K 800 出土遺物

195・196は土師器皿で南伊勢系である。196は



第21図 出土遺物実測図(9)(1:4)



第22図 出土遺物実測図(10) (1:4)

完存品である。197～200は土師器鍋である。いずれも南伊勢系で、197が第2段階に198～200が第3段階に相当する。201は鉄製品であるが小断片より器種不明である。202は鉄製釘である。

S K 798出土遺物

204は土師器鍋で南伊勢系である。

33 B P i t 4 出土遺物

205は土師器椀でこの器種の出土は極めて少ない。

21 C P i t 6 出土遺物

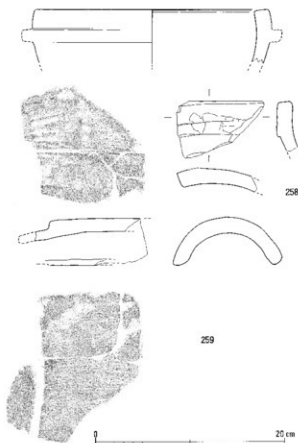
206は陶器天目茶椀で、にぶい褐色のサビ釉がつく。

S K 755出土遺物

207は土師器皿である。208は土師器鍋で南伊勢系第3段階に相当する。

S D 702出土遺物

212は陶器椀で、瀬戸産である。213は土師器鍋である。南伊勢系で第4段階に相当する。214は青磁椀である。龍泉窯系で山本氏の種類では㊟群（E期）に相当する。215は陶器鉢鉢で渥美産と思われる。216は陶器鉢で瀬戸産と思われる。



第23図 出土遺物実測図 (11) (1:4)

S D 810出土遺物

217は、陶器山茶椀で一部に施釉がある。

S K 754出土遺物

218・219は土師器小皿で口縁部に油煙痕があり灯明皿として使われていたと考えられる。219は完存品である。220・221・225・226は土師器鍋である。いずれも南伊勢系で220は第1段階、221が第3段階、225・226が第4段階に相当する。222は丸瓦である。223・224は陶器山茶椀である。224については渥美・湖西型第6型式に相当する。227は羽釜で南伊勢系である。228は石鍋で滑石製で、外面の縦方向へのヘラケズリの痕が顕著である。229は陶器卍皿である。

S K 825出土遺物

230は土師器小皿で南伊勢系である。

S K 771出土遺物

231は土師器小皿で南伊勢系である。

20 B P i t 7 出土遺物

232は陶器甕である。胎土はやや粗い。

S K 728出土遺物

233は陶器鉢で、口縁上部に竹管痕がある。

33 B P i t 4 出土遺物

234は南伊勢系の土師器鍋で第4段階に相当する。

S D 842出土遺物

235は土製鏝で完存品である。

32 B P i t 1 出土遺物

236は鉄製釘で、長さ6.7cmである。

自然流路 (A地区) 出土遺物

237・238は土師器小皿、239・240は土師器皿、241は土師器鍋でいずれも南伊勢系である。242は温石である。

包含層出土遺物

243～245は土師器小皿、246は土師器皿、247・248は土師器鍋でいずれも南伊勢系である。249は陶器花瓶で、瀬戸産である。250～252は陶器山茶椀である。252の底部外面には「十」の墨書がある。253は陶器三足鉢で、瀬戸産である。254は陶器片口鉢で知多・猿投方面の産である。255は陶器鉢、256・257は陶器甕である。257は常滑産である。258は石鍋で滑石製である。259は丸瓦である。

| 報告番号 | 遺構番号 | 遺構 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上法 | 法量(m) | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|-------------|----|------|-------|-----|------------------------|--------------------------------------|----------------------------|----|--|----------------|--------------------------------|
| 1 | 001-07 | 土師器 小皿 | B | 14C | SD701 | SD1 | 口7.6 高1.6 | 片・オサエ・ナデ 内・ナデ | やや粗、~1.5mmの小石含む | 黒 | 5YR7/6 | ほぼ 完好 | |
| 2 | 002-04 | 土師器 小皿 | B | 298C | SD701 | SD1 | 口7.5 高1.4 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、~2.5mmの砂粒含む | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 完整 | 口縁ゆがみ大 |
| 3 | 002-05 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口7.6 高1.2 | 片・オサエ・ナデ 内・オサエ・ナデ | やや粗、~1mmの塵砂粒含む | 黒 | 5YR7/6 | 口縁 3/4 | |
| 4 | 001-06 | 土師器 小皿 | B | 36C | SD701 | SD1 | 口9.0 高1.4 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、~3.5mmの小石含む | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 完好 | |
| 5 | 001-01 | 土師器 小皿 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口14.6 高2.8 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、3mmの砂粒含む | 黒 | に灰~黄緑 7.5YR7/4 | 口縁 5/7 | |
| 6 | 001-05 | 土師器 小皿 | B | 25B | SD701 | SD1 | 口14.2 高2.7 | 片・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内・オサエ・ヨコナデ | やや粗、~2.5mmの砂粒含む | 黒 | 7.5YR7/6 | 口縁 5/7 | |
| 7 | 003-03 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口14.2 高2.7 | 片・オサエ・ヨコナデ 内・ナデ | 密 | 黒 | 外・緑 7.5YR7/6 内・に灰~黄緑 7.5YR7/4 | 口縁 2/6 | |
| 8 | 001-02 | 土師器 小皿 | B | 188C | SD701 | SD1 | 口14.2 高2.0 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、~1mmの砂粒含む | 黒 | 濃黄緑 10YR8/4 | 口縁 5/7 | |
| 9 | 003-08 | 土師器 小皿 | B | 11B | SD701 | SD1 | 口13.1 高3.0 | 片・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/4 | 口縁 2/3 | |
| 10 | 003-02 | 土師器 小皿 | B | 188C | SD701 | SD1 | 口14.2 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ | やや粗、~2mmの砂粒含む | 黒 | に灰~黄緑 10YR7/4 | 口縁 5/7 | |
| 11 | 003-01 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口13.1 高2.2 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/2 | |
| 12 | 020-03 | 海部 山系類 | B | 308C | SD701 | SD1 | 口15.5 高5.7 | 片・ロクロナデ・赤切り・ナデ びけり付高台後ナデ 内・ロクロナデ | 密、~4mmの砂粒を含む | 黒 | 灰白 5Y7/1 | 口縁 1/2 | 高台に磨蝕痕 |
| 13 | 017-03 | 海部 山系類 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口15.8 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~1mmの砂粒と3mmの小石含む | 黒 | 外・灰 5Y6/1 内・灰白 5Y7/1 | 口縁 1/2 | 高台に磨蝕痕 |
| 14 | 019-02 | 海部 山系類 | B | 348C | SD701 | SD1 | 口15.7 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~2.4mmの砂粒を多く含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 完好 | 高台に磨蝕痕 |
| 15 | 021-01 | 海部 山系類 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口15.8 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台 内・ロクロナデ・ナデ | 粗、~3.5mmの小石含む | 黒 | 灰白 2.5Y8/1 灰白 2.5Y7/1 | 完好 | 高台に磨蝕痕 |
| 16 | 015-04 | 海部 山系類 | B | 37B | SD701 | SD1 | 口15.0 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台 内・ロクロナデ | やや粗、1~2mmの砂粒含む | 黒 | 灰白 N8/0 | 口縁 5/6 | 高台に磨蝕痕 |
| 17 | 016-05 | 海部 山系類 | B | 19B | SD701 | SD1 | 口15.3 高5.0 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ヨコナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~2mmの砂粒を含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 5/6 | 高台に磨蝕痕 |
| 18 | 022-02 | 海部 山系類 | B | 19B | SD701 | SD1 | 口14.4 ~16.1 高5.3 | 片・ロクロナデ・赤切り・ナデ 貼り 付り高台 内・ロクロナデ | やや粗、~4.5mmの小石含む | 黒 | 灰白 N8/ | 完好 | 高台に磨蝕痕 口縁部 内に自然磨 口縁ゆがみ大 |
| 19 | 021-02 | 海部 山系類 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口15.7 高5.8 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台 内・ロクロナデ・ナデ | 粗、~4mmの小石含む | 黒 | 灰白2.5Y8/1 | 口縁 5/12 | 高台に磨蝕痕 |
| 20 | 016-02 | 海部 山系類 | B | 228C | SD701 | SD1 | 口15.5 高5.2 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台 内・ロクロナデ | やや粗 | 黒 | 灰白 2.5Y6/1 | 口縁 1/2 | 高台に磨蝕痕 |
| 21 | 017-04 | 海部 山系類 | B | 288C | SD701 | SD1 | 高台:7. 2 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~1mmの砂粒と3~4mmの小石含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 高台 完好 | 内部に自然磨り/高台 に赤焼 外表面に 磨蝕あり |
| 22 | 021-04 | 海部 山系類 | B | 228C | SD701 | SD1 | 口15.7 高4.9 | 片・ロクロナデ・赤切り 内・ロク ロナデ | やや粗、~3.5mmの小石含む | 黒 | 灰白 2.5Y8/1 灰白2.5Y8/2 | 口縁 1/4 | 外周・内面に自然磨 |
| 23 | 020-02 | 海部 山系類 | B | 24B | SD701 | SD1 | 口14.9 高5.1 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~2mmの砂粒を含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 1/6 | 高台に磨蝕痕 |
| 24 | 016-04 | 海部 山系類 | B | 25B | SD701 | SD1 | 口14.4 高5.1 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ヨコナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~5mmの砂粒を含む | 黒 | 灰白 5Y7/1 | 口縁 3/4 | 高台に磨蝕痕 |
| 25 | 020-01 | 海部 山系類 | B | 228C | SD701 | SD1 | 口15.8 高5.2 | 片・ロクロナデ・赤切り・ナデ 貼 り付り高台後ナデ 内・ロクロナデ | やや粗、~5mmの砂粒を多く含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 1/4 | 高台に磨蝕痕 内面に自然磨 |
| 26 | 018-01 | 海部 山系類 | B | 37C | SD701 | SD1 | 口14.9 高4.7 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台後ナデ 内・ロクロナデ・ナデ | やや粗、~0.5mmの砂粒と2mm、4mmの小石含む | 黒 | 灰白 2.5Y6/1 | 口縁 1/3 | 高台に磨蝕痕 |
| 27 | 015-03 | 海部 山系類 | B | 37B | SD701 | SD1 | 口15.7 高4.8 | 片・ロクロナデ・赤切り 貼り付 り高台 内・ロクロナデ | やや粗、1~2mmの砂粒含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 5/12 | 高台に磨蝕痕 体部外 面に磨り(上) |
| 28 | 023-01 | 土師器 台付小皿 | B | 15B | SD701 | SD1 | 高台:4. 7 | 片・ロクロナデ 貼り付り高台 | 密 | 黒 | 濃黄緑 7.5YR8/4 | 高台 完好 | |
| 29 | 023-05 | 土師器 台付小皿 | B | 37B | SD701 | SD1 | 高台:3. 6 | 片・貼り付り高台にナデ 内・ナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 高台 完好 | |
| 30 | 004-02 | 土師器 鉢 | B | 24B | SD701 | SD1 | 口18.4 | 片・ウズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ウズリ・工具ナデ・ヨコナデ | 密、~1.5mmの砂粒を含む | 黒 | に灰~黄緑 7.5YR8/3 に灰~黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/6 | 外周に窪付帯 |
| 31 | 004-04 | 土師器 鉢 | B | 36C | SD701 | SD1 | 口19.0 | 片・ウズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ウズリ・ナデ・ヨコナデ | 密 | 黒 | に灰~黄緑 10YR7/3 | 口縁 7/12 | 外周に窪付帯 |
| 32 | 004-01 | 土師器 鉢 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口23.4 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ヨコナデ | やや粗、~1.5mmの砂粒を多く含む | 黒 | に灰~黄緑 10YR7/4 | 口縁 1/2 | 外周に窪付帯 |
| 33 | 029-04 | 海部 山系類 | B | 318C | SD701 | SD1 | 口11.2 | 片・ロクロナデ 内・ロクロナデ 自然磨 | やや粗、~4mmの小石含む | 黒 | 外・灰白 10YR3/2 内・灰黄緑 10YR4/2~ 黄緑 10YR4/1 | 口縁 小片 | |
| 34 | 029-01 | 海部 山系類 | B | 358C | SD701 | SD1 | 口30.6 | 片・ロクロナデ 内・ロクロナデ | やや粗 | 黒 | 灰白2.5Y8/1 粘・濃黄 2.5Y7/3 | 口縁 1/12 | |
| 35 | 029-03 | 海部 山系類 | B | 258C | SD701 | SD1 | 底:16.4 | 片・ナデ・オサエ 内・ナデ 自然磨 | やや粗、~6mmの小石含む | 黒 | 外・灰白 7.5YR5/2 内・黄 灰オリーブ 7.5Y5/3 | 底部 1/12 | |
| 36 | 026-02 | 海部 片口縁鉢 | B | 268C | SD701 | SD1 | 口29.6 高14.6 | 片・ロクロナデ 口周ウズリ・ナ デ 内・ロクロナデ | やや粗、1~2mmの砂粒を含む | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 1/12 | |
| 37 | 001-04 | 土師器 盆 | B | 178C | SD701 | SD1 | 口11.8 高2.2 | 片・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、~1mmの塵砂粒含む | 黒 | 濃黄 2.5YR8/3 | 口縁 7/12 | |

第4表 出土遺物観察表(1)

| 報告番号 | 登録番号 | 遺種 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上げ遺構名 | 法長(m) | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色類 | 残存度 | 備考 | | |
|------|--------|----------|----|-------|-------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|-------------|---|------------------|-------------------|----|----|
| 38 | 003-06 | 土師器 皿 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口12.2 高2.5 | 外:オサエナデ 内:オサエナデ | 密 | 底 | 透黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/4 | | | |
| 39 | 001-03 | 土師器 皿 | B | 26B | SD701 | SD1 | 口13.2 高2.0 | 外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~1mmの砂粒多量含む | 底 | 透黄 7.5YR7/6 | 口縁 1/2 | | | |
| 40 | 003-09 | 土師器 皿 | B | 30B | SD701 | SD1 | 口14.2 高2.4 | 外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密 | 底 | 底にぶい黄緑 7.5YR7/6 | 口縁 5/12 | | | |
| 41 | 003-10 | 土師器 皿 | B | 36C | SD701 | SD1 | 口11.5 高3.2 | 外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密 | 底 | 外:ぶい黄緑10YR7.3 内:ぶい黄緑 7.5YR7/3 | 底面 | | | |
| 42 | 001-08 | 土師器 皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口11.8 高2.2 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、~1mmの微砂粒含む | 底 | 透黄緑 7.5YR8/4 | 口縁 1/6 | | | |
| 43 | 002-03 | 土師器 皿 | B | 35B | SD701 | SD1 | 口11.8 高2.0 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、~1mmの微砂粒含む | 底 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/4 | | | |
| 44 | 003-07 | 土師器 皿 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口12.5 高2.2 | 外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ナデ | 密 | 底 | 外:灰黄緑 10YR6/2内: にぶい黄緑10YR7/2 | 口縁 1/4 | | | |
| 45 | 015-06 | 陶器 山形鉢 | B | 23B | SD701 | SD1 | 口15.2 ~15.6 高4.9 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密 | 底 | 灰白 NB/0 | 口縁 5/6 | | | |
| 46 | 021-05 | 陶器 山形鉢 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口16.2 高4.6 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密、~2mmの砂粒含む | 底 | 灰白2.5Y7/1 黄鉄 2.5Y6/1 | 口縁 1/12 | 外面低部と内面に煤付層 | | |
| 47 | 022-01 | 陶器 山形鉢 | B | 25B | SD701 | SD1 | 口15.3 高4.8 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密、~4.5mmの小石含む | 底 | 灰白 NB/0 | 口縁 1/6 | | | |
| 48 | 022-04 | 陶器 山形鉢 | B | 30B | SD701 | SD1 | 高さ:6. 口15.3 高5.6 | 外:ロクロナデ・赤切り・ナデ 紐り 付け高台 内:ロクロナデ | やや密、~2.5mmの砂粒含む | 底 | 灰白 2.5Y7/1 | 高台 2/3 | 底面に黒色土に墨書「大」 | | |
| 49 | 019-03 | 陶器 山形鉢 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口15.9 高5.3 | 外:ロクロナデ・赤切り・ナデ 紐り 付け高台 内:ロクロナデ | 密、~5mmの砂粒を含む | 底 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 2/3 | 底面に黒色土に墨書「上」 | | |
| 50 | 019-01 | 陶器 山形鉢 | B | 37B | SD701 | SD1 | 口16.4 高5.3 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | 密、~1.5mmの砂粒と7mm次の小石含む | 底 | にぶい黄緑 10YR7/2 | 口縁 2/3 | | | |
| 51 | 016-01 | 陶器 山形鉢 | B | 26B | SD701 | SD1 | 口15.7 高5.9 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 底 | 灰白 2.5Y7/1 | 底面 | 底面外面に墨書「十」高台に黒色土 | | |
| 52 | 021-03 | 陶器 山形鉢 | B | 27B | SD701 | SD1 | 高さ:7. 口15.7 高5.9 | 外:ロクロナデ・赤切り 紐り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密、~3.0mmの砂粒含む | 底 | 灰白 2.5Y7/1 | 高台 底面 | 高台に黒色土 | | |
| 53 | 025-07 | 陶器 小豆鉢 | B | 33B | SD701 | SD1 | 口10.0 | 外:ロクロナデ 内:ロクロナデ | 密 | 底 | 灰白 NB/0 | 口縁 1/6 | | | |
| 54 | 030-02 | 陶器 鉢 | B | 19BC | SD701 | SD1 | 口1. — | 外:ロクロナデ 内:ロクロナデ | やや密、~3mmの砂粒含む | 底 | 外:にぶい黄緑5YR4/3 内:黄鉄 7.5YR4/3-灰黄 緑10YR5/2 | 口縁 小片 1/12 | | | |
| 55 | 024-01 | 土製 土師器 鉢 | B | 30B | SD701 | SD1 | 高さ4.1 口1.9 高1.0 厚0.7 | 外:オサエナデ 内:内輪状具の焼き痕 | 密 | 透黄緑 10YR8/3 | 1/3 | | | | |
| 56 | 024-02 | 土製 土師器 鉢 | B | SD701 | SD1 | 高さ4.5 口1.9 高1.0 厚0.7 | 外:オサエナデ 内:内輪状具の焼き痕 | 密 | 透黄緑 10YR7/3 黄鉄 2.5Y6/1 | 底面 | 底面 | 底面 | 底面 | | |
| 57 | 030-03 | 陶器 鉢 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口1. — | 外:不詳 内:ナデ・オサエ | やや密、~2mmの砂粒含む | 底 | 底:灰白 5Y4/2 内:灰 5Y5/1 | 底面 小片 | | | |
| 58 | 024-04 | 丸瓦 | B | 23BC | SD701 | SD1 | 厚2.5 | 外:不詳 内:ズリ・赤目 | 密 | 底 | 灰白 NS/0 | 口縁 1/6 | | | |
| 59 | 013-01 | 土師器 須臾 | B | 13BC | SD701 | SD1 | 口23.8 高28.4 | 外:ハケメコナデ 網紐り付け 内:ハケメコナデ | やや密、1mmの砂粒含む | 底 | 灰白 2.5YR8/2 灰白10YR8/2 | 口縁 1/12 | 外面に煤付層 | | |
| 60 | 014-01 | 土師器 須臾 | B | 13BC | SD701 | SD1 | 口24.3 高28.9 | 外:ハケメコナデ 網紐り付け 内:ハケメコナデ | やや密、1~2mmの砂粒含む | 底 | 灰白10YR8/2 灰白10YR6/1 | 口縁 1/3 | 外面に煤付層 | | |
| 61 | 013-02 | 土師器 須臾 | B | 37B | SD701 | SD1 | 口19.6 高23.3 | 外:ズリ・コナデ 網紐り付け 内:ズリ・コナデ | やや密 | 底 | 透黄緑 5YR8/4 にぶい黄緑 7.5YR8/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤付層 | | |
| 62 | 014-02 | 土師器 須臾 | B | 36C | SD701 | SD1 | 口23.2 高25.2 | 外:ズリ・オサエナデ・コナデ 網紐り付け 内:ズリ・コナデ | やや密、1~2mmの砂粒含む | 底 | 透黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/4 | 外面に煤付層 | | |
| 63 | 007-01 | 土師器 鉢 | B | 37B | SD701 | SD1 | 口26. 厚0.7 | 外:ナデ・オサエナデ・コナデ 内:ナデ・コナデ | 密 | 底 | 外:にぶい黄緑 10YR7/ 4 内:透黄緑 7. 5YR8/6 | 口縁 1/4 | 外面に煤付層 | | |
| 64 | 009-01 | 土師器 鉢 | B | 23BC | SD701 | SD1 | 口37.0 | 外:ナデ・コナデ 内:ナデ・コナデ | やや密、1.5mmの小石含む | 底 | 外:にぶい黄緑 10YR7/4 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 | | |
| 65 | 008-01 | 土師器 鉢 | B | 33C | SD701 | SD1 | 口37.0 | 外:オサエナデ・コナデ 内:工具ナデ・コナデ | 密、~0.5mmの砂粒と2mmの小石含む | 底 | 透黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/6 | 外面に墨書残あり | | |
| 66 | 028-03 | 陶器 鉢 | B | 33B | SD701 | SD1 | 口1. — | 外:タタキナデ 内:ナデ・ロクロナデ | やや密 | 底 | 灰白 N4/0 | 底面 小片 | | | |
| 67 | 031-07 | 土師器 蓋? | B | 27BC | SD701 | SD1 | 高さ9.4 口16.0 高3.0 厚0.9 | 外:不詳 内:不詳 | 密、~2mmの砂粒含む | 底 | 透黄緑 7.5YR8/4 灰白 2.5YR8/2 | 底面 | 底面 | 底面 | 底面 |
| 68 | 053-01 | 鉄製 錠前 | B | 14BC | SD701 | SD1 | 高さ16.0 幅3.0 厚0.9 | | | | | | | | |
| 69 | 006-04 | 土師器 鉢 | B | 24BC | SD701 | SD1 | 口21.9 | 外:ナデ・コナデ 内:ナデ・コナデ | 密、~2mmの砂粒多量含む | 底 | 透黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/12 | 外面に煤付層 | | |
| 70 | 008-02 | 土師器 鉢 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口26.0 | 外:オサエナデ・コナデ 内:工具ナデ・コナデ | やや密、~1mmの砂粒含む | 底 | 外:にぶい黄緑 10YR8/ 3 内:にぶい黄緑 10YR7/4 | 口縁 1/4 | 外面に煤付層 | | |
| 71 | 005-02 | 土師器 鉢 | B | 37C | SD701 | SD1 | 口29.2 | 外:オサエナデ・コナデ 内:ナデ・コナデ | 密、~2mmの砂粒多量含む | 底 | 外:にぶい黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 | | |
| 72 | 005-01 | 土師器 鉢 | B | 32B | SD701 | SD1 | 口21.3 | 外:オサエナデ・コナデ 内:オサエナデ・コナデ | 密、~3mmの砂粒含む | 底 | 外:にぶい黄緑 7.5YR6/4 | 口縁 1/12 | 外面に煤、内面に灰化 物付層 | | |
| 73 | 006-03 | 土師器 鉢 | B | 30B | SD701 | SD1 | 口22.0 | 外:ナデ・コナデ 内:ズリ・コナデ | 密、~3.5mmの砂粒多量含む | 底 | 透黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/12 | 外面に煤、内面に灰化 物付層 | | |
| 74 | 009-04 | 土師器 鉢 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口24.0 | 外:オサエナデ・コナデ 内:ナデ・コナデ | 密、1.5~3mmの小石と0.5mmの砂粒含む | 底 | 外:にぶい黄緑 10YR7/4 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 | | |

第5表 出土遺物観察表(2)

| 報告番号 | 遺跡番号 | 遺構 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上時 深層(m) | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 | | |
|------|--------|-----------|----|------|-------|--------------|------------------|------------------------------------|----|----------------------------|-----|---|-------------------------------|-------------------|
| 75 | 005-04 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口 26.0 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | 灰、～2mmの紫砂多量含む | 量 | 外に灰黄緑 10YR6/3 | 口縁 1/4 外面に煤付着 | |
| 76 | 006-02 | 土師器 小皿 | B | 33B | SD701 | SD1 | 口 27.2 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: 板ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～2mmの紫砂多量含む | 量 | 灰黄緑 7.5YR8/4 | 口縁 1/4 外面に煤付着 | |
| 77 | 009-03 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口 22.0 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～1.5mmの紫砂と黒色含む | 量 | 外に灰黄緑 10YR8/3 内: 灰黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 78 | 009-02 | 土師器 小皿 | B | 25B | SD701 | SD1 | 口 26.0 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～0.5mmの紫砂と3mmの小石と炭屑を含む | 量 | 灰黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/4 外面に煤付着 外・内面 磨耗あり | |
| 79 | 010-01 | 土師器 小皿 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口 28.0 底 31.0 | 外: ナデ・ウズリナデ・オサエナデ 内: ウズリナデ・ヨコナデ | 密 | やや密 | 量 | 外に灰黄緑 内: 灰黄緑 | 口縁 1/6 1/6 | 外面に煤、内面に炭化 物付着 |
| 80 | 004-03 | 土師器 小皿 | B | 25B | SD701 | SD1 | 口 31.2 | 外: ナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～1mmの紫砂を含む | 量 | 外に灰黄緑 7.5YR6/4 | 口縁 3/4 外面に煤付着 | |
| 81 | 003-04 | 土師器 小皿 | B | 27B | SD701 | SD1 | 口 12.5 | 外: ナデ 内: ナデ | 密 | 密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/4 | 口縁 3/4 外面に煤付着 | |
| 82 | 003-05 | 土師器 小皿 | B | 29B | SD701 | SD1 | 口 11.3 高 2.6 | 外: ナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 灰黄緑 10YR8/3 | 口縁 3/4 外面に煤付着 | |
| 83 | 011-01 | 土師器 小皿 | B | 26B | SD701 | SD1 | 口 25.0 | 外: ナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 84 | 011-03 | 土師器 小皿 | B | 33B | SD701 | SD1 | 口 31.0 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: 工具ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 85 | 012-03 | 土師器 小皿 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口 26.2 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/4 外面に煤、内面に炭化 物付着 | |
| 86 | 011-02 | 土師器 小皿 | B | 29B | SD701 | SD1 | 口 28.0 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 灰黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 87 | 012-02 | 土師器 小皿 | B | 19B | SD701 | SD1 | 口 28.4 | 外: ナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR6/3 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 88 | 025-06 | 陶器 山盛 | B | 30B | SD701 | SD1 | 口 8.4 高 1.6 | 外: ロクロナデ・赤切り 内: ロクロナデ | 密 | やや密 | 量 | 灰白 N8/0 | 口縁 1/4 外面に煤付着 | |
| 89 | 025-05 | 陶器 山盛 | B | 29B | SD701 | SD1 | 口 8.4 高 1.7 | 外: ロクロナデ・赤切り 内: ロクロナデ | 密 | やや密 | 量 | 灰白 N8/0 | 底面 灰白 | |
| 90 | 025-04 | 陶器 山盛 | B | 27B | SD701 | SD1 | 高さ: 1 7.4 | 外: ナデ・黒目付高台 内: ロクロナデ | 密 | やや密、～2mmの紫砂を含む | 量 | 灰白 N7/0 | 高さ 1/6 | |
| 91 | 028-01 | 土師器 鉢 | B | 30B | SD701 | SD1 | 口 25.8 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ハクメ・ヨコナデ | 密 | やや密、～3mmの紫砂を含む | 量 | 外に灰黄緑 7.5YR5/3 内: 灰黄 2.5 Y6/2 | 口縁 1/6 1/6 | 外面に煤、内面に炭化 物付着 |
| 92 | 031-06 | 青磁 小皿 | B | 32B | SD701 | SD1 | 口 16.0 | 外: 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 灰黄緑 2.5Y5/4 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 93 | 031-01 | 青磁 小皿 | B | 28B | SD701 | SD1 | 口 16.0 | 外: 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 朝オリブ灰 5GY7/1 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 94 | 032-04 | 青磁 小皿 | B | 30B | SD701 | SD1 | 口 16.8 | 外: 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 灰白 7.5Y6/2 | 口縁 1/6 1/12 | 外面に煤付着 |
| 95 | 030-04 | 青白磁 小皿 | B | 20B | SD701 | SD1 | 口 — | 外: 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 朝黄灰 5BCT/1 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 96 | 031-03 | 青磁 小皿 | B | 34B | SD701 | SD1 | 底 4.1 | 外: 灰釉 削り出し高台 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 朝オリブ灰 2.5GY7/1 | 底面 3/4 | 外面に煤付着 |
| 97 | 029-02 | 青磁 小皿 | B | 23B | SD701 | SD1 | 高さ 5.7 | 外: ロクロナデ・黒釉 削り出し 高台 内: ロクロナデ | 密 | 密 | 量 | 黒地灰白 5Y7/1 灰黄 緑 10YR5/2 朝黄オリ ブ 5YR6/2 | 高さ 1/6 底面 3/4 | 外面に煤付着 |
| 98 | 032-03 | 青磁 小皿 | B | 19B | SD701 | SD1 | 口 16.0 | 外: 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 灰白 5Y5/3 | 口縁 1/6 1/12 | 外面に煤付着 |
| 99 | 031-05 | 青磁 小皿 | B | 30B | SD701 | SD1 | 底 4.4 | 外: ロクロナデ・黒釉 灰釉 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 灰 7.5Y6/1 | 底面 1/4 | 外面に煤付着 |
| 100 | 031-04 | 青磁 小皿 | B | 14B | SD701 | SD1 | 底 4.2 | 外: 灰釉 削り出し高台 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | 朝オリブ 7.5Y6/2 | 底面 1/12 | 外面に煤付着 |
| 101 | 031-02 | 青磁 小皿 | B | 19B | SD701 | SD1 | 底 5.7 | 外: 灰釉 削り出し高台 内: 灰釉 | 密 | 密 | 量 | オリブ灰 5GY | 底面 1/2 | 外面に煤付着 |
| 102 | 002-01 | 土師器 小皿 | B | 21B | SD701 | SD1 | 口 6.8 高 0.8 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 灰 5YR7/6 | 口縁 1/4 外面に煤付着 | |
| 103 | 002-09 | 土師器 小皿 | B | 28B | SD701 | SD1 | 口 8.2 高 1.3 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～1mmの紫砂を含む | 量 | 灰黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/2 外面に煤付着 | |
| 104 | 002-02 | 土師器 小皿 | B | 36B | SD701 | SD1 | 口 8.4 高 1.2 | 外: オサエナデ 内: オサエナデ | 密 | やや密、～1.5mmの紫砂を含む | 量 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/2 口縁、底面含む | 外面に煤付着 |
| 105 | 002-08 | 土師器 小皿 | B | 28B | SD701 | SD1 | 口 7.5 高 0.9 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～2.5mmの紫砂を含む | 量 | 灰黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/2 外面に煤付着 | |
| 106 | 002-06 | 土師器 小皿 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口 8.0 高 0.9 | 外: ナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～1mmの紫砂を含む | 量 | 灰黄緑 5YR8/4 | 口縁 1/2 外面に煤付着 | |
| 107 | 002-07 | 土師器 小皿 | B | 15B | SD701 | SD1 | 口 7.3 高 0.9 | 外: オサエナデ・ヨコナデ 内: ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密、～2mmの紫砂を含む | 量 | 灰黄緑 2.5YR8/4 | 口縁 2/3 外面に煤付着 | |
| 108 | 006-01 | 土師器 小皿 | B | 13B | SD701 | SD1 | 口 19.8 | 外: ナデ・ハクメ・ヨコナデ 内: オサエナデ・ヨコナデ | 密 | 密、～1.5mmの紫砂を含む | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/2 | 口縁 1/12 外面に煤付着 | |
| 109 | 005-03 | 土師器 小皿 | B | 13B | SD701 | SD1 | 口 24.8 | 外: ハクメ・ヨコナデ 内: ヨコナデ | 密 | 密、～1.5mmの紫砂を含む | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/2 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 110 | 010-03 | 土師器 小皿 | B | 13B | SD701 | SD1 | 口 26.0 | 外: ハクメ・ヨコナデ 内: 工具ナデ・ヨコナデ | 密 | やや密 | 量 | 外に灰黄緑 10YR7/3 内: 灰黄 緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 外面に煤付着 | |
| 111 | 012-01 | 土師器 小皿 | B | 13B | SD701 | SD1 | 口 32.0 | 外: ハクメ・ヨコナデ 内: ハクメ・ナデ・ヨコナデ | 密 | 密 | 量 | 外に灰黄緑 7.5YR7/4 | 口縁 1/12 外面に煤付着 | |

第6表 出土遺物観察表 (3)

| 報告番号 | 登録番号 | 遺構 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上げ遺構名 | 法量(m) | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|-------------|----|------|-------|--------|-------------------------------|---|------------------------------|----|---|------------------|---------------------------------|
| 112 | 028-02 | 陶器 鉢 | B | 34B | SD701 | SD1 | 口:— 内:タタキナデ? 内:ナデ・ロクロナデ | 密 | 密 | 良 | 灰黄2.5Y6/1 内底 N6/ | 底部小片 | |
| 113 | 020-04 | 陶器 山形鉢 | B | 18B | SD701 | SD1 | 口:15.9 高:5.2 | 外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 紐 ひ付け高台ナデ 内:ロクロナデ | 密、~1mmの砂粒を含む | 良 | 黄白 10YR7/1 | 口縁 1/6 | |
| 114 | 017-05 | 陶器 山形鉢 | B | 27BC | SD701 | SD1 | 高台:7.2 高:5.2 | 外:ロクロナデ・糸切り 高台にナデ 紐ひ付け高台 内:ロクロナデ | やや密、~1mmの砂粒を含む | 良 | 灰黄2.5Y7/2 内:10YR7/2 | 高台 5/12 | 内面に黒付痕 外 底縁部に口の唇部 高 台に糸状痕 |
| 115 | 024-05 | 土師器 土器支脚 | B | 27BC | SD701 | SD1 | | | やや密、~2mmの砂粒を含む | 並 | にぶい褐 7.5YR6/3 | | |
| 116 | 032-05 | 石製 湯石 | B | 不明 | SD701 | SD1 | 横:9.5 厚:8.0 縦:1.5 | ケズリ痕穿孔 | | | 灰褐 10YR8/1 | 9/10 | 湯石製 |
| 117 | 053-02 | 鉄製 火打石 | B | 18B | SD701 | SD1 | 横:2.1 厚:0.6 | | | | | | ほぼ 変形 |
| 118 | 026-01 | 陶器 鉢鉢 | B | 14BC | SD701 | SD1 | 口:32.4 | 外:ロクロナデ ロクロナデ 内:ロクロナデ | やや密、1~2mmの砂粒を含む | 良 | 灰白 N7/0 | 口縁 1/6 | |
| 119 | 026-03 | 陶器 鉢鉢 | B | 27BC | SD701 | SD1 | 口:28.0 | 外:ロクロナデ | 密 | 良 | 灰白 N4/0 | 口縁 1/12 以下 | |
| 120 | 025-01 | 陶器 鉢鉢 | B | 17BC | SD701 | SD1 | 高台:1 4.0~1 4.5 | 外:ロクロナデ・ロクロナデ 内:ロクロナデ | やや密、5~8mmの小 石と1~3mmの砂粒を含む | 並 | 灰白 N7/0 | 高台 11/12 | |
| 121 | 030-01 | 蓋 | B | 13BC | SD701 | SD1 | 口:5.0 | 外:ロクロナデ 内:ロクロナデ・ナデ | 密 | 良 | 褐黄褐2.5Y5/4~オ リーブ褐 2.5Y4/3 内:にぶい赤褐色YR5/4 | 2/3 | 外面に文様あり |
| 122 | 027-01 | 陶器 有耳壺 | B | 25BC | SD701 | SD1 | 底:8.4 | 外:ケズリナデ・オサエ・ロクロナ デ 内:ロクロナデ | やや密、~3mmの砂粒を含む | 並 | 灰黄 2.5YR5/2 内:灰褐色YR5/2 | 底部 変形 | |
| 123 | 024-03 | 丸瓦 | B | 18BC | SD701 | SD1 | 厚:1.4 | 外:不整 内:不整 | やや密 | 良 | 灰 5Y6/1 | | |
| 124 | 032-01 | 石鍋 | B | 18BC | SD701 | SD1 | 口:22.8 | 外:ケズリ 内:ケズリ | | | 灰褐 10YR6/1 | 口縁 1/12 | 湯石製 |
| 125 | 044-05 | 土師器 土器 | B | 28B | SD727 | SD27 | 口:15.0 高:2.4 ~3.6 | 外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、~2mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 10YR7/4 | 口縁 1/2 | 4箇所の際孔あり |
| 126 | 044-04 | 土師器 土器 | B | 32B | SD727 | SD27 | 口:— | 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密、1.5mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 10YR7/3 | 口縁 1/12 以下 | 外面に煤付層 |
| 127 | 034-03 | 青磁 瓦 | B | 27C | SD703 | SD3 | 底:4.0 | 外:ロクロナデ後縁部 内:ロクロナデ後縁部 | 密 | 良 | 灰 5Y6/1 緑 オリーブ灰 2.5GY6/1 | 高台 1/4 | 内面に黒付痕 |
| 128 | 033-05 | 青磁 瓦 | B | 29C | SD703 | SD3 | 高台:5.6 | 外:ロクロナデ後縁部・紐ひ付け 高台 内:ロクロナデ後縁部 | 密、~1mmの砂粒を含む | 並 | 灰 5Y6/1 緑 オリーブ灰 10Y6/2 | 高台 1/2 | |
| 129 | 033-01 | 陶器 山形鉢 | B | 27C | SD703 | SD3 | 口:16.2 高:5.3 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ | やや密、~1mmの砂粒を含む | 良 | 灰黄 2.5Y6/1 | 口縁 5/12 | 高台に筋状痕 |
| 130 | 033-02 | 陶器 山形鉢 | B | 29C | SD703 | SD3 | 口:15.9 高:5.0 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ | やや密、~15mmの小 石を含む | 良 | 灰黄 2.5Y7/2 | 口縁 2/12 | 高台に筋状痕 |
| 131 | 033-03 | 陶器 山形鉢 | B | 26C | SD703 | SD3 | 高台:7.1 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰 2.5Y7/1 | 口縁 高台 1/12 | 高台に筋状痕 |
| 132 | 033-04 | 陶器 壺 | B | 29C | SD703 | SD3 | 底:8.9 | 外:ロクロナデ後縁部・ナデ 内:ロ クロナデ・オサエ | やや密、~2mmの砂粒を含む | 良 | にぶ黄褐10YR7/2 灰 灰オリーブ 5Y6/2 ~灰白 5Y7/2 | 底部 1/2 | |
| 133 | 033-06 | 漆器 小皿 | B | 29C | SD703 | SD3 | 口:— | 外:タタキ 内:同心円 | やや密、~4mmの小 石・砂粒を含む | 並 | 外:灰 7.5Y4/1 内:黒褐 10YR3/1 | 底部 小片 | |
| 134 | 034-01 | 土師器 土器 | B | 27C | SD703 | SD3 | 口:23.0 | 外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、~3mmの砂粒を含む | 並 | 外:にぶい黄褐 10YR7/ 4 内:黄褐色 10 YR6/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 |
| 135 | 034-02 | 土師器 土器 | B | 27C | SD703 | SD3 | 口:22.3 | 外:ケズリナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ケズリナデ・ヨコナデ | やや密、~2mmの砂粒を含む | 並 | 黄褐色 10YR8/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤付層 |
| 136 | 055-06 | 土師器 小皿 | A | 57C | SD848 | SD8 | 口:8.3 高:1.2 | 外:オサエ 内:ナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 並 | 黄褐色 7.5YR8/4 | 口縁 7/12 | |
| 137 | 055-07 | 土師器 皿 | A | 58C | SD848 | SD8 | 口:13.8 | 外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ | やや密、~3mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 10YR7/4 | 口縁 1/12 | |
| 138 | 055-08 | 陶器 山形鉢 | A | 58C | SD848 | SD8 | 高台:6.8 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ・ナ デ | 密、~1.5mmの砂粒を含む | 良 | 灰黄 2.5Y7/2 | 底部 5/12 | |
| 139 | 055-10 | 土師器 土器 | A | 58C | SD848 | SD8 | 口:— | 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 10YR7/4 | 口縁 小片 | |
| 140 | 055-09 | 土師器 土器 | A | 57C | SD848 | SD8 | 口:27.8 | 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 10YR7/4 | 口縁 1/12 | |
| 141 | 044-03 | 土師器 土器 | B | 33B | SD747 | SD47 | 口:— | 外:ヨコナデ 内:イタナデ・ヨコナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄褐 7.5YR7/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤、内面に炭化 物付層 |
| 142 | 044-02 | 陶器 山形鉢 | B | 33B | SD747 | SD47 | 高:7.1 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ | 密、~1.5mmの砂粒を含む | 良 | 灰白 10YR7/1 | 高台 変形 | |
| 143 | 044-01 | 陶器 山形鉢 | B | 33B | SD747 | SD47 | 口:15.7 高:5.3 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台 内:ロクロナデ | 密、2mmの砂粒を含む | 良 | 灰黄 2.5Y6/1 | 口縁 1/2 | 外面と内面の上部につ けが跡 |
| 144 | 045-03 | 土師器 小皿 | B | 15B | SK781 | SK81 | 口:7.0 高:1.0 | 外:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、2.5mmの砂粒を含む | 並 | 黄褐色 10YR8/3 | 口縁 1/3 | |
| 145 | 055-04 | 土師器 小皿 | A | 58C | SD847 | SK7 | 口:7.0 高:1.2 | 外:オサエ 内:ナデ | 密、~1mmの砂粒を含む | 並 | にぶい黄 7.5YR7/4 | 口縁 1/3 | 変形あり |
| 146 | 055-03 | 土師器 土器 | A | 58C | SD847 | SK7 | 口:— | 外:ヨコナデ 内:ナデ | 密、~3mmの砂粒を含む | 並 | 黄褐色 7.5YR8/3 | 口縁 小片 | |
| 147 | 055-02 | 陶器 山形鉢 | A | 54B | SK845 | SK5 | 高台:7.2 | 外:ロクロナデ・糸切り・紐ひ付け 高台ナデ 内:ロクロナデ | 密、~2mmの砂粒を含む | 良 | 灰白 5Y7/1 | 底部 1/6 | 高台に筋状痕 |
| 148 | 049-07 | 青磁 瓦 | B | 13C | SK785 | SK85 | 口:— | 外:泡眼(クロコ使用) 削出し高台 内:泡眼(クロコ使用) | 密 | | 灰 灰オリーブ7Y5/2 断:灰白 | 底部小片 | |

第7表 出土遺物観察表(4)

| 報告番号 | 遺構番号 | 遺構 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上法 | 法量(m) | 観察・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|------------|----|------|-------|------|--------------------------|---------------------------------|-----------------------|----|-------------------------------|------------|-----------------------|
| 149 | 049-08 | 青磁 | B | 36B | SK749 | SK49 | 口:— 内:施釉 内:施釉 | 内:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ | 密 | 良 | 灰白 釉:灰オリーブ | 口縁 小片 | |
| 150 | 043-05 | 陶器 山系類 | B | 20B | SK722 | SK22 | 口:8.0 高:1.4 | 内:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ | 密 | 良 | 灰白 N7/0 | 口縁 1/2 | |
| 151 | 043-06 | 陶器 山系類 | B | 20C | SK722 | SK22 | 高台:8.5 8-8.8 | 内:ロクロナデ・糸切り 起り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰白 2.5Y7/1 | 肩部 1/2 | |
| 152 | 043-02 | 土師器 類 | B | 20B | SK722 | SK22 | 口:22.4 | 内:ハケム・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、1~2mmの 砂粒を含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/4 に灰白層 5YR7/4 | 口縁 1/6 | |
| 153 | 043-07 | 青磁 小皿 | B | 20B | SK722 | SK22 | 口:10.8 高:2.1 | 内:ロクロナデ後施釉・糸切り 内:ロクロナデ後施釉 | 密 | 良 | 灰白 N 7/0 釉:灰オ リーブ7.5Y6/2 | 口縁 1/12 | |
| 154 | 045-01 | 白磁 煎 | B | 35B | SD76 | SD36 | 口:17.1 | 内:ロクロ使用 わずく施釉 内:ロクロ使用 わずく施釉 | 密 | 良 | 灰白 5Y7/1 | 口縁 1/12 | |
| 155 | 054-10 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:7.9 高:0.8 ~1.3 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、~1mmの砂粒含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 2/3 | |
| 156 | 054-03 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:8.0 高:0.6 ~1.7 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、~1.5mmの砂粒含む | 並 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 3/4 | 歪みあり |
| 157 | 054-05 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:8.0 高:0.6 ~2.0 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、~1mmの砂粒含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/2 | 口縁 寛存 | 歪みあり |
| 158 | 054-04 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:8.8 高:0.7 ~1.7 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | やや密、~1.0mmの 砂粒を含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 5/6 | 歪みあり |
| 159 | 055-01 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:7.7 高:1.3 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、~1mmの砂粒含む | 並 | 濁灰 10YR4/1 | 口縁 3/4 | |
| 160 | 054-08 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:7.4 高:1.2 | 内:オサエ 内:ナデ | 密、~1.5mm砂粒含む | 並 | に灰白層 10YR7/3 | 口縁 1/2 | |
| 161 | 054-07 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:7.6 高:1.9 | 内:オサエ・ナデ・ナデ | 密、~1.5mmの砂粒含む | 並 | 灰黄 2.5Y6/2 | 口縁 寛存 | |
| 162 | 054-09 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:12.5 | 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~3mmの砂 粒多く含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/3 | |
| 163 | 054-01 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:12.2 ~12.7 高:2.6 | 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~1.5mmの砂粒含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/4 | 口縁 寛存 | |
| 164 | 054-02 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:12.1 ~12.6 高:2.3 | 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~1mmの砂粒含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/4 | 口縁 寛存 | |
| 165 | 054-06 | 土師器 小皿 | A | 57C | SK846 | SK6 | 口:12.7 高:2.2 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密、微砂粒含む | 並 | 灰白 2.5Y8/2 | 口縁 1/4 | |
| 166 | 045-05 | 磁石 | B | 20C | SK707 | SK7 | 長18.1 幅8.3 厚1.9 | | | | 緑灰 10G6/1 | | 450g 元は打製石磁 の可能性あり |
| 167 | 049-04 | 陶器 山系類 | B | 16C | SK761 | SK61 | 高台:7.0 | 内:ロクロナデ・起り付け高台ナデ 内:ロクロナデ | 密 | 良 | 灰白 2.5Y7/1 | 肩部 1/12 | 高台に群聚層 |
| 168 | 045-04 | 陶器 山系類 | B | 20C | SK707 | SK7 | 高台:9.0 | 内:ロクロナデ・糸切り 起り付け 高台 内:ロクロナデ | 密、2.5mmの砂粒含む | 良 | 浅黄緑 10YR8/2 | 肩部 1/3 | 内面に炭化物層 |
| 169 | 049-02 | 青磁 煎 | B | 19B | SK723 | SK23 | 高台:6.0 | 内:施釉 煎(出合(施釉なし)) 内:ロクロナデ・後施釉 | 密 | 良 | 地:地オリーブ 5Y4/3 表:黄灰 2.5Y5/1 | 肩部 5/12 | |
| 170 | 050-04 | 陶器 山系類 | B | 7C | P99 | P99 | 高台:6.6 | 内:ロクロナデ・糸切り 起り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰黄 2.5Y6/1 | 肩部 寛存 | 高台に群聚層 |
| 171 | 056-03 | 土師器 小皿 | A | 52C | P94 | P94 | 口:8.6 高:1.4 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 並 | 灰黄 2.5Y7/2 | 口縁 1/2 | |
| 172 | 056-01 | 土師器 小皿 | A | 58C | Pk11 | Pk11 | 口:8.0 高:1.2 | 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | やや密 | 並 | に灰白層 10YR7/3 | 口縁 1/6 | |
| 173 | 048-06 | 土師器 大型鉢 | B | 14C | SD765 | SD65 | 口:— | 内:ヨコナデ 内:ヨコナデ | 密 | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 小片 | |
| 174 | 050-03 | 陶器 山系類 | B | 27C | P92 | P92 | 高台:7.0 | 内:ロクロナデ・糸切り 起り付け 高台 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰白 5Y7/1 | 肩部 7/12 | |
| 175 | 048-03 | 土師器 皿 | B | 14C | SK784 | SK84 | 口:11.0 | 内:ナデ 内:ナデ | 密 | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 | |
| 176 | 056-02 | 土師器 皿 | A | 58C | P94 | P94 | 口:11.0 | 内:ナデ 内:ナデ | 密 | 並 | に灰白層 10YR6/4 | 口縁 1/4 | |
| 177 | 056-04 | 土師器 皿 | A | 53C | Pk3 | Pk3 | 口:12.4 | 内:ナデ 内:ナデ | 密 | 並 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/3 | |
| 178 | 043-04 | 土師器 皿 | B | 10C | SK779 | SK79 | 口:12.1 高:1.3 | 内:ナデ 内:ナデ | やや密、1~2mmの砂 粒を含む | 並 | 浅黄緑 7.5YR8/4 | 口縁 5/6 | |
| 179 | 047-01 | 土師器 皿 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:12.9 高:2.1 | 内:ナデ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密、~3mmの砂 粒を含む | 並 | 浅黄緑 7.5YR8/4 | 口縁 5/6 | |
| 180 | 047-09 | 土師器 皿 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:12.2 高:1.8 | 内:ナデ 内:ナデ | やや密、~1mmの微 砂粒を含む | 並 | に灰白層 10YR7/4 | 口縁 1/6 | |
| 181 | 047-02 | 土師器 皿 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:11.8 高:2.5 | 内:一方肩ナデ・オサエ・ナデ 内:ナデ・オサエ | やや密、~1mmの微 砂粒を含む | 並 | 黄 2.5Y8/3 | ほぼ 寛存 | |
| 182 | 047-03 | 土師器 皿 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:11.6 高:2.4 | 内:ナデ・オサエ 内:ナデ | やや密、~1.5mmの微 砂粒を含む | 並 | 黄 2.5Y8/3 | ほぼ 寛存 | |
| 183 | 046-04 | 土師器 煎 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:28.0 | 内:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~1.5mmの微砂 粒を含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 に灰白層 10YR6/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 |
| 184 | 046-03 | 土師器 煎 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:26.0 | 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密、~1.5mmの微砂 粒を含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付層 |
| 185 | 046-01 | 土師器 煎蓋 | B | 12C | SK794 | SK94 | 口:32.0 | 内:ハケム・ヨコナデ 起り付け 内:ナデ | やや密、~2mmの砂 粒を含む | 並 | 灰白 10YR8/2 黄 10YR5/2 | 口縁 1/12 | 外面に煤付層 |

第8表 出土遺物観察表(5)

| 報告番号 | 登録番号 | 器種 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上方法 | 深さ(m) | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色類 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|------------|----|------|-------|-------|--|---|----------------------------|----|---|------------------|------------------|
| 186 | 039-03 | 土師器 鉢 | B | | SK753 | SK53 | 口15.0 | 外・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内・ヨコナデ | やや密 | 底 | 浅黄 2.5Y7/3 | 口縁 1/3 | |
| 187 | 039-04 | 土師器 皿 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口10.0 | 外・オサエ・ナデ 内・オサエ・ナデ | やや密、~3mmの砂粒 数1個含む | 底 | 灰に灰黄 10YR7/3 | 口縁 1/4 | |
| 188 | 040-01 | 土師器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口22.0 | 外・ナデ・オサエ・ハケメ・ヨコ ナデ 内・ケズリ・ナデ・オサエ・ヨ コナデ | 密、~0.5mmの砂粒 と2.5mmの小石含む | 底 | 外・灰白 10YR8/2 内・灰黄緑 10YR8/2 外・灰黄緑 10YR5/2 底 内・灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 3/4 1/6 | 外面に煤付着 |
| 189 | 038-01 | 土師器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口28.0 | 外・ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・オサエ・ヨコナデ | やや密 | 底 | 外・灰に灰黄緑 10YR7/3 底 内・灰に灰黄緑 10YR8/2 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 190 | 039-01 | 土師器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口26.0 | 外・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・オサエ・ヨコナデ | やや密 | 底 | 外・灰黄 10YR3/2 内・灰黄緑 10YR4/2 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 191 | 039-02 | 土師器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口27.6 | 外・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・オサエ・ヨコナデ | やや密 | 底 | 外・灰黄 10YR3/2 内・灰黄緑 10YR4/2 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 192 | 043-03 | 土師器 鉢 | B | 10C | SK779 | SK79 | 口21.2 | 外・ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内・ケズリ・ナデ・ヨコナデ | やや密、1~2mmの砂 粒含む | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 灰に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/3 | 外面に煤付着 |
| 193 | 043-01 | 陶器 鉢鉢 | B | 10C | SK779 | SK79 | 口26.3 | 外・ロクナデ 内・ロクナデ | やや密、1mm~2mm の砂粒含む | 底 | 灰黄 5YR5/2 | 口縁 1/2 | |
| 194 | 044-07 | 土師器 皿 | B | 9B | SD782 | SD82 | 口13.0 高2.0 | 外・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ | やや密、~2mmの砂 粒含む | 底 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/4 | 口縁1/3 |
| 195 | 042-04 | 土師器 皿 | B | 11C | SK800 | SK100 | 口11.7 高2.4 | 外・オサエ・ナデ 内・ナデ | 密 | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 3/4 | |
| 196 | 042-03 | 土師器 皿 | B | 11C | SK800 | SK100 | 口11.5 高2.0 | 外・オサエ・ナデ 内・ナデ | 密 | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 寛存 | |
| 197 | 042-02 | 土師器 鉢 | B | 11C | SK800 | SK100 | 口21.3 高11.6 | 外・ナデ・ケズリ・ハケメ・ヨコナ デ 内・ナデ・ケズリ・オサエ・ナ デ・ヨコナデ | やや密 | 底 | 灰に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 3/4 | 外面に煤付着 |
| 198 | 042-01 | 土師器 鉢 | B | 11C | SK800 | SK100 | 口21.3 | 外・ナデ・ケズリ・オサエ・ハケ メ・ヨコナデ 内・ケズリ・ナデ・ヨ コナデ | 密 | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 5/6 | 外面に煤付着 |
| 199 | 041-01 | 土師器 鉢 | B | 10C | SK800 | SK100 | 口20.0 | 外・ナデ・ケズリ・ハケメ・ナ デ・ヨコナデ 内・ナデ・ケズリ・ナ デ・オサエ・ヨコナデ | やや密、~0.5mmの 砂粒と黒粒含む | 底 | 外・浅黄緑 10YR8/3 底 内・灰に灰黄緑 10YR7/4 灰黄 10YR4/2 | 1月3日 | 外面に煤付着 内面に 黒灰 |
| 200 | 040-02 | 土師器 鉢 | B | 10C | SK800 | SK100 | 口22.0 | 外・オサエ・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | 密、~0.5mmの砂粒 と黒粒含む | 底 | 外・灰白 2.5Y7/1 内・浅黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/2 | 外面に煤付着 |
| 201 | 053-03 | 鉄釘 鉄線不明 | B | 10C | SK800 | SK100 | 長4.4 幅0.7 厚1.6 長3.4 幅0.4 厚0.4 | | | | | | 錆による劣化激しい |
| 202 | 053-04 | 鉄釘 | B | 10C | SK800 | SK100 | 長4.4 幅0.4 厚0.4 | | | | | | 錆による劣化激しい |
| 203 | 044-06 | 土師器 鉢 | B | 8B | SD782 | SD82 | 口— | 外・ヨコナデ 内・ヨコナデ | 密、2.5mmの砂粒多 く含む | 底 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 小片 | |
| 204 | 048-08 | 土師器 鉢 | B | 10C | SK798 | SK98 | 口— | 外・ヨコナデ 内・ヨコナデ | 密 | 底 | 灰白 2.5Y8/22 | 口縁 小片 | |
| 205 | 050-02 | 土師器 鉢 | B | 33B | P94 | P94 | 底9.6 | 外・ナデ 内・ナデ | やや密 | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 底部 1/6 | |
| 206 | 051-03 | 陶器 天目茶碗 | B | 21C | P95 | P95 | 口12.6 | 外・サビ粒・ケズリ 内・サビ粒 | やや密 | 底 | サビ粒に灰黄緑 7.5YR 5/3 黒地 灰黄 2.5Y7/2 | 口縁 1/6 | |
| 207 | 048-04 | 土師器 皿 | B | 18C | SK755 | SK55 | 口15.3 | 外・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | 密 | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 5/12 | |
| 208 | 048-07 | 土師器 鉢 | B | 18C | SK755 | SK55 | 口— | 外・ヨコナデ 内・ヨコナデ | 密 | 底 | 灰に灰黄緑 7.5YR7/4 | 口縁 小片 | |
| 209 | 038-02 | 土師器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | 口35.0 | 外・ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・オサエ・ヨコナデ | やや密 | 底 | 外・灰に灰黄緑 10YR7/3 底 内・灰黄緑 1 10YR8/2 | | 外面に煤付着 |
| 210 | 040-03 | 瓦瓦 | B | 13B | SK753 | SK53 | 厚1.7 | 外・ナデ 内・ヌメ・コビキ | 密 | 底 | 灰 NS/0 | | |
| 211 | 041-02 | 陶器 鉢 | B | 13B | SK753 | SK53 | — | 外・タタキ 内・オサエ・ナデ | 密、2~3mmの小石含 む | 底 | 灰黄 2.5Y5/1 | 底部 片 | |
| 212 | 047-05 | 陶器 鉢 | B | 19C | SD702 | SD2 | 高台3 5 | 外・ロクナデ・ロクナデ・ケズ リ出し高台・胎粒 内・胎粒 | やや密、~1.5mmの 微砂粒含む | 底 | 灰黄 2.5Y7/2 オリブ黄 5Y6/3 | 底部 4/12 | |
| 213 | 046-02 | 土師器 鉢 | B | 19C | SD702 | SD2 | 口30.0 | 外・ハケメ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | 密、~1mmの微砂粒 含む | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 214 | 047-07 | 青磁 鉢 | B | 26C | SD702 | SD2 | 口— | 外・胎粒 濃青絞 内・胎粒 | やや密、~1mmの微 砂粒含む | 底 | 明緑黄 7.5G7/1 | 口縁 小片 | |
| 215 | 047-06 | 陶器 鉢鉢 | B | 21C | SD702 | SD2 | 口— | 外・不明確 内・不明確 | やや密、~1mmの微 砂粒含む | 底 | 灰 5Y5/1 | 口縁 小片 | |
| 216 | 047-08 | 陶器 鉢 | B | 19C | SD702 | SD2 | 底18.0 | 外・胎粒 内・胎粒 | やや密、~1.5mmの 微砂粒含む | 底 | オリブ黄 7.5Y6/3 灰白 2.5Y7/1 | 底部 1/6 | |
| 217 | 049-03 | 土師器 山系碗 | B | 3B | SD810 | SD110 | 口17.5 | 外・ロクナデ 一部胎粒 内・ロクナデ 一部胎粒 | 密、~1mm、3mmの 砂粒含む | 底 | 胎粒 灰白 2.5Y8/2 胎粒 灰白 2.5Y8/1 | 口縁 1/6 | |
| 218 | 035-02 | 土師器 小皿 | B | 16C | SK754 | SK54 | 口8.5 高1.8 | 外・オサエ・ナデ 内・ナデ | 密、~1mm、3mmの 砂粒含む | 底 | 浅黄緑 7.5YR8/4 | 寛存 | 口縁部に油煙跡 灯明 皿 |
| 219 | 035-01 | 土師器 小皿 | B | 16C | SK754 | SK54 | 口7.6 高1.5 | 外・オサエ・ナデ 内・ナデ | 密、~1.5mmの砂粒 含む | 底 | 浅黄緑 10YR8/3 | 口縁 11/12 | 口縁部に油煙跡 灯明 皿 |
| 220 | 035-03 | 土師器 鉢 | B | 17B | SK754 | SK54 | 口19.7 | 外・ハケメ・ヨコナデ 内・オサエ・ナデ・ヨコナデ | 密、~1mmの砂粒含 む | 底 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/6 | 外面に煤、内面に炭化 物付 |
| 221 | 035-04 | 土師器 鉢 | B | 17B | SK754 | SK54 | 口27.4 | 外・ヨコナデ 内・ヨコナデ | やや密、~1.5mmの 砂粒多く含む | 底 | 灰に灰黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤付着 |
| 222 | 037-02 | 瓦瓦 | B | 18C | SK754 | SK54 | 厚1.6 | 外・不明確 内・ケズリ | 密、~1.5mmの砂粒 含む | 底 | 灰 NS/0 | | 残存長12.0 外径7.6 |

第9表 出土遺物観察表 (6)

| 報告番号 | 遺物番号 | 器種 | 地区 | 出土位置 | 出土遺構 | 取上時深続(m) | 遺物・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|-----------|----|------|----------------|--------------------|--|---------------------------|----|--|----------------|-----------|
| 223 | 035-06 | 陶器 山系鉢 | B | 16C | SK764 | SK54 | 高台 9.5 内:ロクロナデ・糸切り・貼り付け 高台後子デ | 密 | 灰白 | 2.5Y7/1 | 底部 1/3 | 高台に顔絵痕 |
| 224 | 035-05 | 陶器 山系鉢 | B | 17C | SK764 | SK54 | 高台 7.3 内:ロクロナデ・オサエ・ナデ 外:ロクロナデ・糸切り後子デ 貼り付け高台後子デ 内:ロクロナデ・一方角ナデ | 密 | 灰白 | 2.5Y7/1 | 底部 2/3 | |
| 225 | 036-01 | 土師器 鉢 | B | 16C | SK764 | SK54 | 口 28.4 内:ハケム・ヨコナデ 内:ハケムナデ・ヨコナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤付着 |
| 226 | 036-02 | 土師器 鉢 | B | 17C | SK764 | SK54 | 口 31.8 内:ハケム・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 227 | 036-04 | 土師器 羽釜 | B | 17C | SK764 | SK54 | 口 27.4 内:ヨコナデ・貼り付け露後ナデ 内:ヨコナデ | 密 | 黒 | にぶい黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/12 | 外面に煤付着 |
| 228 | 037-01 | 石鍋 | B | 18C | SK764 | SK54 | 口 44.5 内:ヘラクスリ・ケズリ 内:ケズリ・糸引き | | 灰緑 | 7.5YR8/2 | 口縁 1/12 | 石質・滑石 |
| 229 | 035-07 | 陶器 羽釜 | B | 17C | SK764 | SK54 | 底 10.0 内:ロクロナデ 糸切り 内:糸目 | 密 | 黒 | にぶい黄緑 10YR7/3 | 底部 1/3 | |
| 230 | 048-02 | 土師器 小皿 | B | 7B | SK825 | SK12 | 口 7.9 高 1.1 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 黒 | にぶい黄緑 10YR7/3 | 口縁 11/12 | |
| 231 | 048-01 | 土師器 小皿 | B | 17B | SK771 | SK71 | 口 7.8 高 0.6 厚 1.2 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 1/2 | |
| 232 | 052-03 | 陶器 鉢 | B | 20B | Pr7 (SA7) | Pr7 (SA2 9) | 口 — 内:工具ナデ・ナデ 内:工具ナデ・ナデ | やや粗 | 黒 | 黄緑 5YR5/2 | 底部 小片 | |
| 233 | 049-01 | 陶器 鉢 | B | 28B | SK728 | SK28 | 口 — 内:ヨコナデ 口縁上部に竹管痕 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | にぶい黄緑 5YR6/4 | 口縁 小片 | |
| 234 | 050-01 | 土師器 鉢 | B | 33B | P94 | P94 | 口 25.2 内:ケズリ・ハケム・ヨコナデ 内:ケズリ・工具ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | にぶい黄緑 10YR7/4 | 口縁 1/6 | 外面に煤付着 |
| 235 | 055-05 | 土質 器 | A | 52C | SD842 | SD2 | 高 5.4 幅 1.9 穴 0.5 内:オサエ・ナデ 内:口縁縁の焼き痕 | 密・微砂粒含む | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 寛存 | |
| 236 | 053-05 | 鉄製 釘 | B | 32B | Pr1 (SB12B) | Pr1 (SB12 9) | 長さ 7 幅 0.5 厚 0.5 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | | | | | 錆による変色激しい |
| 237 | 056-05 | 土師器 小皿 | A | 56B | | 自然剥 取 | 口 7.9 高 1.3 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 黒 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 寛存 | |
| 238 | 056-06 | 土師器 小皿 | A | 56C | | 自然剥 取 | 口 7.9 高 1.2 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 黒 | にぶい黄緑 10YR7/3 | 口縁 3/4 | |
| 239 | 056-07 | 土師器 小皿 | A | 56C | | 自然剥 取 | 口 13.1 内:オサエ・ナデ 内:ナデ | 密 | 黒 | 濃黄 5YR7/6 | 口縁 1/4 | |
| 240 | 056-08 | 土師器 小皿 | A | 56C | | 自然剥 取 | 口 14.0 高 2.8 内:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | 密 | 黒 | 外:灰黄緑 10YR5/2 内:にぶい黄 7.5YR7/ 4 | 口縁 1/4 | |
| 241 | 057-01 | 土師器 鉢 | A | 56C | | 自然剥 取 | 口 42.0 内:ナデ・ヨコナデ 内:ハケム・ヨコナデ | 密 | 黒 | 濃黄 2.5Y8/3 | 口縁 1/6 | |
| 242 | 057-02 | 曹石 | A | 56C | | 自然剥 取 | 幅 10.2 厚 2.9 穴径 3 口 7.2 高 1.2 内:ケズリ・露部加工 内:ケズリ | | 灰緑 | 7.5YR6/2 | 3/5 | |
| 243 | 059-06 | 土師器 小皿 | A | 57B | | 包含層 | 口 7.2 高 1.2 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 寛存 | |
| 244 | 059-04 | 土師器 小皿 | A | 57C | | 包含層 | 口 8.1 高 1.3 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ヨコナデ | やや密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 ほぼ 寛存 | 内面に工具あたり痕 |
| 245 | 059-05 | 土師器 小皿 | A | 63A | | 包含層 | 口 7.5 高 1.2 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | にぶい黄 7.5YR7/4 | 口縁 寛存 | |
| 246 | 058-03 | 土師器 皿 | A | 53B | | 包含層 | 口 14.2 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/3 | 口縁 3/4 | |
| 247 | 058-02 | 土師器 鉢 | A | 51B | | 包含層 | 口 27.0 内:ハケム・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/4 | |
| 248 | 051-01 | 土師器 鉢 | B | 12B | | 包含層 | 口 50.0 内:ハケム・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | 外:にぶい黄緑 10YR6/ 3 内:濃黄緑 1 0YR8/3 | 口縁 1/12 | |
| 249 | 051-04 | 陶器 花瓶 | B | 18C | | 包含層 | 底 8.0 内:ロクロナデ・胎盤 内:ロクロナデ | 密 | 黒 | 黒地 濃黄緑 10YR8/3 胎 オリブ黄 7.5Y6/3 | 底部 寛存 | |
| 250 | 059-01 | 陶器 山系鉢 | A | 53B | | 包含層 | 口 16.2 高 5.2 内:ロクロナデ 貼り付け高台へう り 内:ロクロナデ | 密 | 黒 | 灰白 NS/0 | 口縁 11/12 | |
| 251 | 059-02 | 陶器 山系鉢 | A | 53B | | 包含層 | 口 16.2 ~16.6 高 5.3 内:ロクロナデ 貼り付け高台 口 コケズリ 内:ロクロナデ | 密 | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 底部 11/12 | |
| 252 | 059-03 | 陶器 山系鉢 | A | 51B | | 包含層 | 高台 7.9 内:糸切り 貼り付け高台 内:ロクロナデ | 密 | 黒 | 灰白 2.5Y7/1 | 底部 1/6 | |
| 253 | 061-03 | 陶器 三足鉢 | A | 56B | | 包含層 | 高台 12 内:ロクロナデ・貼り付け高台に 指環痕 内:ロクロナデ | 密 | 黒 | 黄灰 2.5Y6/1 | 底部 1/12 | |
| 254 | 061-02 | 陶器 片口鉢 | A | 57B | | 包含層 | 口 31.0 高 14.7 内:ロクロナデ・ケズリ・ナデ・貼り 付け高台後子デ 内:使用痕・露 部 | やや密・1mmの砂粒と 3~6mmの小石含む | 黒 | 外:灰白 7.5Y7/1 内:灰 5Y6/1 | 口縁 1/6 | |
| 255 | 058-01 | 土師器 鉢 | A | 51B | | 包含層 | 口 41.1 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 黒 | 濃黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/6 | |
| 256 | 052-02 | 陶器 壺 | B | 27C | | 包含層 | 底 21.2 内:工具ナデ・ナデ 内:ナデ | やや密 | 黒 | 灰緑 5YR5/2 | 底部 小片 | 底部に敷瓦痕 |
| 257 | 061-01 | 陶器 壺 | A | 60C | | 包含層 | 口 63.6 内:ロクロナデ・ケズリ・ナデ・貼り 付け高台後子デ 内:ロクロナデ・オサ エ・ナデ・露部加工 内:ケズリ | 密 | 黒 | 灰緑 7.5YR4/2 | 口縁 1/12 | |
| 258 | 052-01 | 石鍋 | B | 20C | | 包含層 | 口 24.6 内:ケズリ・露部加工 内:ケズリ | | 灰緑 | 7.5YR6/2 | 口縁 1/12 | 石質・滑石 |
| 259 | 060-01 | 丸瓦 | A | 51B | | 包含層 | 幅 11.5 厚 1.8 内:ナデ・ケズリ 内:ヌメ・ケズリ | 密 | 黒 | 灰 NS/0 | | |

第10表 出土遺物観察表 (7)

V 第5次調査

1 調査の経過と方法

岩出遺跡群第5次調査は平成15年10月27日～31日に本調査として清水地区で行われた。最終調査面積は100㎡である。調査の契機は、「I 前言」に記述した通りである。この調査の経過を調査日誌等により辿ると以下である。

- 10月27日 表土掘削開始・包含層掘削開始
10月28日 遺構検出・南壁土層断面図作成
遺構平面実測図作成
10月29日 南壁土層断面図作成
写真撮影（調査区全景・個別遺構・調査区南壁北壁土層）

調査区の設定としては、調査区面積が狭く南北が約3mで東西に細長い関係上、4mごとにA1～F1までの杭を直線状一列に打ち、杭～杭間を小地区（グリッド）として西側杭で各地区（A1グリッド、B1グリッド…）を表した。（A1グリッドより東はZ1グリッドとした。）

掘削完了後に、遺構平面実測図を1/50で、土層断面実測図を1/20で作成した。出土遺物類の回収、遺物類の整理・記録、発掘記録類の保管は、岩出遺跡群第8次調査の方法と同じである。（「I 前言」を参照）

2 調査の成果

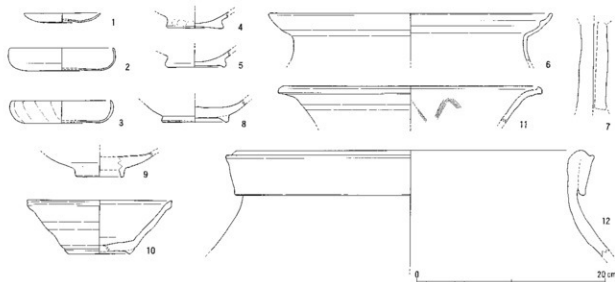
基本層序としては、第1層が褐灰色土（耕作土）、第2層が浅黄橙色土（床土：貼り床）、第3層が黒褐色土（包含層1）、第4層が赤黒色土（包含層2、礫多く含む）、第5層が褐灰色土（包含層3）である。第5層の下が地山面で遺構がみられた。

遺構は、ピットと土坑（SK601）と溝（SD602）であった。SK601は幅0.75m、長さ1.7m、深さ0.68mである。SD602は、幅0.5m、長さ1.2m、深さ0.31mである。これら遺構からは遺物は出

なかったため時期は不明である。

遺物は、包含層から出土した。平安末～鎌倉時代・室町時代の土師器・陶器・輸入陶器等が出土した。

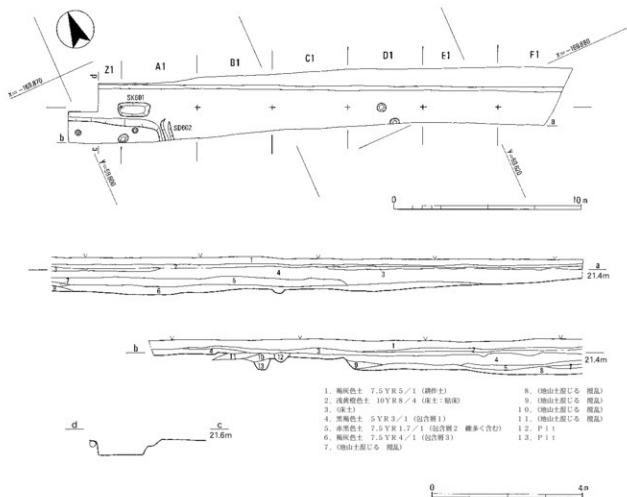
1～3は、土師器皿である。4・5は土師器椀である。6は土師器鍋で、南伊勢系である。第3段階aに相当する。7は土師器高杯である。8・10は陶器山茶椀である。8は渥美・湖西型第6型式に、10は尾張型第6型式に相当する。9は青磁椀である。11は陶器鉢で、常滑産である。12は陶器甕である。



第24図 出土遺物実測図（12）（1：4）

| 報告 番号 | 登録番号 | 器種 | 地区 | 出土 位置 | 出土 遺構 | 取上時 層序名 | 流量(cm) | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|----------|--------|-----------|----|----------|----------|-----------------|--------------------------------|-----------------------|----|---------------------------|------------|-----------|----|
| | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 063-08 | 土師器 皿 | | D1 | 包含層 | 口:8.0 高:1.0 | 外・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内・ナ デ・ヨコナデ | やや粗、～2mmの砂 粒を含む | 量 | 灰白 10YR8/2 | 口縁 1/2 | | |
| 2 | 063-06 | 土師器 皿 | | D1 | 包含層 | 口:11.0 高:2.4 | 外・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや粗、～1.5mmの 微砂粒を含む | 量 | 淡黄橙 N4/ | 口縁 1/4 | | |
| 3 | 063-07 | 土師器 皿 | | D1 | 包含層 | 口:10.4 高:2.4 | 外・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | やや密、～1mmの微 砂粒を含む | 量 | 灰白 2.5Y8/2 | 口縁 1/4 | | |
| 4 | 063-05 | 土師器 椀 | | Z1 | 包含層 | 底:6.0 | 外・ナデ・ヨコナデ・ナデ 内・ナデ | 密、～1mmの微砂粒 を含む | 量 | 淡黄橙 10YR8/4 橙 2.5YR6/6 | 底部 3/4 | | |
| 5 | 063-03 | 土師器 椀 | | A1 | 包含層 | 底:6.3 | 外・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ | 密 | 量 | 橙 5YR7/6 | 底部 2/3 | | |
| 6 | 062-02 | 土師器 鉢 | | Z1 | 包含層 | 口:30.0 | 外・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ | 粗、～2.5mmの砂粒 を含む | 量 | 淡黄橙 10YR8/3 | 口縁 1/12 | | |
| 7 | 062-04 | 土師器 高杯 | | C1 | 包含層 | — | 外・ナデ | やや密、～3mmの砂 粒を含む | 量 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 口縁 1/12 | 残存長:9.0cm | |
| 8 | 063-01 | 陶器 山茶碗 | | A1 | 包含層 | 高台:7.1 | 外・ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ | やや粗、～2mmの砂 粒を含む | 量 | 灰白 2.5Y7/1 | 口縁 1/12 | | |
| 9 | 063-04 | 青磁 碗 | | A1 | 包含層 | 底:5.2 | 外・施釉 内・施釉 | やや密、～1mmの微 砂粒を含む | 量 | 灰 7.5Y5/1 灰 5Y5/1 | 底部 1/4 | | |
| 10 | 063-02 | 陶器 山茶碗 | | D1 | 包含層 | 口:15.2 高:9.6 | 外・ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ | やや粗、1.5mmの微 砂粒を含む | 量 | 灰黄 2.5Y6/2 | 口縁 1/12 | | |
| 11 | 062-03 | 陶器 鉢 | | C1 | 包含層 | 口:28.0 | 外・施釉 内・施釉 | やや密、～1mmの微 砂粒を含む | 量 | オリーブ黄 5Y6/3 | 口縁 1/6 | | |
| 12 | 062-01 | 陶器 壺 | | A1 | 包含層 | 口:39.0 | 外・回転ナデ・ヨコナデ 内・回転ナデ | やや粗、7mmの小石 を含む | 量 | にぶい赤褐 2.5YR4/3 | 口縁 1/6 | | |

第11表 出土遺物観察表 (8)



第25図 第5次調査区遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)

VI 第7次調査

1 調査の経過と方法

岩出遺跡群第7次調査は、本発掘調査として平成16年3月2日～3月9日にケカノ辻地区で行われた。調査面積は、65㎡ある。

調査の契機は、「I 前言」の所に書いた通りである。

この調査の経過を調査日誌等により辿ると以下である。

- 3月2日 表土掘削開始・包含層掘削開始
- 3月3日 遺構検出開始・遺構掘削開始
- 3月4日 遺構掘削
- 3月8日 調査区西壁・北壁土層断面実測図作成
個別遺構実測図・北壁土層断面実測図作成
- 3月9日 平板測量で遺構平面略図作成
写真撮影（調査区全景・個別遺構・調査

区西壁北壁土層）

調査区の設定としては、4m正方の柵目で区切ることにより小地区（グリッド）単位であらわした。東西方向をアルファベット（大文字）で西から東へA～Fとした。また南北方向をアラビア数字で南から北へ100・101とした。そして、A100グリッド、A101グリッド・・・としていった。

遺構検出段階で1/40の略測図（遺構カード）を作成した。掘削完了後には、遺構平面略図を平板測量により1/100で、および土層断面実測図を1/20で、個別遺構実測図を1/20で作成した。

出土遺物類の回収、遺物類の整理・記録、発掘記録類の保管は、岩出遺跡群第8次調査の方法と同じである。（「I 前言」を参照）

2 調査の成果

(1) 基本層序

調査区の現況地は平坦な畑地であった。

基本層序としては、第1層が黒色土（新耕作土）、第2層がオリーブ黒色土（旧耕作土）、第3層が黒褐色土（包含層）、第4層が黄色土（地山）である。包含層は旧耕作土のために残りは少なかった。遺構は、第3層下の地山面にみられた。

(2) 遺構

遺構としては、調査区南東側のD101、D102、E101、E102グリッドを中心にピットを多数確認した。各ピットの大きさは、径0.1～0.5m、深さ0.01～0.4mの円形及び楕円形のものほとんどである。これらピットからは遺物は出なかったので時期は不明である。

その他、検出時及び掘削時には、調査区北壁側の3基の土坑と思われるもの、及びB100、B101グリッドにある溝と思われるものは、遺構ではなくて全て現代の掘乱跡であった。

多数のピットであるが、柱穴と判断できる柱痕のあるものはみられなかった。ゆえにそれらがどういう性格のものであるかは判断しづらいが、欄跡等が含まれている可能性もあろう。

(3) 遺物

遺物は、表土掘削において現代の掘乱跡から、平安末～鎌倉・室町時代の土師器、陶器、貿易陶器、瓦等が出土した。

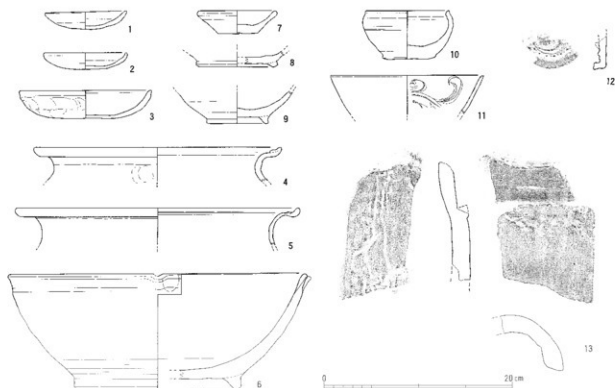
出土遺物について述べる。

1・2は土師器小皿で、南伊勢系である。1については底部中央が上に盛り上がっている。2は、口縁部は他よりも厚く、底部から口縁部への立ち上がりは丸みを帯びながらも急で口縁の曲がりはやや内側に入る。3は土師器皿で、南伊勢系である。底部から口縁にかけての立ち上がりは丸みを帯びながらも急である。4・5は土師器鍋で、南伊勢系である。いずれも第1段階に相当する。6は陶器片口鉢である。7は陶器山皿である。口縁部に自然釉がかかっ

ていて、完存品である。

8・9は陶器山茶椀である。8は尾張型、9は渥美・湖西型と思われる。10は陶器小型鉢である。口

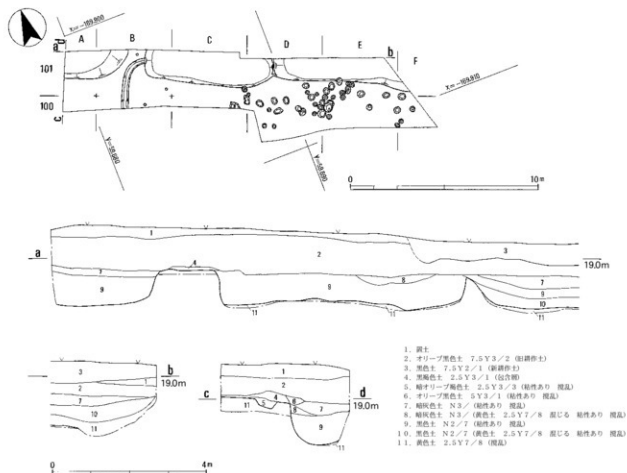
縁径8.9cm、高さ5.1cmである。内側には自然軸がかかっている。11は青磁椀で龍泉窯系である。12は軒丸瓦である。巴紋と朱紋帯がある。13は丸瓦である。



第26図 出土遺物実測図(13)(1:4)

| 報告番号 | 登録番号 | 器種 | 地区 | 出土位置 | 出土遺物 種別 | 取上時 層序名 等 | 法量(cm) | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|------|--------|-----------|----|------|------------|-----------------|------------------|---|-------------------|----|--------------------------------|------------|---------|
| 1 | 064-04 | 土師器 小皿 | | C101 | | 攪乱 | 口:8.7 高:1.8 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや粗 | 並 | 浅黄緑 10YR8/4 | 口縁 3/4 | |
| 2 | 064-03 | 土師器 小皿 | | | | 裏土 層削 | 口:8.8 高:1.8 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 並 | 黄灰 2. 5Y4/1 | 口縁 1/6 | |
| 3 | 064-05 | 土師器 皿 | | E101 | | 攪乱 | 口:14.0 高:2.9 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:一方ナデ・ヨコナデ | やや粗、~1mmの砂 粒含む | 並 | 浅黄緑 10YR8/4 | 口縁 1/4 | |
| 4 | 065-03 | 土師器 鉢 | | D101 | | 攪乱 | 口:26.2 | 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや粗、~2mmの砂 粒含む | 並 | 灰黄濁 10YR5/2 | 口縁 1/12 | |
| 5 | 065-02 | 土師器 鉢 | | | | 裏土 層削 | 口:30.1 | 外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ | やや粗、~1mmの砂 粒含む | 並 | にぶい黄緑 10YR7/3 | 口縁 1/12 | |
| 6 | 065-01 | 陶器 片口鉢 | | A101 | | 攪乱 | 口:31.6 高:12.1 | 外:ロクロナデ・ロクロケズリ・ナ デ・起り付け高台後ナデ 内:ロ クロナデ | 密、~2mmの砂粒含 む | 良 | 黄灰 2. 5Y6/1 | 口縁 1/6 | |
| 7 | 064-01 | 陶器 山皿 | | E101 | | 攪乱 | 口:8.4 高:2.4 | 外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰白 2. 5Y7/1 | 完存 | 口縁部に自然軸 |
| 8 | 064-07 | 陶器 山茶椀 | | D101 | | 攪乱 | 高台:8.6 | 外:糸切り・起り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰黄 2. 5Y6/2 | 口縁 5/12 | |
| 9 | 064-06 | 陶器 山茶椀 | | E101 | | 攪乱 | 高台:6.5 | 外:ロクロナデ・糸切り 起り付け 高台後ナデ 内:ロクロナデ | やや密 | 良 | 灰白 5Y7/1 | 口縁 3/4 | |
| 10 | 064-02 | 陶器 小皿鉢 | | C101 | | 攪乱 | 口:8.9 高:5.1 | 外:ロクロナデ・糸切り 内:自然軸 | 密 | 良 | 黄灰 2. 5Y6/1 褐7. 5YR4/3 | 口縁 1/4 | |
| 11 | 064-08 | 青磁 椀 | | E101 | | 攪乱 | 口:16.0 | 外:ロクロナデ後造胎 内:ロクロナデ後造胎 | 密 | 良 | 灰白 5Y7/1 釉:明オリブ灰 5GY7/ 1 | 口縁 1/6 | |
| 12 | 066-02 | 軒丸瓦 | | | | 裏土 層削 | 径:一 | 外:巴紋・朱文帯 内:ナデ | やや密 | 良 | にぶい黄緑 10YR6/3 | | |
| 13 | 066-01 | 丸瓦 | | | | 裏土 層削 | 厚:1.7 | 外:不明焼 内:ナデ・ヨコナデ | やや密 | 良 | 黄灰 2. 5Y6/1 | | |

第12表 出土遺物観察表(9)



第27図 第7次調査区遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:200)

Ⅶ 結語

1 SD701について

平成16年度に行われた第8次調査で検出された、細長いB地区全体を西から東に通る大溝SD701の性格については、第一に区画用であることが考えられる。

この調査区と近い位置にある平成2年度のケカノ辻・角垣内地区での第3次調査は、道路建設予定地の南北に細長い調査区で行われた。その調査では、中世12世紀後葉～15世紀中葉の区画溝と思われる東西に走ると考えられる大溝の一部が多数確認されて、昭和18年当時の地割地図との照合の結果は、ケカノ辻・角垣内地区での整合性については良好であった⁵。今回はこれら大溝と同類のもの的一条が長い範囲にわたって検出され、先の調査で分からなかったこれら大溝の様子が明らかにされてきたと考えられよう。

実際にこの大溝は、岩出小字清水と中角小字向井との字界に沿って通っていることから、区画が古い時代から現代まで引き継がれている傾向を考えると、区画用の溝であったことが考えられる。

その他には、農業用としても考えられる。実際にこの溝の南側は現在も田畑であり、この溝の水が当時の農業用水として使われたことが考えられる。

水の流れについて言えば、B地区西端には、愛宕山北山裾から続くと考えられるSD735、SD736、SD741などの溝が、SD701にほぼ直行の形で交わる。つまり山裾から湧き出た水がこれらの溝を通じて、SD701に流れこんだわけである。しかし、この落ち込み辺りは高度からみると山裾でも分水嶺あたりであり、水は東側だけでなく西側にも分けて流れていったと考えられる。東側に流れる水は農業用水として使われたと考えられる。ただし東側の水の流れを追っていくと、水の流れを妨げるような溝の低部が一段高くなった堰状の盛り上がりも数箇所見られる。これは日照りのときには堰と堰との間が溜まり水になり、日照り時の灌漑用水になった可能性なども考えられよう。

またSD701では溝底部を中心に、12世紀後葉～14世紀前葉を中心とする11世紀～16世紀にかけての大量の中世土器が出土した。これは3に掲載した表でわかるようにこの調査で出土した全土器数の約38%にあたる。日用品である山茶碗や土師器小皿・皿・鍋などが多かったが、この大溝は不要品を捨てる廃棄土場の役割も果たしていたといえよう。

2 掘立柱建物、柵について

第8次調査区で検出された掘立柱建物で全ての柱穴が検出されたものは、山裾にあるA地区のSB849のみである。それは規模的に小さい。時期はこれを構成するピットから土師器小片が出て中世のものと判断できるが、詳しい時期は不明である。

B地区では、掘立柱建物と判断したものはSB732、SB733、SB734、SB829、SB832、SB833と、どれも調査区のほぼ中央を端から端まで通るSD701の南側にある。しかもそれら掘立柱建物の柱列が調査区外南方に延びるため全体を構成する柱列は不明である。建物の時期については、SB

732を構成するピットから土師器小片が出たのでこれについては中世の建物と判断できるが、さらに詳しい時期については不明である。

しかしこれらの建物は、平成2年度の第3次調査で確認された建物の方角ともほぼ同じであって、面積的にはいずれも大規模なものでないが、人が住む広さを持った中世の人家であったと考えられる。今回の調査で出土した遺物の豊富さから考えるとB地区内は集落の一部にあたるといえ、これら掘立柱建物は確認されている岩出中世集落の北西に位置した建物の一部であったといえよう。

櫛は、SA729を構成するピットから土師器小片が出土し中世のものと判断できる以外は時期不明で

ある。近くの掘立柱建物との平行関係はみられないことから、櫛ではなくて櫛と判断した。

3 遺物について

第8次調査の出土遺物については、土器組成を調べるために器種カウントを行った²⁾。(土器のみで、それ以外の鉄製品や石製品等は除く)それを調査区全体(A地区とB地区の合計)の出土遺物と、大溝SD701の出土遺物についてまとめ表にした。

調査区全体では、個体換算で671.77個体であった。それを質類別の割合でみてみると、土師器78.13%、陶器20.84%、磁器1.02%であった。全点数のうちの点数割合で多い器種は、土師器皿(南伊勢系)の33.15%、土師器小皿(南伊勢系)の33.27%、陶器山茶碗の18.61%、土師器鍋(南伊勢系)の10.19%であった。

この結果は、土師器皿・小皿・鍋と山茶碗が主体で、その他、割合は少ないが、瀬戸・常滑・渥美産の陶器や、青磁などの貿易陶器も含まれるのは、平成2年度の第3次調査の遺物内容とも同傾向と言え、またこれは南勢地方の中世を中心とした遺跡の出土遺物内容とも同傾向といえる。

大溝SD701だけについてみれば、個体換算で255.36個体であった。それを質類別の割合でみてみると、土師器70.92%、陶器27.94%、磁器1.14%であった。全点数のうちの点数割合で多い器種は、土師器皿(南伊勢系)の36.68%、陶器山茶碗の25.98%、土師器小皿(南伊勢系)の20.97%、土師器鍋(南伊勢系)の12.18%であった。全体の割合との対比からは、同器種の数値には幾分差はあるものの、SD701の土器組成も調査区全体と概ねは同傾向といえる。

遺物を時期の点から見れば、SD701の遺物は、時間的には12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃までの土師器皿・小皿(南伊勢系)が多く出土した。また土師器鍋(南伊勢系)でも大半が同時期に属するもので、一部が中世のそれ以前とそれ以後の時期のものであった。山茶碗では、尾張型第6型式と、渥美・湖西型第6型式Ⅲの1に相当するものが多く出土したが、これらも同時期に含まれる。さら

| 質類 | 器種 | 採用部位 | カウント点数 | 個体換算数 | 比率(%) | |
|-----|-----------|------|--------|--------|-------|-------|
| | | | | | 個別 | 質類別 |
| 土師器 | 鍋(南伊勢系) | 口縁 | 821.5 | 68.46 | 10.19 | 78.13 |
| | 羽釜(南伊勢系) | 口縁 | 48.3 | 4.03 | 0.60 | |
| | 茶釜(南伊勢系) | 口縁 | 11.0 | 0.92 | 0.14 | |
| | 皿(南伊勢系) | 口縁 | 2672.5 | 222.71 | 33.15 | |
| | 小皿(南伊勢系) | 口縁 | 2682.4 | 223.53 | 33.27 | |
| | その他(南伊勢系) | 底部 | 50.5 | 4.21 | 0.63 | |
| | 皿(その他産) | 口縁 | 12.0 | 1.00 | 0.15 | |
| | 山茶碗 | 底部 | 1500.5 | 125.04 | 18.61 | |
| | 山皿 | 底部 | 59.0 | 4.92 | 0.73 | |
| | 練鉢 | 底部 | 40.5 | 3.38 | 0.50 | |
| 陶器 | 平椀(瀬戸産) | 口縁 | 6.0 | 0.50 | 0.07 | 20.84 |
| | 天目(瀬戸産) | 口縁 | 2.0 | 0.17 | 0.03 | |
| | 播鉢(瀬戸産) | 口縁 | 1.0 | 0.08 | 0.01 | |
| | その他(瀬戸産) | 底部 | 32.0 | 2.67 | 0.40 | |
| | 甕(常滑産) | 底部 | 13.0 | 1.08 | 0.16 | |
| | 壺(常滑産) | 底部 | 13.0 | 1.08 | 0.16 | |
| | 練鉢(常滑産) | 底部 | 9.0 | 0.75 | 0.11 | |
| | 甕(渥美産) | 底部 | 1.0 | 0.08 | 0.01 | |
| | 壺(渥美産) | 底部 | 4.0 | 0.33 | 0.05 | |
| | 青磁・椀 | 底部 | 70.0 | 5.83 | 0.87 | |
| | 青磁・小皿 | 底部 | 8.0 | 0.67 | 0.10 | |
| | 白磁・椀 | 口縁 | 3.0 | 0.25 | 0.04 | |
| | 青白磁・合子 | 口縁 | 1.0 | 0.08 | 0.01 | |
| | 計 | | 8061.2 | 671.77 | 99.99 | |

第13表 第8次調査区土器組成

| 質類 | 器種 | 採用部位 | カウント点数 | 個体換算数 | 比率(%) | |
|-----|-----------|------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | | 個別 | 質類別 |
| 土師器 | 鍋(南伊勢系) | 口縁 | 373.3 | 31.11 | 12.18 | 70.92 |
| | 羽釜(南伊勢系) | 口縁 | 19.3 | 1.61 | 0.63 | |
| | 茶釜(南伊勢系) | 口縁 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | 皿(南伊勢系) | 口縁 | 1124.0 | 93.67 | 36.68 | |
| | 小皿(南伊勢系) | 口縁 | 642.6 | 53.55 | 20.97 | |
| | その他(南伊勢系) | 底部 | 2.0 | 0.17 | 0.07 | |
| | 皿(その他産) | 口縁 | 12.0 | 1.00 | 0.39 | |
| | 山茶碗 | 底部 | 796.0 | 66.33 | 25.98 | |
| | 山皿 | 底部 | 18.0 | 1.50 | 0.59 | |
| | 練鉢 | 底部 | 25.0 | 2.08 | 0.81 | |
| 陶器 | 平椀(瀬戸産) | 口縁 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | 27.94 |
| | 天目(瀬戸産) | 口縁 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | 播鉢(瀬戸産) | 口縁 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | その他(瀬戸産) | 底部 | 2.0 | 0.17 | 0.07 | |
| | 甕(常滑産) | 底部 | 1.0 | 0.08 | 0.03 | |
| | 壺(常滑産) | 底部 | 12.0 | 1.00 | 0.39 | |
| | 練鉢(常滑産) | 底部 | 2.0 | 0.17 | 0.07 | |
| | 甕(渥美産) | 底部 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | 壺(渥美産) | 底部 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | 青磁・椀 | 底部 | 28.0 | 2.33 | 0.91 | |
| | 青磁・小皿 | 底部 | 5.0 | 0.42 | 0.16 | |
| | 白磁・椀 | 口縁 | 2.0 | 0.17 | 0.07 | |
| | 青白磁・合子 | 口縁 | 0.0 | 0.00 | 0.00 | |
| | 計 | | 3064.2 | 255.36 | 100.00 | |

第14表 大溝SD701土器組成

に輸入陶器の青磁碗も龍泉窯系のがほとんどであったが、時期的には同時期に含まれるものが主であった。

SD701以外の遺構の出土遺物についても、同じく同時期に属するこれら遺物が主で、つまり調査区全体の遺物が同時期に含まれるものが主であった。

出土遺物の傾向としては、近接する平成2年度のケカノ辻・角垣内地区での第3次調査区の出土遺物と器種的、時期的にもほぼ同傾向といえる。

つまり、遺物を使っていた年代の中心が12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃（鎌倉時代を中心とした時期）にあるといえる。

また石製品である石鍋・温石は、第3次調査に統

き出土した。温石は鎌倉での出土例は多いが、特に伊勢地方での出土例は極めて珍しい。2度の発掘を通して出土したことで、岩出遺跡群が伊勢地方の温石の代表的出土地といえるのではないだろうか。

ところで、この第8次調査のB地区の東延長上ごく近くにある第5次調査区と第7次調査区からはそれぞれ包含層、及び表土と攪乱層からではあるが、第8次調査区と土器組成的には同内容の遺物が出土した。

これら調査区の面積は少ないので出土遺物も量的には少ないが、これらの調査区も近接地ゆえに、同一の土器組成傾向を持つととらえればよい。

4 岩出中世集落について

過去の発掘から岩出中世集落は12世紀中葉～13世紀初頭頃から形成され始めて、13世紀後葉～14世紀前葉が集落の最盛期であったと考えられている⁹。今回の発掘で出土した中世の12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃を中心とした大量の遺物は、岩出中世集落の発展・繁栄の時期と一致し、また人家と考えられる掘立柱建物複数検出されたことから、岩出中世集落の居住地が清水地区にある第8次調査区のB地区にまで広がっていたことが確認された。

この岩出中世集落は過去の発掘では近畿自動車道付近の左部地区・所り垣地区からその北側のケカノ辻・角垣内地区の各調査区まで確認されたが、それが今回の調査でさらに広がっていたことが分かった。ゆえに、今回の3調査の発掘があった一般農道整備事業玉城南地区の道路建設予定地と、愛宕山東側山麓、近畿自動車道、県道岩出新田線で囲まれる範囲を始め、それがさらに広がっていた可能性も高い。つまり、清水・ケカノ辻・角垣内・左部の未発掘地も、岩出中世集落であった可能性が大きい。岩出の北東を中心に広がる現集落は昔から人の定住には適するところであり、それゆえに当時も集落が広がっていた可能性が高いことを考えると、当時の岩出中世集落の集落範囲は、現集落の倍以上の広

さを持つ大きな集落の可能性も出てくる。

〔註〕

① 伊藤裕彦『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会部玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1994

② 遺物器種カウントは、表の器種についてカウント部位を決め、その部位を12分割する形で、その残りが分母12（完形の場合）に対して分子が幾つ残るのかを、分子の点数で表して調べることをした。

（カウント部位）

土師器鍋・皿・小皿・その他…口縁

土師器羽釜・茶釜…口縁と鈿

上記以外の器種…口縁と底部

なお、カウントを2つの部位で行った器種は、数値の多いほうを採用した。個別換算数については「カウント点数÷12」で計算し、その数値は少数第3位を四捨五入し少数第2位まで求めた。個別の比率（%）は、「対象となる個体換算数÷個体換算数の合計」で求めて、少数第3位を四捨五入し少数第2位まで求めた。なお、表下欄の合計は、全て縦列の合計である。

③ 前川富宏ほか『蚊山遺跡左部地区』（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993）

写 真 图 版

図版 1 第 8 次調査区 (1)



A地区・B地区（航空写真）



A地区全景（西から）

図版 2 第 8 次調査区 (2)



B地区全景（東から）



B地区西側（西から）

図版3 第8次調査区各遺構(1)



S D701他遺構 (22~29B・Cグリッド付近 北西から)



S D701他遺構 (28~34B・Cグリッド付近 西から)

図版4 第8次調査区各遺構(2)



S D701他遺構(23~29B・Cグリッド付近 西から)



S D701他遺構(9~20B・Cグリッド付近 西から)

図版5 第8次調査区各遺構(3)



土坑(SK)群(18~23B・Cグリッド付近 西から)



遺物出土状況(SK800 SK779 南から)

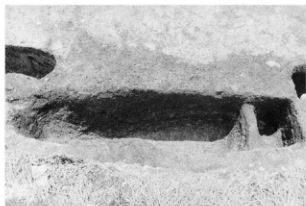
図版6 第8次調査区各遺構(4)



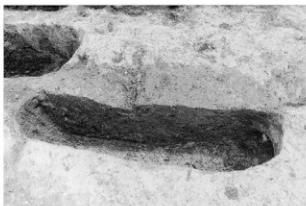
遺物出土状況 (SK 800 南から)



SD 701土層 (i-jライン 東から)



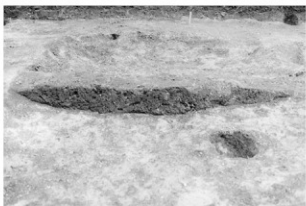
SK 707 (半切 南から)



SK 712 (半切 南から)



SD 841 (北から)



SD 843 (土層ベルトを残した段階 北から)

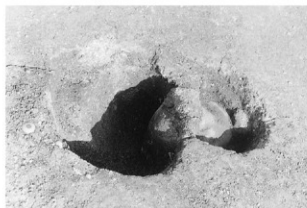


遺物出土状況 (SK 846 南から)



SB 732他遺構 (北から)

図版 7 第 8 次調査区各遺構 (5) ・ 第 7 次調査区



20B グリッドPit 2 (SB732) (半切 西から)



37B グリッドPit 12 (SB833) (半切 南から)



S A 731 (西から)

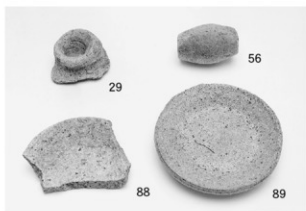
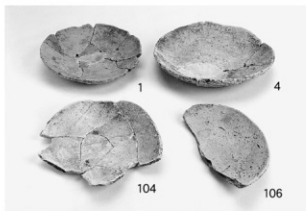


S A 730 (南から)

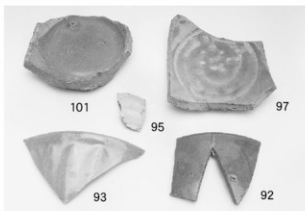
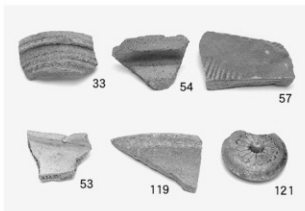
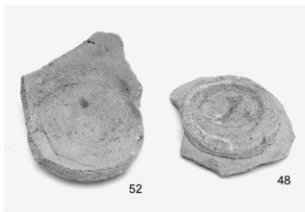


第 7 次調査区全景 (東から)

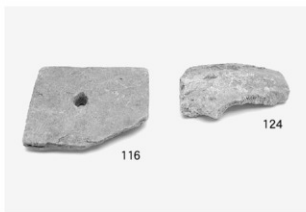
図版8 第8次調査区出土遺物(1)



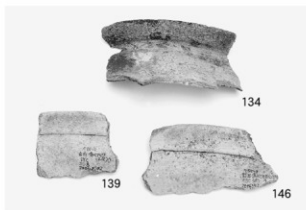
図版9 第8次調査区出土遺物(2)



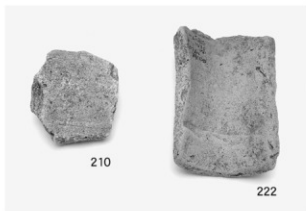
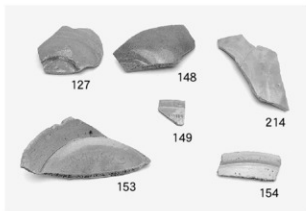
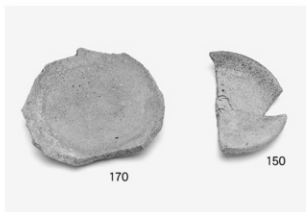
図版10 第8次調査区出土遺物(3)

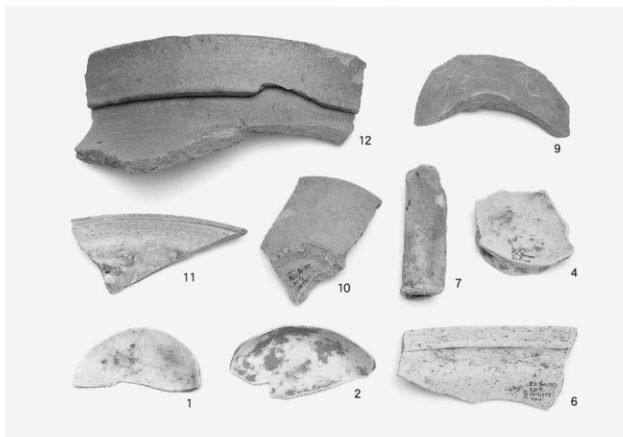


図版11 第8次調査区出土遺物(4)

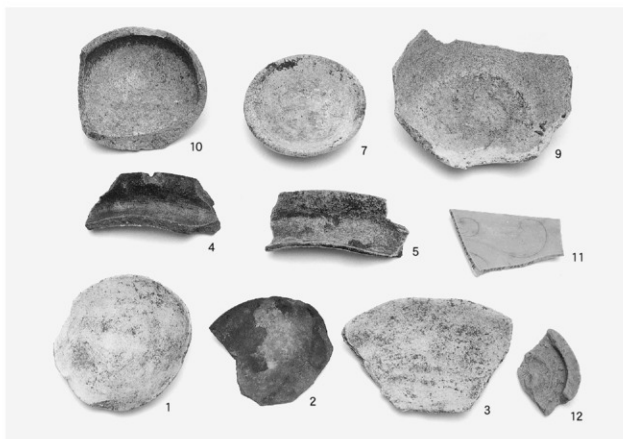


図版12 第8次調査区出土遺物(5)





第5次調査区出土遺物



第7次調査区出土遺物

報告書抄録

| ふりがな | いわいでせきぐん(だいで、なな、ほちじ)はつくつちようきほうこく | | | | | | | |
|------------------------------|--|---------------|------|--------------------|--------------------|---|-------|---|
| 書名 | 岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 三重県埋蔵文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 267 | | | | | | | |
| 編著者名 | 木本勝己 | | | | | | | |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel. 0596-52-1732 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2006年3月22日 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | ° / ' / " | ° / ' / " | | | |
| いわいでせきぐん 岩出遺跡群 (第5次調査) | みえけんわたらいぐんたまきちよう 三重県度会郡玉城町 いわであびさきよみず 岩出字清水 | 461 | 302 | 34° 28' 01" | 136° 38' 57" | 20031027 ～ 20031031 | 100㎡ | 平成15年度一般農道整備事業 玉城南部地区に伴う本調査 |
| 岩出遺跡群 (第7次調査) | 三重県度会郡玉城町 つじ 岩出字ケカノ辻 | 461 | 302 | 34° 27' 59" | 136° 38' 59" | 20040302 ～ 20040309 | 65㎡ | 平成15年度一般農道整備事業 玉城南部地区に伴う本調査 |
| 岩出遺跡群 (第8次調査) | 三重県度会郡玉城町 岩出字清水 | 461 | 302 | 34° 28' 03" | 136° 38' 52" | 20040520 ～ 20040813 | 1645㎡ | 平成16年度一般農道整備事業 玉城南部地区に伴う本調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 岩出遺跡群 (第5次調査) | 集落跡 | 鎌倉、室町時代 | | 溝、土坑、柱穴 | | 土師器皿・鉢、陶器山茶碗 | | 岩出遺跡群の旧称は蚊山遺跡。近くに中世伊勢神宮祭主の居館があったと推定され、5次～8次の調査地はそれに付随する集落地の一部である。 |
| 岩出遺跡群 (第7次調査) | 集落跡 | 鎌倉、室町時代 | | 土坑、柱穴 | | 土師器皿・鉢、陶器山茶碗・甕、青磁・青磁、瓦 | | |
| 岩出遺跡群 (第8次調査) | 集落跡 | 平安時代末～鎌倉・室町時代 | | 土坑、大溝、溝、柱穴、掘立柱建物、櫓 | | 土師器皿・鉢・羽釜、陶器山茶碗、陶器鉢・甕、青磁・白磁、石鍋、温石、土鏝、鉄製品(全重量141.6 kg) | | 全長約130mの大溝が検出された。 |
| 岩出遺跡群 (第5次調査) | 当遺跡は、宮川左岸の低位～中段段丘にある岩出地区内全域に広がる岩出遺跡群の北西端に位置する。宮川用水管理設時の擾乱のために検出した遺構は少なかったが、溝と柱穴を確認した。小さな面積であるが集落の一端を確認することができた。 | | | | | | | |
| 岩出遺跡群 (第7次調査) | 鎌倉・室町時代の柱穴群や「土取り」と考えられる擾乱などが見つかった。小さな面積であるが集落の一端を確認することができた。 | | | | | | | |
| 岩出遺跡群 (第8次調査) | 溝、大溝、柱穴、掘立柱建物、櫓が出たが、遺物から鎌倉時代を中心として平安時代末から室町時代にかけての遺構といえる。特にB地区で確認された大溝は、調査区の東西を端から端まで通る約130mあまりの大きなもので、農業用の他、区画用にも使われていたと考えられる。この溝の底部を中心に、鎌倉時代を中心とした中世の遺物が大量に出土した。この溝の南側には掘立柱建物が確認されたことから、当遺跡も過去の発掘で明らかにされた岩出中世集落の一部であると考えられる。 | | | | | | | |

三重県埋蔵文化財調査報告 267

岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告
～三重県度会郡玉城町岩出所在～

2006(平成18)年3月

編集発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 備山文印刷
